

宜野座村子ども・子育て支援に 関するアンケート調査報告書

平成31年3月
宜野座村

目 次

就学前児童調査

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	実施主体	1
3.	調査対象	1
4.	調査基準日	1
5.	調査期間	1
6.	調査の方法	1
7.	配布・回収状況	2
8.	集計・表示について	2
II	調査結果の報告	3
1.	居住地区	3
2.	家族の状況	3
(1)	子どもの年齢	3
(2)	世帯の子どもの人数	4
(3)	父母の年齢	5
(4)	回答者・配偶関係	5
(5)	子育てを主に行っている方	6
3.	子どもの育ちをめぐる環境	6
(1)	子育て（教育）に関わっている人・施設（複数回答）	6
(2)	子育て（教育）に影響する環境（複数回答）	7
(3)	子どもをみてもらえる環境（複数回答）	7
(4)	子育てをする上で気軽に相談できる相手・場所	10
4.	保護者の就労状況	11
(1)	母親の就労状況	11
(2)	父親の就労状況	20
(3)	家庭類型区分	23
5.	平日の定期的な教育・保育の事業の利用状況	25
(1)	定期的な教育・保育の事業の利用	25
(2)	平日に利用している教育・保育の事業（複数回答）	27
(3)	教育・保育の事業の利用日数	28
(4)	教育・保育の事業の利用時間	30
(5)	教育・保育の事業の利用開始時間・終了時間	31
(6)	教育・保育の事業の利用希望日数・希望時間	32
(7)	教育・保育事業の利用開始時間・終了時間の希望	34

(8) 教育・保育の事業の実施場所	35
(9) 教育・保育の事業を利用している主な理由（複数回答）	35
(10) 教育・保育の事業を利用していない理由（複数回答）	37
(11) 教育・保育の事業を利用しない子どもの年齢	37
(12) 認定こども園の周知度	38
(13) 定期的に利用したい教育・保育の事業（複数回答）	39
(14) 教育・保育の事業を利用したい場所	43
(15) 幼稚園利用希望の強さ	43
6. 地域の子育て支援事業の利用	44
(1) 子育て支援センターの利用状況	44
(2) 子育て支援センターの利用回数	44
(3) 子育て支援センターの利用希望	45
(4) 子育て支援センターの利用希望回数	46
(5) 子育て支援事業の周知及び利用等	47
7. 土曜・休日や長期休暇中の教育・保育の事業の利用希望について	49
(1) 土曜日の利用希望	49
(2) 日曜日・祝日の利用希望	51
(3) 土曜日、日曜・祝日に教育・保育の事業をたまに利用したい理由（複数回答） ...	52
(4) 長期休暇における教育・保育の事業の利用希望	55
(5) 長期休暇における教育・保育の事業をたまに利用したい理由（複数回答）	56
8. 子どもが病気などの際の対応について	56
(1) 病気やケガによる事業の利用の有無	56
(2) 病気やケガで事業が利用できなかった時の対処方法（複数回答）	57
(3) 病児・病後児施設等の利用意向	59
(4) 病児・病後児保育施設等の希望する事業形態（複数回答）	60
(5) 病児・病後児保育施設等を利用したいと思わない理由（複数回答）	60
(6) 父母のいずれかが仕事を休んで看ること	62
(7) 仕事を休んで看することは非常に難しい理由（複数回答）	63
9. 不定期の教育・保育の事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について	63
(1) 不定期の教育・保育の事業の利用状況（複数回答）	63
(2) 不定期に教育・保育の事業を利用していない理由（複数回答）	64
(3) 不定期の教育・保育の事業の利用希望	65
(4) 不定期の教育・保育の事業の利用目的・利用希望日数（複数回答）	66
(5) 利用したい不定期の教育・保育の事業の形態（複数回答）	68
(6) 泊りがけで子どもを家族以外にみてもらったこと	69
(7) 泊りがけで家族以外に子どもをみてもらった時の対処方法	70

10. 小学校就学後の放課後の過ごし方	71
(1) 放課後に過ごさせたい場所（複数回答）	71
(2) 放課後児童クラブの土曜日、休日の利用希望	77
(3) 長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望	81
(4) 放課後児童クラブを利用しない理由（複数回答）	83
11. 育児と仕事の両立支援制度について	84
(1) 育児休業の取得状況	84
(2) 育児休業を取得していない理由（複数回答）	85
(3) 育児休業取得後の職場復帰	86
(4) 1歳になるまでの育児休業の取得希望（母親）	86
(5) 実際の育児休業取得期間と希望との違い	87
(6) 希望の時期に職場復帰しなかった理由（母親：複数回答）	87
(7) 職場復帰した実際の時期と希望の時期の子どもの年齢（母親）	88
12. そのほかの子育てに関すること	89
(1) 子育てで感じていること	89
(2) 子育てに関して日常悩んでいること（複数回答）	90
(3) 仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じること（3つまで回答）	92
(4) 子育て支援への期待（複数回答）	95
III 保護者自由意見・要望等	97
1. 子育てをする上で、身近な人や行政担当者などからのサポートについて	97
2. 子育ての環境や支援に関する意見・要望等	100

小学生児童調査

I 調査の概要	111
1. 調査の目的	111
2. 実施主体	111
3. 調査対象	111
4. 調査基準日	111
5. 調査期間	111
6. 調査の方法	111
7. 配布・回収状況	112
8. 集計・表示について	112
II 調査結果の報告	113
1. 地域と小学校	113
(1) 居住地区	113
(2) 通っている小学校	113

2. 家族の状況	114
(1) 子どもの学年・世帯の子どもの人数	114
(2) 回答者・配偶関係	114
3. 保護者の就労状況	115
(1) 母親の就労状況	115
(2) 父親の就労状況	115
4. 放課後の過ごし方及び放課後児童クラブ	116
(1) 放課後の過ごし方	116
(2) 放課後児童クラブの利用状況	121
(3) 放課後児童クラブの平日、土曜、日曜・祝日、長期休暇中の利用状況	122
(4) 現在利用している放課後児童クラブに感じていること（複数回答）	123
(5) 放課後児童クラブを利用していない理由（複数回答）	123
(6) 放課後児童クラブの利用を希望する学年（複数回答）	124
(7) 放課後児童クラブの平日、土曜、日曜・祝日、長期休暇中の利用希望について（複数回答） ..	125
5. 地域活動など	126
(1) 子ども同士の交流の場等の希望（複数回答）	126
(2) よく利用している公共施設	126
(4) 地域活動やグループ活動への参加状況	128
(5) 今後参加させたい地域活動やグループ活動（複数回答）	130
III 保護者自由意見・要望等	131

●就学前児童調査

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、「第2期宜野座村子ども・子育て支援事業計画」の策定に伴い、本村の子どもの教育・保育に関わる現状や子育てのニーズを把握するなど、計画の策定に必要な基礎資料を得ることを目的に実施しました。

2. 実施主体

宜野座村 健康福祉課

3. 調査対象

- ・調査は、就学前児童のいる世帯の保護者に対し行いました。
- ・ニーズ把握の対象となる就学前児童は、1世帯についてそれぞれ1人だけとし、複数の就学前児童がいる世帯については、いずれか1人を無作為で選び対象としました。

4. 調査基準日

平成30年12月1日現在

5. 調査期間

平成31年2月8日～平成31年3月8日

6. 調査の方法

- ・村内の保育所(園)、幼稚園に在籍する子については、在籍する保育所(園)、幼稚園を通じて調査票の配布・回収を行いました。
- ・村内の保育所(園)、幼稚園に在籍していない子については、郵送により調査票の配布・回収を行いました。

7. 配布・回収状況

調査票の全体の配布数は 285 件、回収数は 148 件で、回収率は 51.9%となります。

子どもの年齢別の回収率では、「2 歳」が 63.5%と最も高く、「6 歳」が 37.7%と最も低くなります。「6 歳」を除く各年齢で 50%を上回っています。

年齢層別アンケート配布・回収状況（就学前）

年齢層	配布数	回収数	回収率
全体	285	148	51.9
0 歳	19	8	42.1
1 歳	38	20	52.6
2 歳	52	33	63.5
3 歳	41	23	56.1
4 歳	36	19	52.8
5 歳	40	23	57.5
6 歳	59	22	37.3

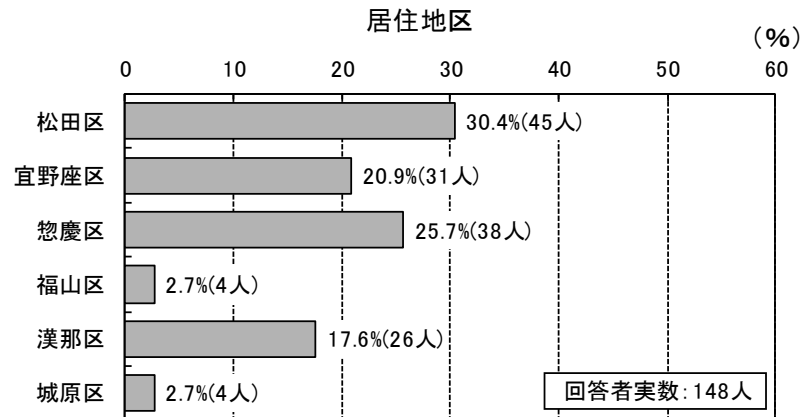
8. 集計・表示について

- (1) 集計は単純集計と子どもの年齢及び回答者の属性によるクロス集計を行いました。
- (2) 比率は、小数点以下第 2 位を四捨五入しています。このため比率を合計しても 100.0%とならないことがあります。
- (3) 複数回答の設問については、比率の合計が 100%を超えることがあります。
- (4) 結果が分かり易いようグラフ及びクロス表については、クロス項目の「無回答」を除いて表示する場合があります
- (5) ここで言う「子ども」とはニーズ把握の対象となる子を指します。
- (6) 「無回答」には回答がなかったもの及び回答の判別が困難(不明)なものを含みます。
- (7) 帯グラフの左端の()内は回答者実数を表します。
- (8) 報告書の文章や図表において、選択肢の一部を省略して記載している場合があります。

Ⅱ 調査結果の報告

1. 居住地区

回答者の居住地区は、「松田区」が30.4%と最も高く、次に「惣慶区」が25.7%、「宜野座区」が20.9%となります。また、「福山区」と「城原区」が2.7%と最も低くなります。



2. 家族の状況

(1) 子どもの年齢

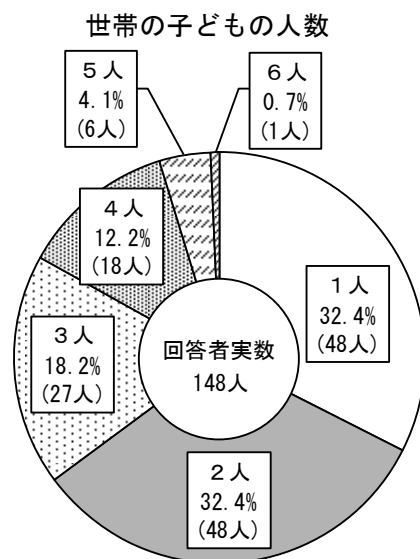
ニーズ把握の対象となる子どもの年齢は、「2歳」が22.3%と最も高く、「0歳」が5.4%と最も低くなります。そのほかの年齢については、13%程度から15%程度と、ほぼ同程度の割合となります。

子どもの年齢	
0 歳	5.4% (8 人)
1 歳	13.5% (20 人)
2 歳	22.3% (33 人)
3 歳	15.5% (23 人)
4 歳	12.8% (19 人)
5 歳	15.5% (23 人)
6 歳	14.9% (22 人)
回答者実数	148 人

(2) 世帯の子どもの人数

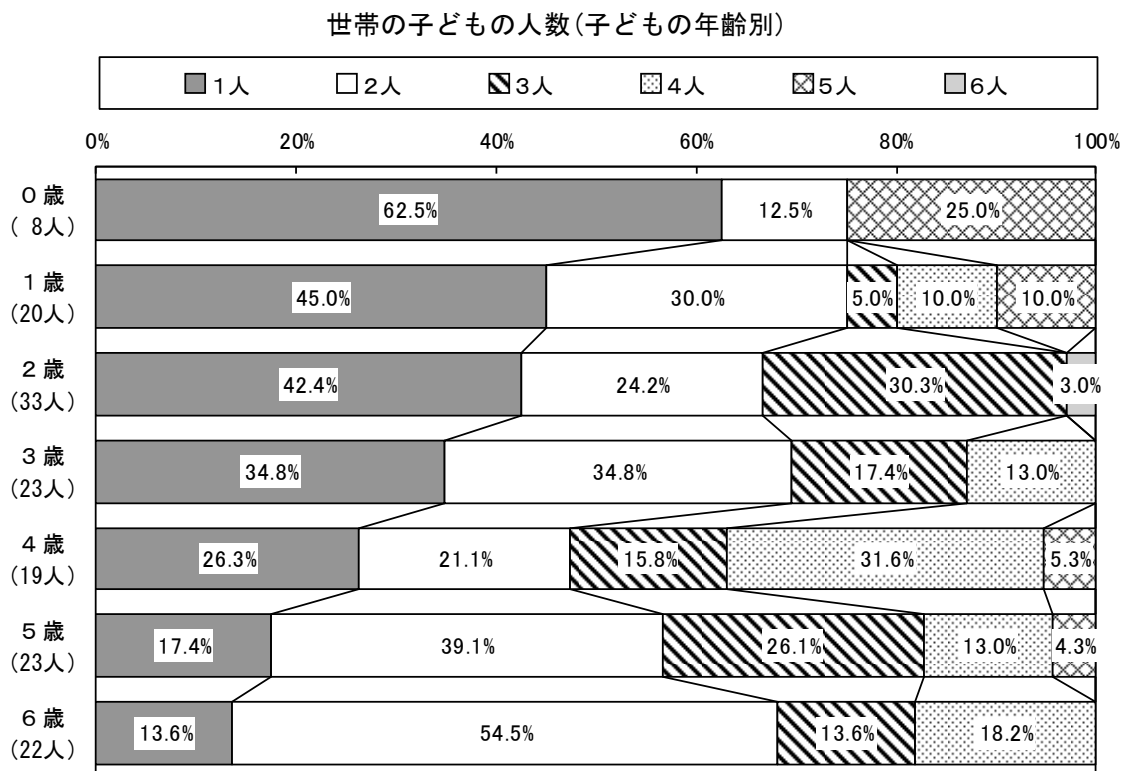
きょうだいの人数(調査対象の子を含む)は、「1人」と「2人」が32.4%と最も高く、次に「3人」が18.2%となります。

子どもの人数は「6人」が最多で、1世帯あたりの子どもの人数(平均)は、2.25人となります。



子どもの人数を、子どもの年齢との関係でみると、子どもの人数が「1人」は、「0歳」が62.5%と最も高く、子どもの年齢が高いほど割合は低くなり、「6歳」が13.6%と最も低くなります。

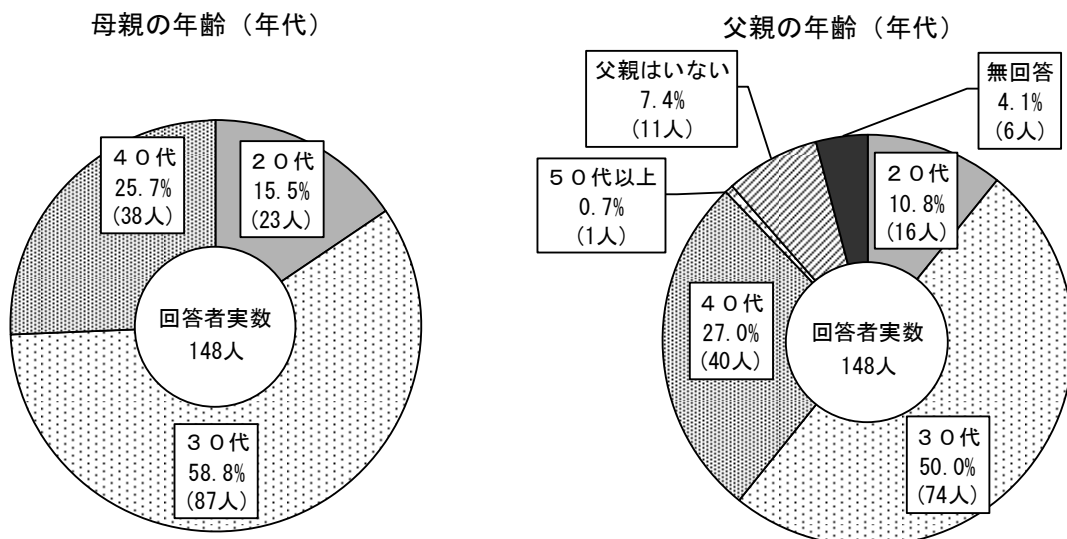
一方、子どもの人数が「2人」は、「6歳」が54.5%と最も高く、次に「5歳」が39.1%で、「0歳」が12.5%と最も低くなります。また、「1歳」から「4歳」では、20%程度から30%程度の割合となります。



(3) 父母の年齢

「母親」の年齢は、「30代」が58.8%と6割近くを占め、次に「40代」が25.7%、「20代」が15.5%となります。

「父親」の年齢は、「30代」が50.0%と最も高く、次に「40代」が27.0%、「20代」が10.8%となります。また、「父親はいない」が7.4%となります。

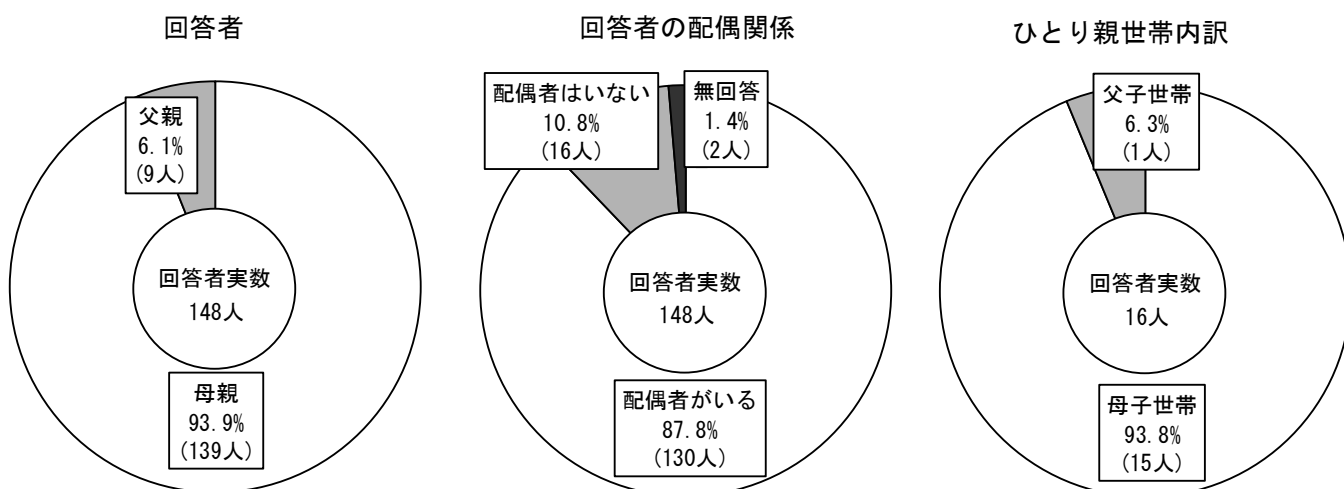


(4) 回答者・配偶関係

回答者は「母親」が93.9%、「父親」が6.1%となります。

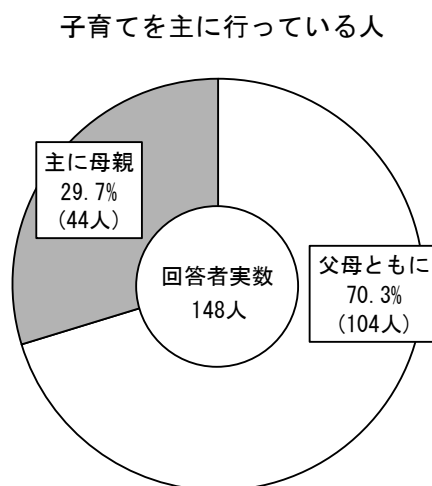
また、回答者の配偶関係については、「配偶者がいる」が87.8%、「配偶者はいない」が10.8%となります。

「配偶者はいない」と答えたひとり親世帯の内訳としては、「母子世帯」が93.8%、「父子世帯」が6.3%となります。



(5) 子育てを主に行っている方

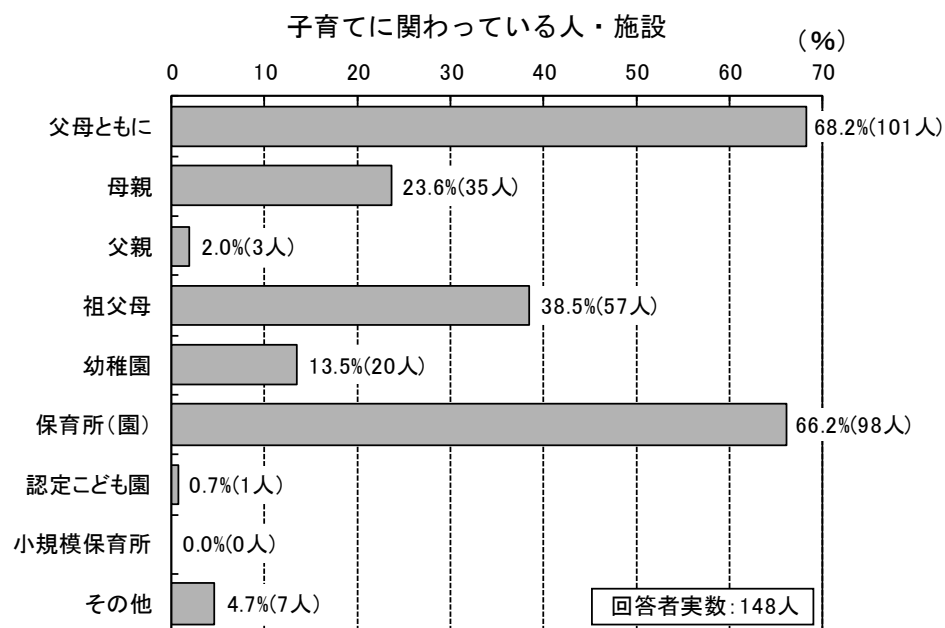
子育て(教育を含む)を主に行っているのは、「父母ともに」が70.3%で、子育てに参加している父親が多いことがわかります。次に「主に母親」が29.7%となります。



3. 子どもの育ちをめぐる環境

(1) 子育て(教育)に関わっている人・施設(複数回答)

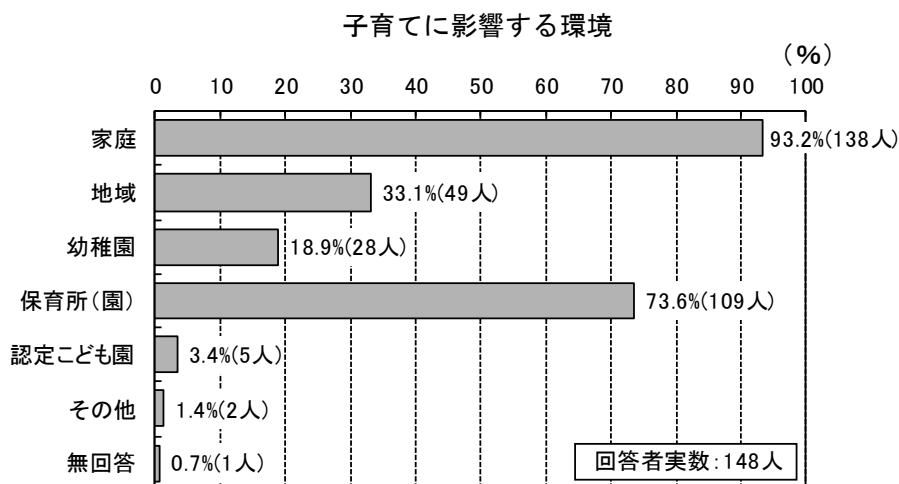
お子さんの子育て(教育を含む)に日常的に関わっている方または施設については、「父母ともに」が68.2%と最も高く、次に「保育所(園)」が66.2%、「祖父母」が38.5%となります。



(2) 子育て（教育）に影響する環境（複数回答）

お子さんの子育て（教育を含む）に、特に影響すると思われる環境については、「家庭」が93.2%と最も高く、保護者のほとんどが家庭環境の影響を意識しています。次に「保育所（園）」が73.6%となります。

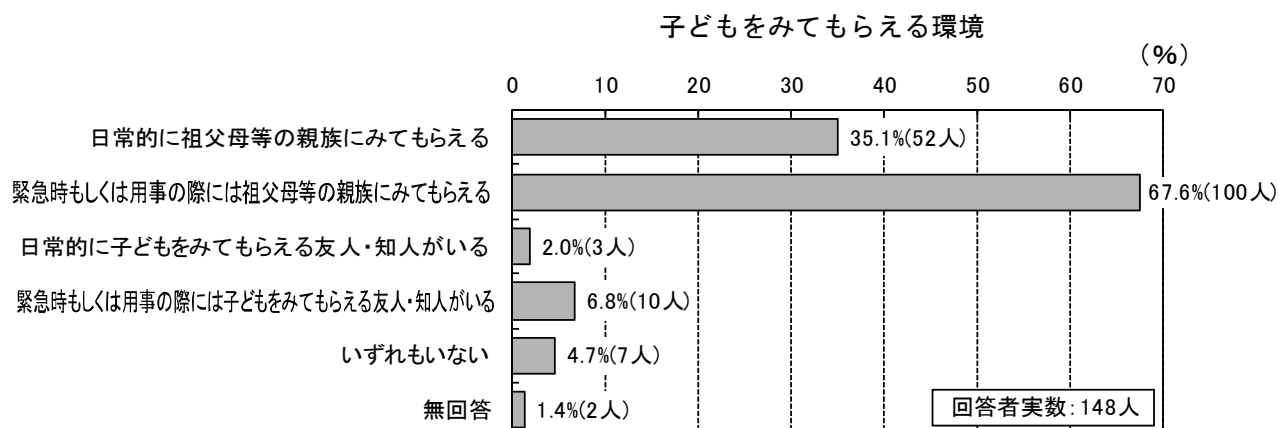
また、「地域」が33.1%、「幼稚園」が18.9%となります。



(3) 子どもをみてもらえる環境（複数回答）

日頃、子どもをみてもらえる親族・知人については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が67.6%と最も高く、次に「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が35.1%で、日常的に親族がみてくれる家庭は3割程度ですが、緊急時や用事の際には7割近くがみてもらうことができます。

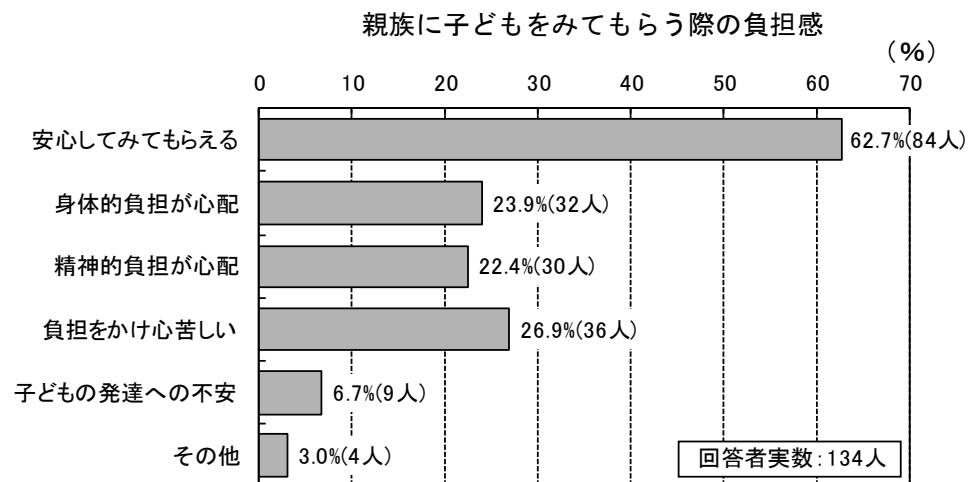
一方、友人・知人にみてもらえる家庭は、緊急時でも6.8%と低率です。また、みてもらえる親族や知人は「いずれもない」が4.7%となります。



1) 親族に子どもをみてもらう際の負担感（複数回答）

日常的または緊急時に祖父母等の親族にみてもらえると答えた保護者が、実際にみてもらう際の負担感については、「安心してみてもらえる」が62.7%と最も高く、次に「負担をかけ心苦しい」が26.9%となります。

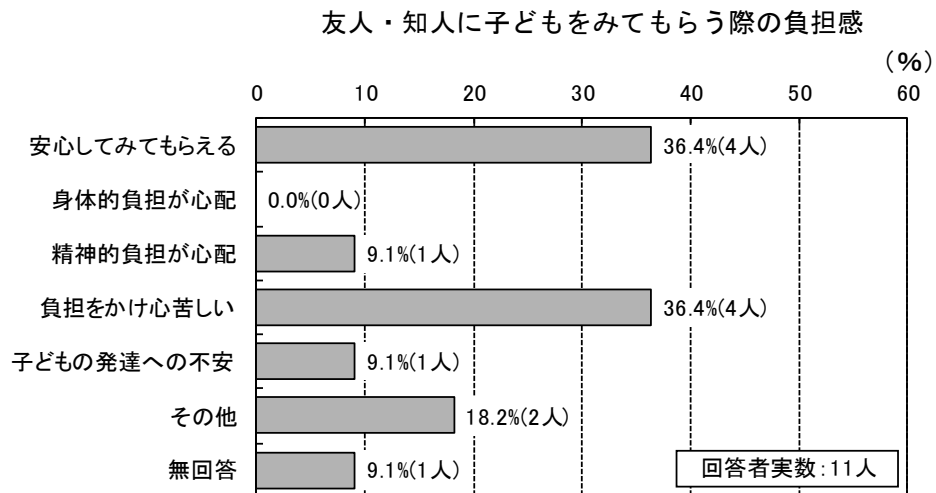
一方、「子どもの発達への不安」が6.7%あり、保護者の子育ての考え方などが、親族と異なることで、子どもに良い影響を与えないのではないかと、不安に思っていると推測します。



選択肢の略称	選択肢の内容
安心してみてもらえる	祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる
身体的負担が心配	祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である
精神的負担が心配	祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である
負担をかけ心苦しい	自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい
子どもの発達への不安	子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある

2) 友人・知人に子どもをみてもらう際の負担感（複数回答）

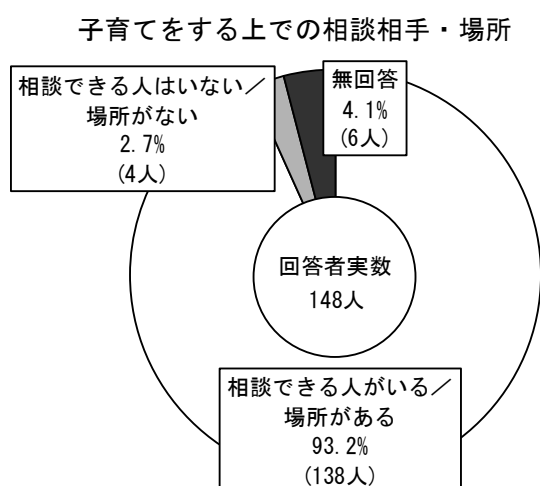
日常的または緊急時に、友人・知人に子どもをみてもらえると答えた保護者が、実際にみてもらう際の負担感については、「安心してみてもらえる」と「負担をかけ心苦しい」がともに36.4%と最も高く、安心して友人・知人にみてもらえる一方で、心苦しさを感じている保護者がいます。



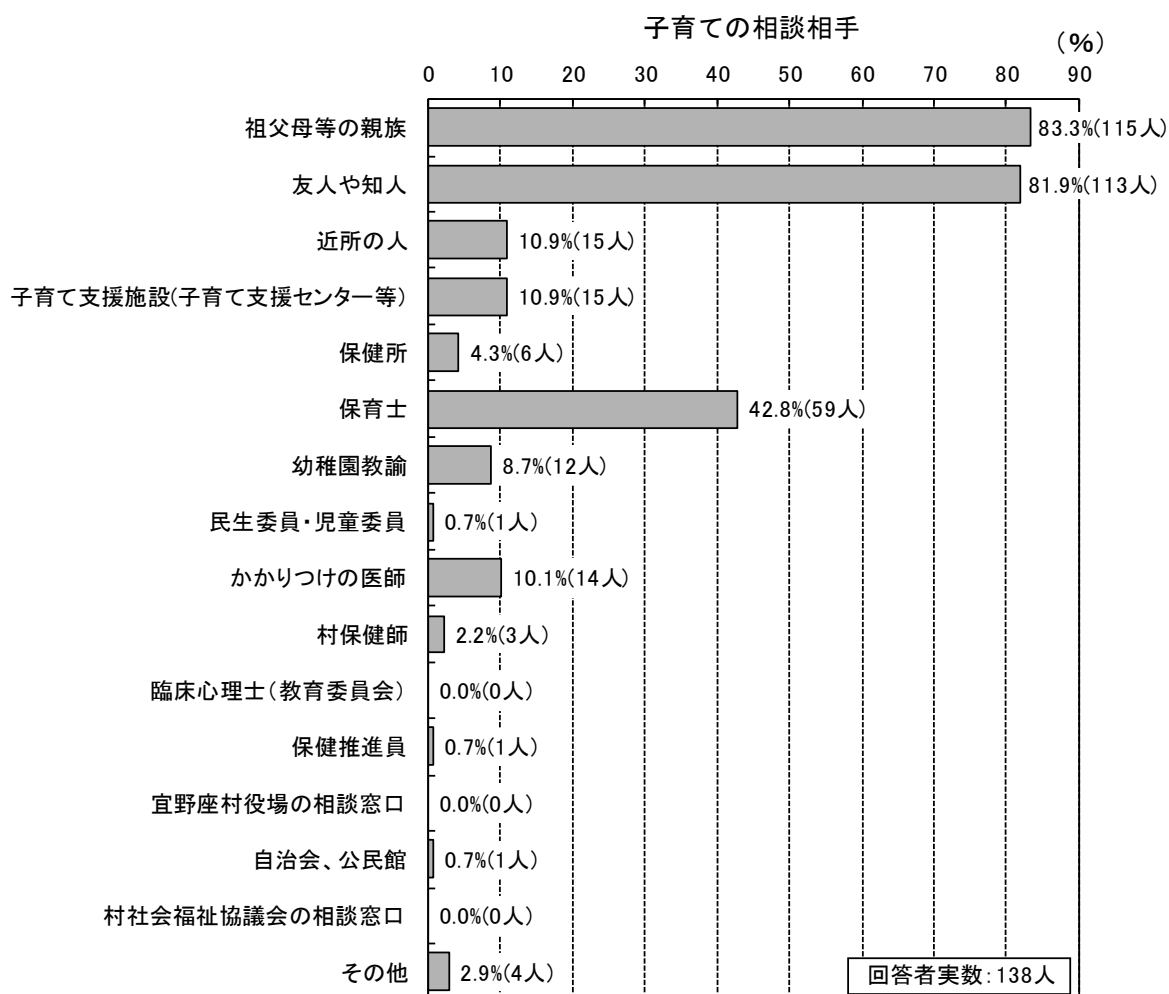
選択肢の略称	選択肢の内容
安心してみてもらえる	友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる
身体的負担が心配	友人・知人の身体的負担が大きく心配である
精神的負担が心配	友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である
負担をかけ心苦しい	自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい
子どもの発達への不安	子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある

(4) 子育てをする上で気軽に相談できる相手・場所

教育を含む子育てをする上で気軽に相談できる相手や場所については、「相談できる人がある／相談できる場所がある」が93.2%とほとんどを占めます。



子育てに関して、「気軽に相談できる人がある／相談できる場所がある」と答えた保護者の、具体的な相談相手や相談場所については、「祖父母等の親族」が83.3%、「友人や知人」が81.9%と、ほとんどの保護者が親族、友人や知人をあげています。次に「保育士」が42.8%となります。



4. 保護者の就労状況

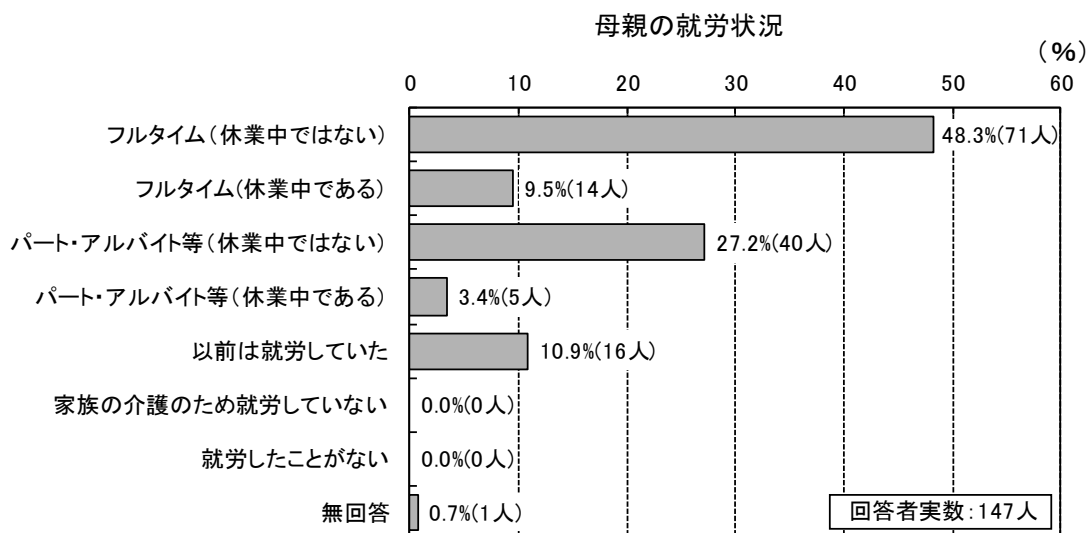
(1) 母親の就労状況

1) 就労状況

母親の現在の就労状況については、「フルタイム（休業中ではない）」が48.3%と最も高く、「フルタイム（休業中）」の9.5%を合わせると、フルタイムで就労している母親が57.8%と、全体の6割近くを占めます。

また、「パート・アルバイト等（休業中ではない）」が27.2%、「パート、アルバイト等（休業中）」が3.4%で、合わせるとパート・アルバイト等が全体の30.6%と3割を占めます。

さらに、フルタイムとパート・アルバイト等を合わせると、母親の88.4%が就労しています。



選択肢の略称	選択肢の内容
フルタイム（休業中ではない）	フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
フルタイム（休業中）	フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である
パート・アルバイト等（休業中ではない）	パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
パート・アルバイト等（休業中）	パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
以前は就労していた	以前は就労していたが、現在は就労していない
就労したことがない	これまで就労したことがない

* フルタイムとは、1週5日程度で1日8時間程度の就労

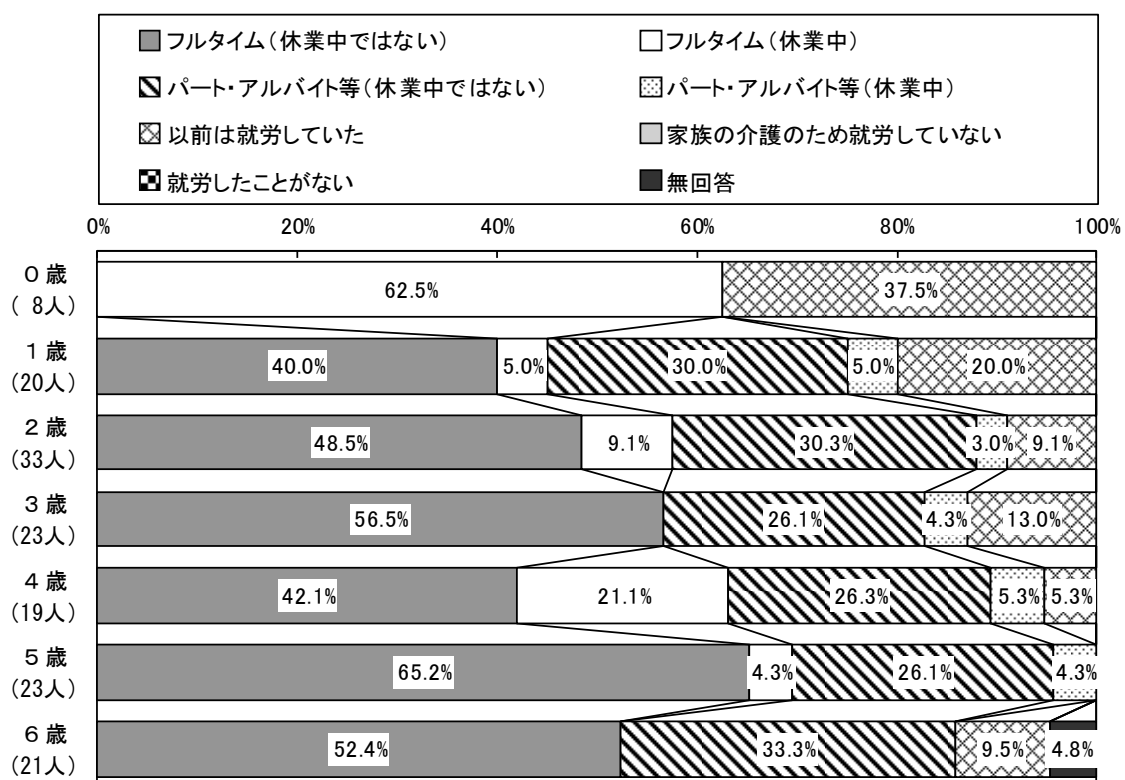
* パート・アルバイト等とは、フルタイム以外の就労

子どもの年齢別にみると、「フルタイム（休業中ではない）」は、「0歳」での回答はなく、「1歳」以上では40%以上の割合となり、「5歳」が65.2%と最も高くなります。

一方、「フルタイム（休業中）」は、「0歳」が62.5%と最も高く、次に「4歳」が21.1%となります。また、「3歳」と「6歳」の回答はなく、そのほかの年齢では9.1%以下の低い割合となります。

また、「以前は就労していた」は、子どもの年齢が上がると割合が低くなる傾向にあることから、子どもが大きくなるに従い働きに出る母親が多くなることが分かります。

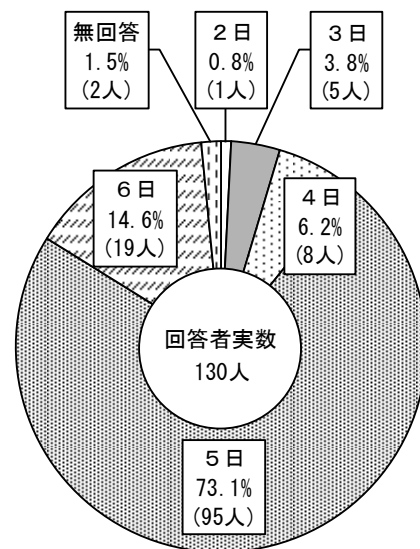
母親の就労状況(子どもの年齢別)



2) 1週あたりの就労日数

現在、就労している(休業中も含む)母親の1週あたりの就労日数は、「5日」が73.1%と最も高く、次に「6日」が14.6%となります。

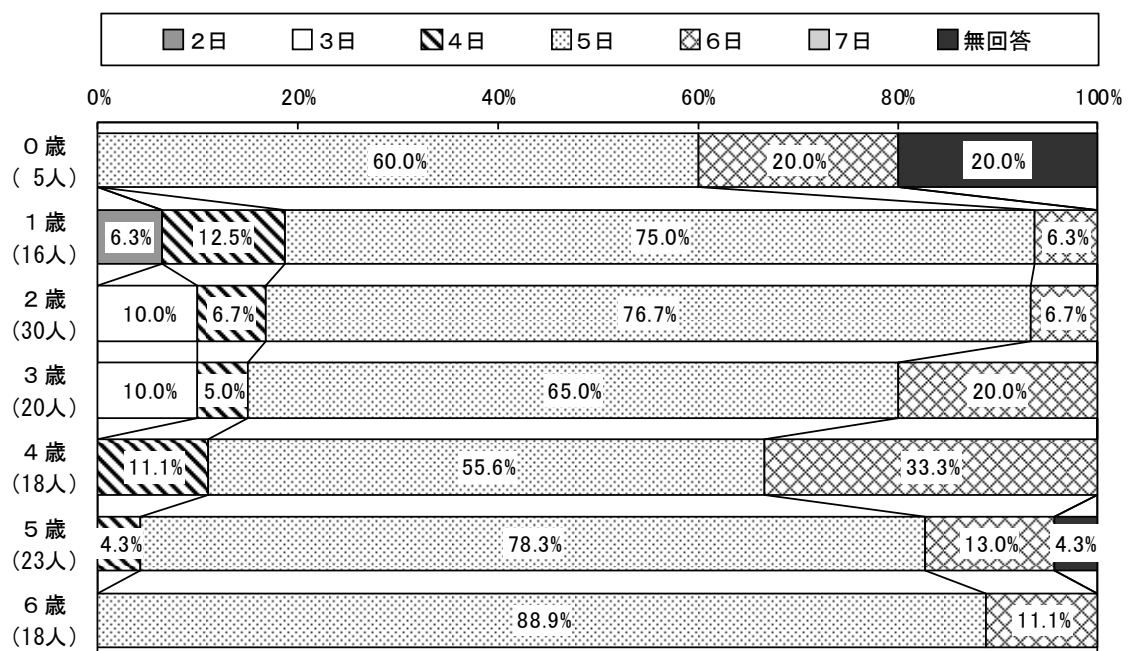
母親の1週あたりの就労日数



子どもの年齢別にみると、週「5日」の就労は、「6歳」が88.9%と最も高く、次に「5歳」が78.3%となります。また、「4歳」が55.6%と最も低く、次に「0歳」が60.0%となります。

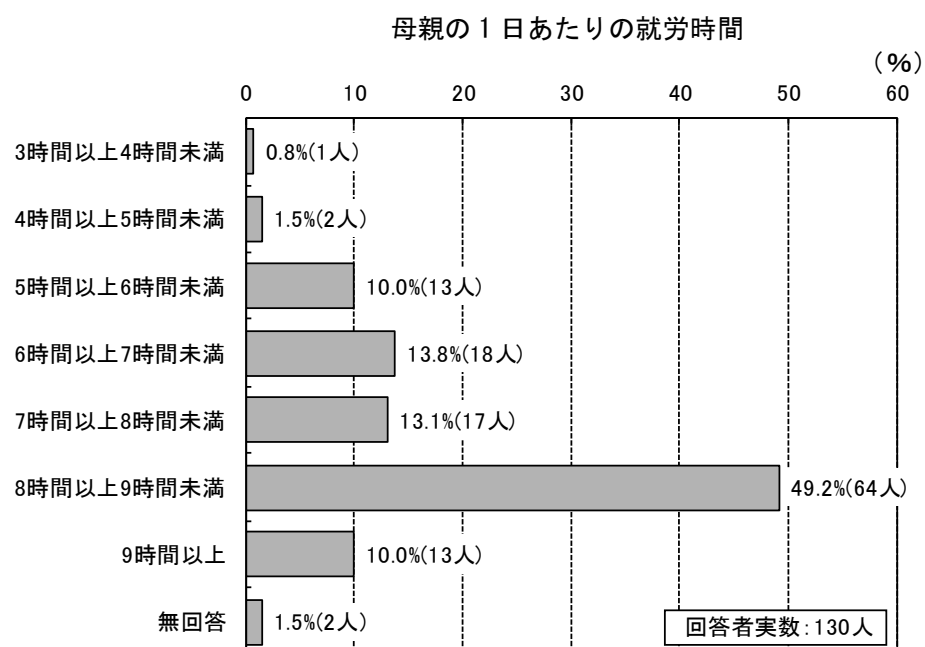
週「6日」の就労は、「4歳」が33.3%と最も高く、次に「0歳」と「3歳」が20.0%となります。また、「1歳」が6.3%、「2歳」が6.7%と低くなります。

母親の1週あたりの就労日数(子どもの年齢別)



3) 1日あたりの就労時間（残業時間を含む）

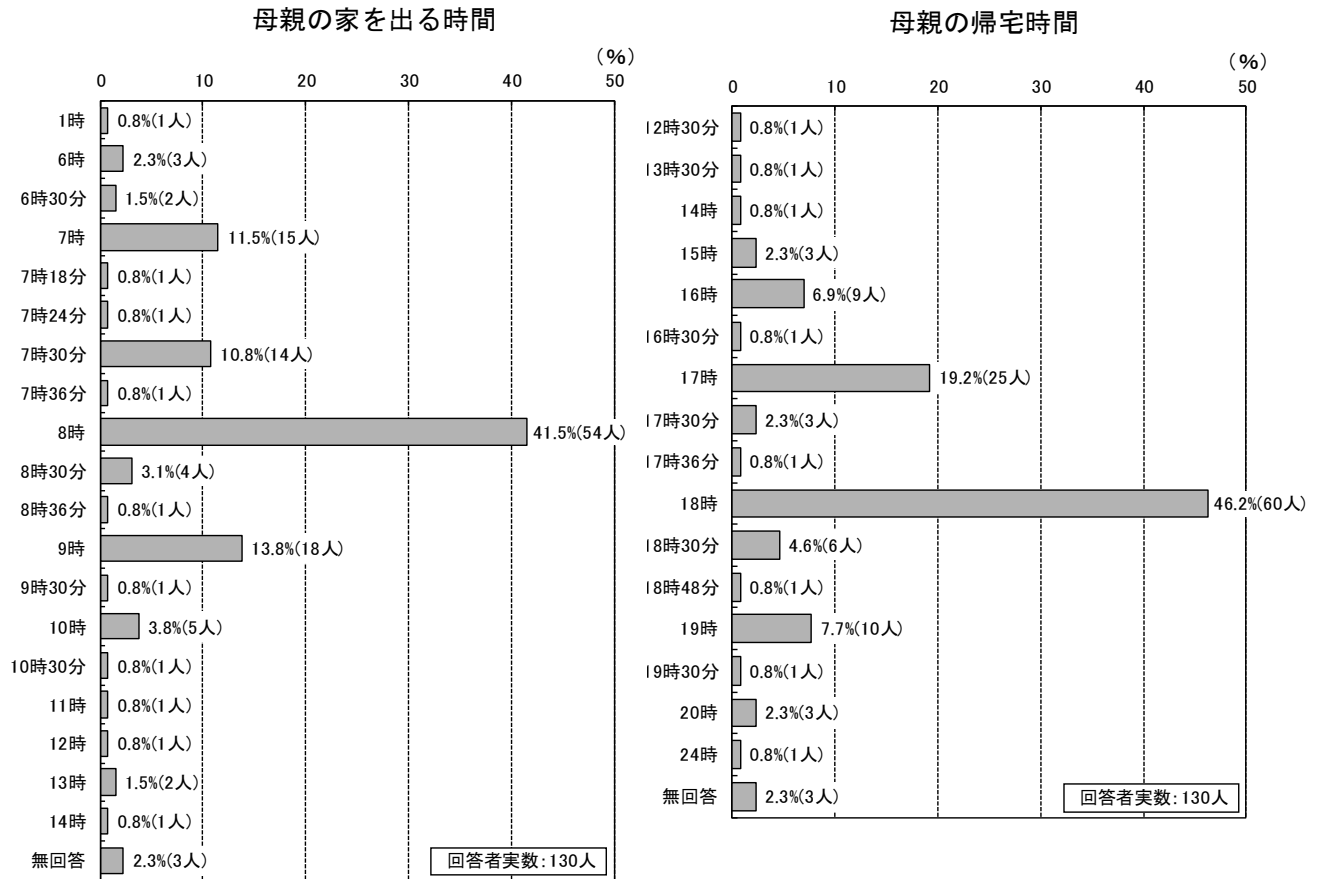
現在、就労している（休業中も含む）母親の1日あたりの就労時間（残業時間を含む）は、「8時間以上9時間未満」が49.2%と最も高く、次に「6時間以上7時間未満」が13.8%、「7時間以上8時間未満」が13.1%となります。また、「5時間以上6時間未満」と「9時間以上」がともに10.0%となります。



4) 就労のために家を出る時間・帰宅時間

母親が就労のために家をでる時間は、「8時」が41.5%と最も高く、次に「9時」が13.8%、「7時」が11.5%、「7時30分」が10.8%となります。

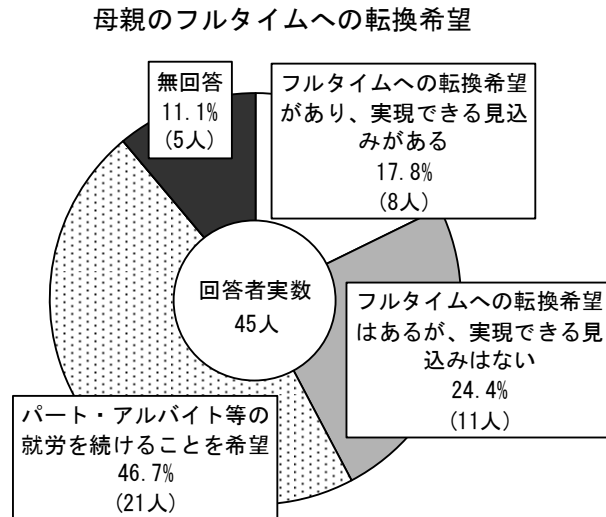
帰宅時間は、「18時」が46.2%と最も高く、次に「17時」が19.2%となります。



5) フルタイムへの転換希望

パート・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換希望については、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が46.7%と最も高く、今まで通りの就労を希望する母親が半数近くを占めます。

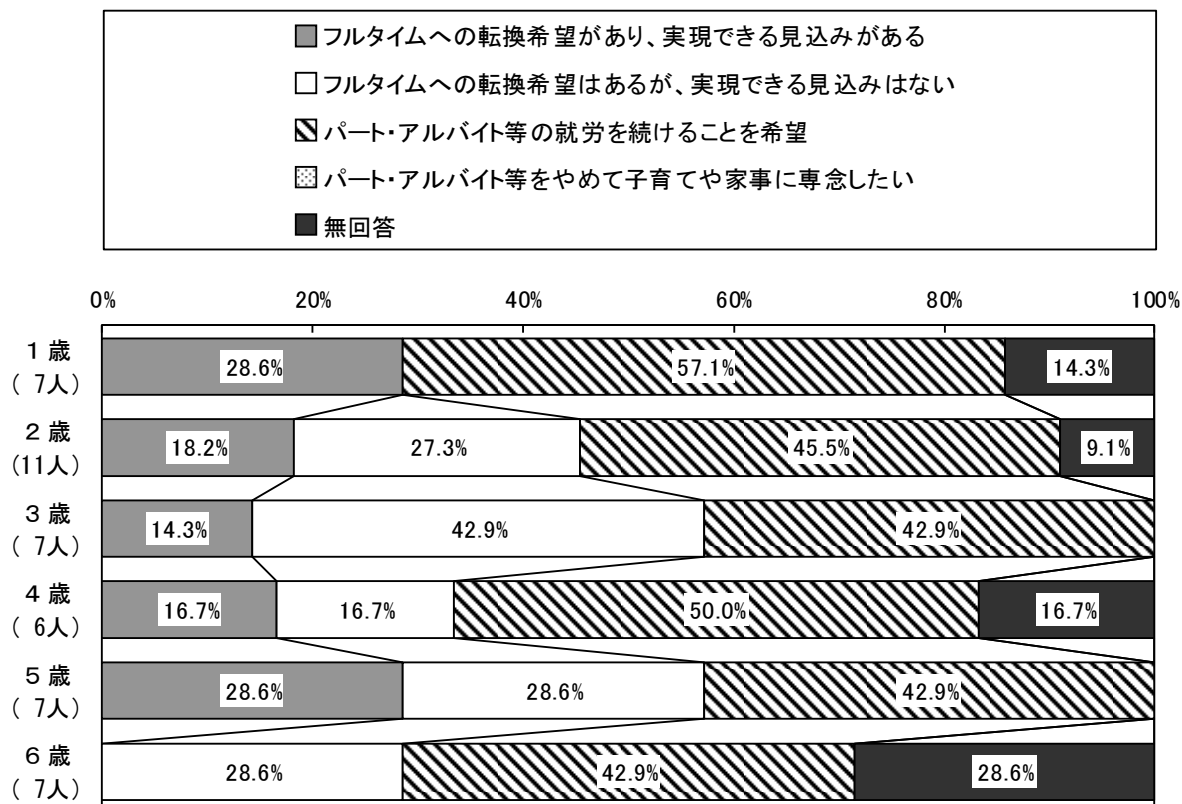
一方、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が24.4%、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」が17.8%で、合わせると42.2%がフルタイムへの転換を希望しています。



子どもの年齢別にみると、「0歳」の子どもがいる世帯では、パート・アルバイト等で就労している母親はいないため、「1歳」以上についてみると、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」は、「1歳」が57.1%と最も高く、次に「4歳」が50.0%で、そのほかの年齢ではいずれも40%台の割合となります。

一方、フルタイムへの実現の見込の有無を合せた転換希望の割合は、「3歳」と「5歳」が57.2%と最も高く、「1歳」と「6歳」が28.6%と最も低くなります。

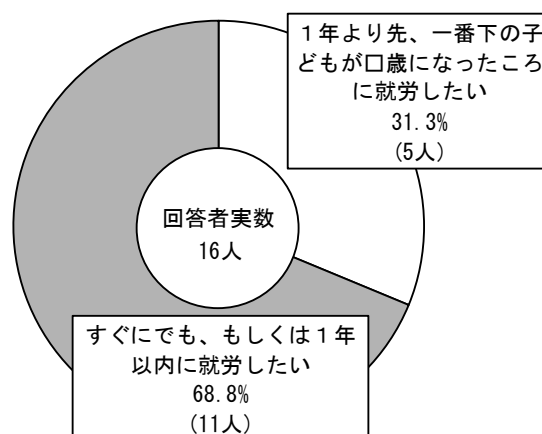
母親のフルタイムへの転換希望(子どもの年齢別)



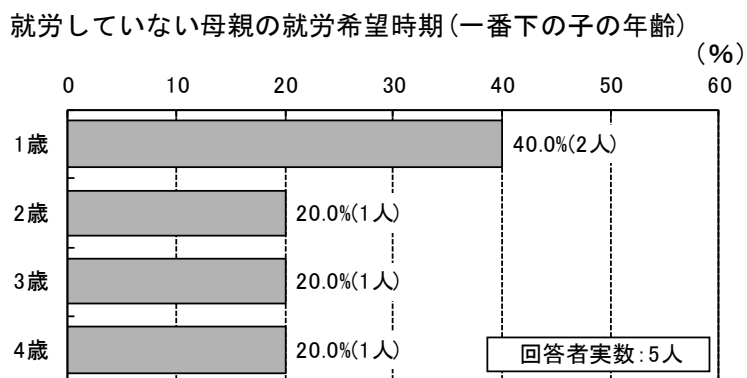
6) 就労していない母親の就労希望・就労時期

「以前は就労していた」と答えた母親の就労希望については、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が68.8%、「1年より先、一番下の子どもが〇歳になったころに就労したい」が31.3%となります。

就労していない母親の就労希望

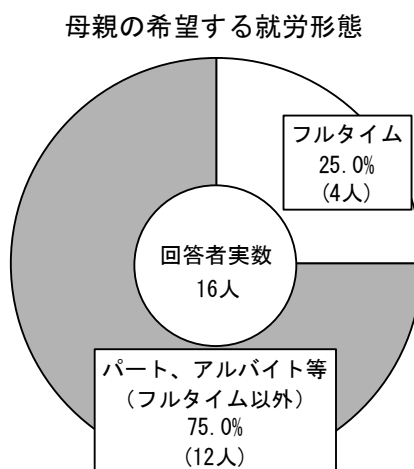


「1年より先、一番下の子どもが□歳になったところに就労したい」と答えた母親の就労を希望する時期は、一番下の子の年齢が「1歳」になった時が40.0%と高く、「2歳」から「4歳」がともに20.0%となります。



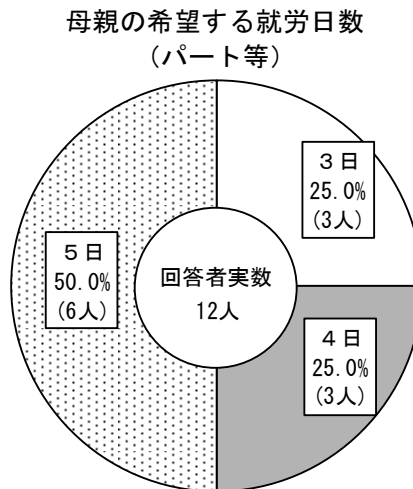
7) 母親の希望する就労形態

今後就労したいと考えている母親の希望する就労形態は、「パート・アルバイト等(フルタイム以外)」が75.0%と多数を占め、「フルタイム」が25.0%となります。

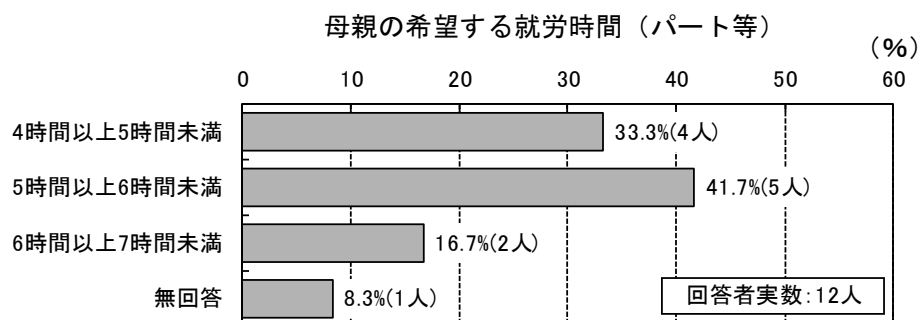


8) パート等を希望する母親の希望する就労日数・就労時間

今後就労したいと考えている母親のうち、希望する就労形態を「パート、アルバイト等（フルタイム以外）」と答えた母親の、希望する1週間あたりの就労日数は、「5日」が50.0%と最も高く、次に「3日」と「4日」がともに25.0%となります。



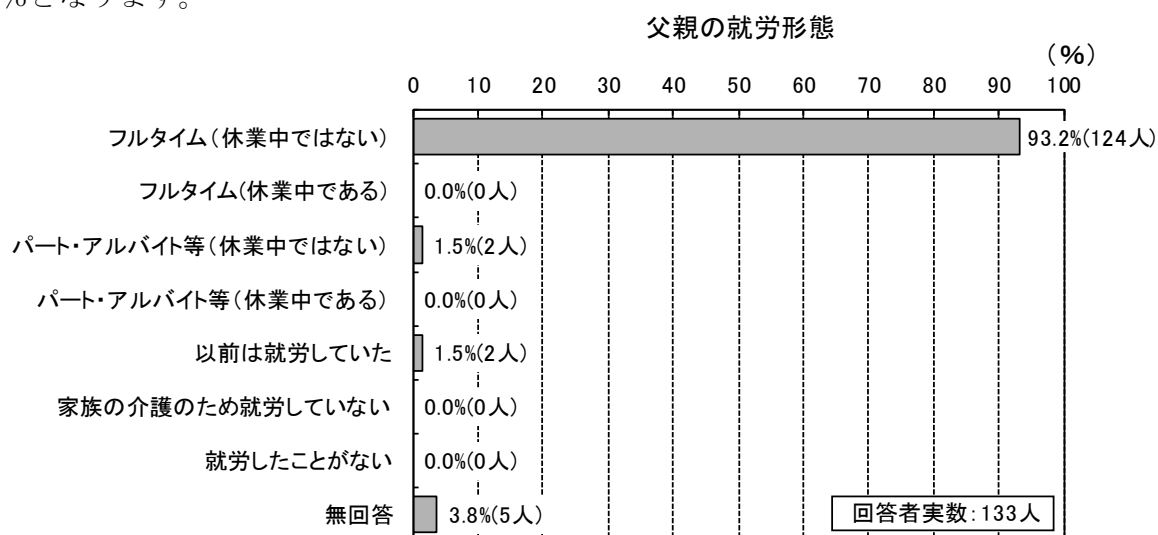
また、希望する1日あたりの就労時間は、「5時間以上6時間未満」が41.7%と最も高く、次に「4時間以上5時間未満」が33.3%となります。



(2) 父親の就労状況

1) 就労状況

父親の現在の就労については、「フルタイム（休業中ではない）」が93.2%とほとんどを占め、次に「パート・アルバイト等（休業中ではない）」と「以前は就労していた」が1.5%となります。



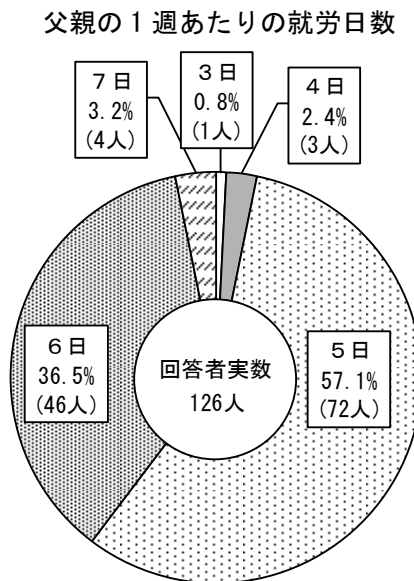
選択肢の略称	選択肢の内容
フルタイム（休業中ではない）	フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
フルタイム（休業中）	フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である
パート・アルバイト等（休業中ではない）	パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
パート・アルバイト等（休業中）	パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
以前は就労していた	以前は就労していたが、現在は就労していない
就労したことがない	これまで就労したことがない

* フルタイムとは、1週5日程度で1日8時間程度の就労

* パート・アルバイト等とは、フルタイム以外の就労

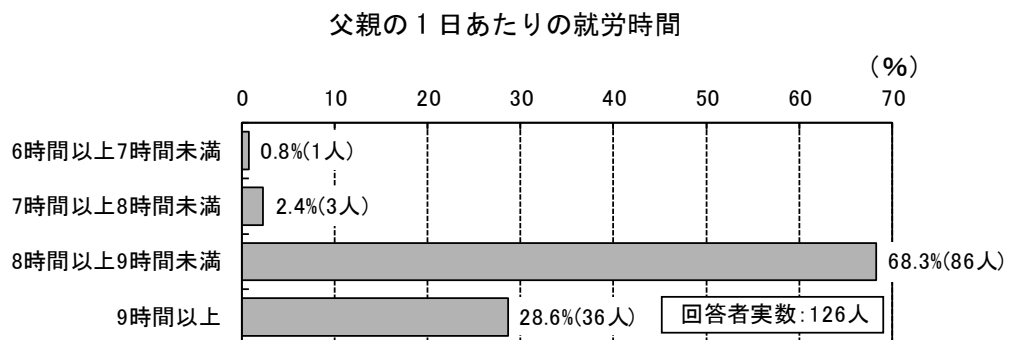
2) 1 週あたりの就労日数

現在、就労している(休業中も含む)父親の1週あたりの就労日数は、「5日」が57.1%と最も高く、次に「6日」が36.5%となります。



3) 1 日あたりの就労時間 (残業時間を含む)

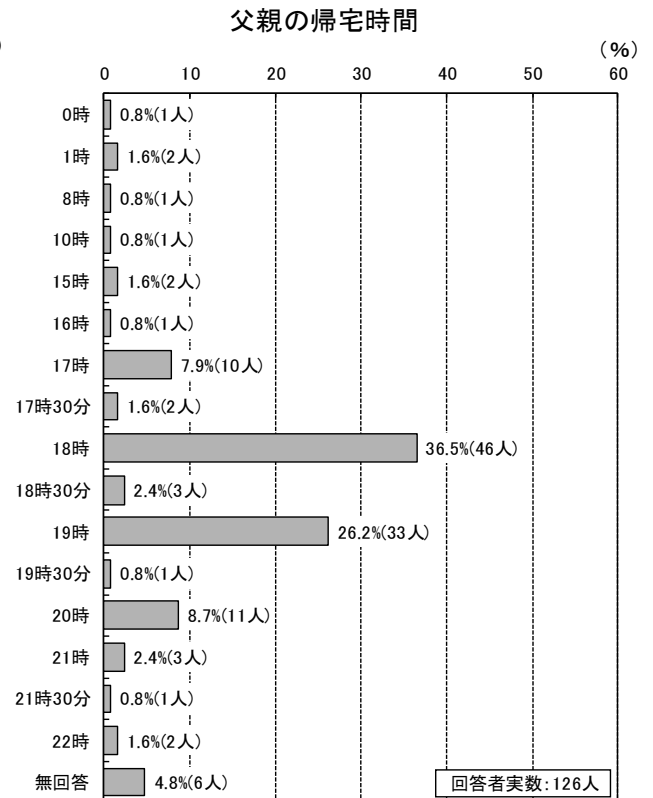
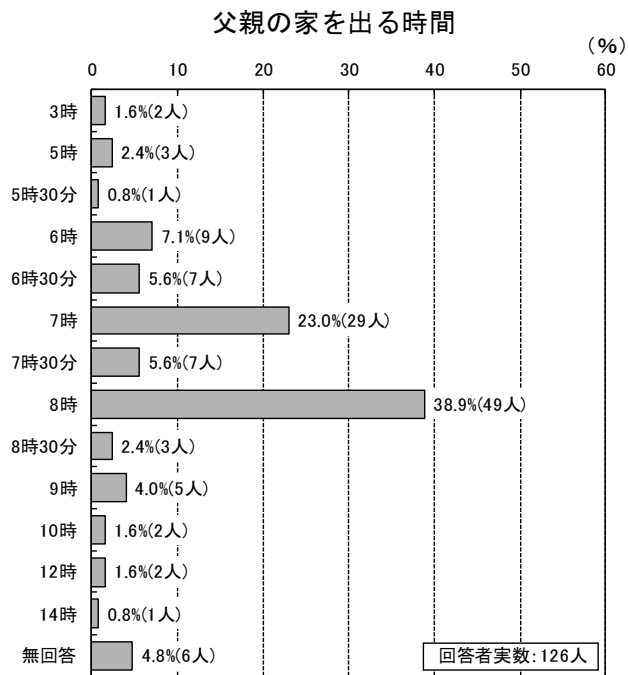
現在、就労している(休業中も含む)父親の1日あたりの就労時間(残業時間を含む)は、「8時間以上9時間未満」が68.3%と最も高く、次に「9時間以上」が28.6%となります。



4) 就労のために家を出る時間・帰宅時間

父親が就労のために家を出る時間は、「8時」が38.9%と最も高く、次に「7時」が23.0%となります。また、「7時30分」を含む「7時」から「8時」までを合わせた割合は、67.5%となります。

帰宅時間は、「18時」が36.5%と最も高く、次に「19時」が26.2%、「20時」が8.7%となります。また、「18時30分」と「19時30分」を含む、「18時」から「20時」までを合わせた割合は、74.6%となります。

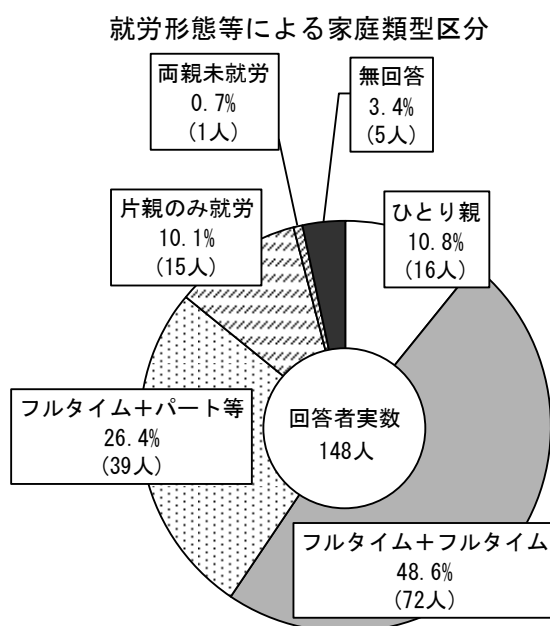


(3) 家庭類型区分

保護者の配偶関係と就労状況から、家庭のタイプを区分した家庭類型区分をみると、「フルタイム＋フルタイム」が48.6%と最も高く、次に「フルタイム＋パート等」が26.4%となります。

「ひとり親」は16人（10.8%）で、そのうち「フルタイム」が9人、「パート・アルバイト等」が6人、「未就労」が1人となります。

また、「フルタイム＋フルタイム」、「フルタイム＋パート等」を合わせた、共働きの世帯が75.0%を占めます。



家庭類型区分	内容
タイプA：ひとり親	母親だけもしくは父親だけと同居
タイプB：フルタイム＋フルタイム	母親、父親ともフルタイムで就労
タイプC：フルタイム＋パート等	母親、父親のうち一人がフルタイム、一人がパート等で就労
タイプD：片親のみ就労	母親、父親のうち一人が就労、一人が未就労
タイプE：両親未就労	母親、父親とも未就労

子どもの年齢別にみると、「フルタイム＋フルタイム」は、全ての年齢で最も割合が高く、そのうち、「0歳」が62.5%と最も高く、「2歳」が39.4%と最も低くなります。

「フルタイム＋パート等」は、「6歳」が31.8%と最も高く、「1歳」が20.0%と最も低くなります。

「ひとり親」は、「5歳」が26.1%と最も高く、「6歳」が4.5%と最も低くなります。

「片親のみ就労」は、「0歳」が37.5%と最も高く、次に「1歳」が15.0%で、そのほかの年齢ではいずれも10%前後となります。

家庭類型区分(子どもの年齢別)

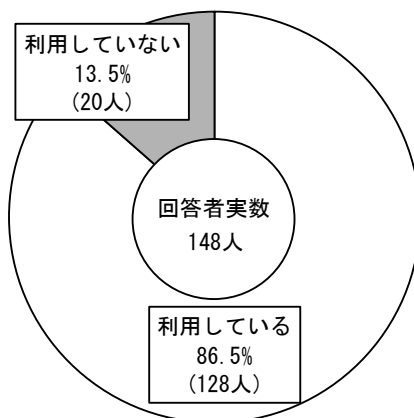
	回答者実数	ひとり親	フルタイム ＋フルタイム	フルタイム ＋パート等	片親のみ就労	両親未就労	無回答
0 歳	8人	—	62.5% (5人)	—	37.5% (3人)	—	—
1 歳	20人	15.0% (3人)	40.0% (8人)	20.0% (4人)	15.0% (3人)	—	10.0% (2人)
2 歳	33人	18.2% (6人)	39.4% (13人)	30.3% (10人)	9.1% (3人)	—	3.0% (1人)
3 歳	23人	—	56.5% (13人)	26.1% (6人)	8.7% (2人)	4.3% (1人)	4.3% (1人)
4 歳	19人	—	57.9% (11人)	31.6% (6人)	10.5% (2人)	—	—
5 歳	23人	26.1% (6人)	47.8% (11人)	26.1% (6人)	—	—	—
6 歳	22人	4.5% (1人)	50.0% (11人)	31.8% (7人)	9.1% (2人)	—	4.5% (1人)

5. 平日の定期的な教育・保育の事業の利用状況

(1) 定期的な教育・保育の事業の利用

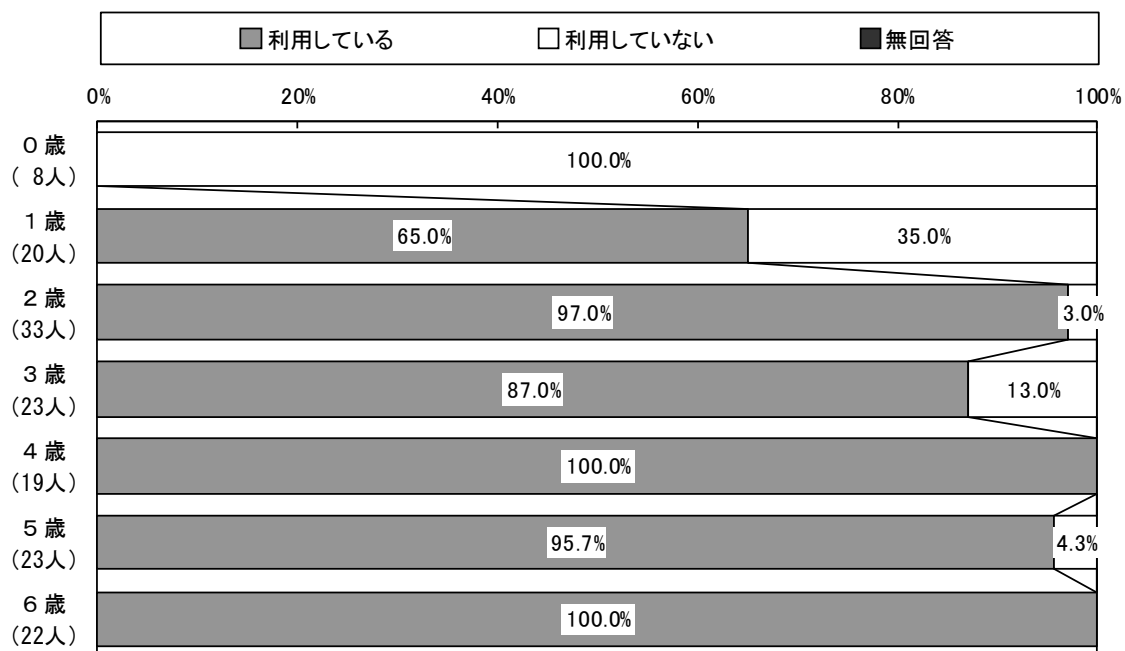
幼稚園や保育所などの定期的な教育・保育の事業の利用については、「利用している」が86.5%、「利用していない」が13.5%となります。

定期的な教育・保育の事業の利用

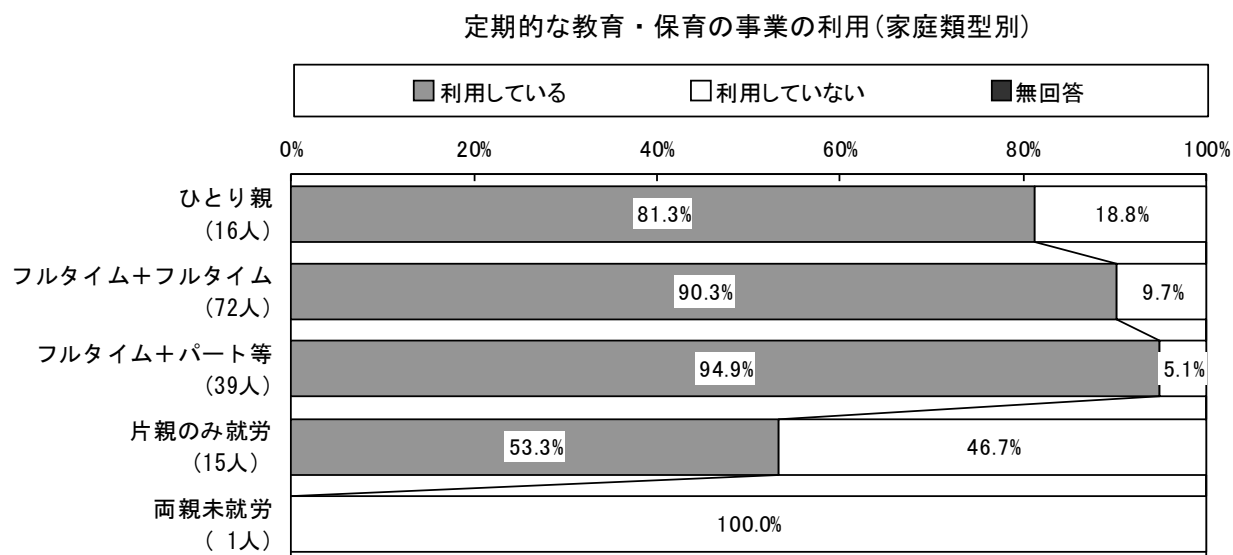


子どもの年齢別にみると、「利用している」は、「0歳」の回答はなく、「4歳」と「6歳」が100.0%で、「1歳」が65.0%と最も低くなります。

定期的な教育・保育の事業の利用(子どもの年齢別)

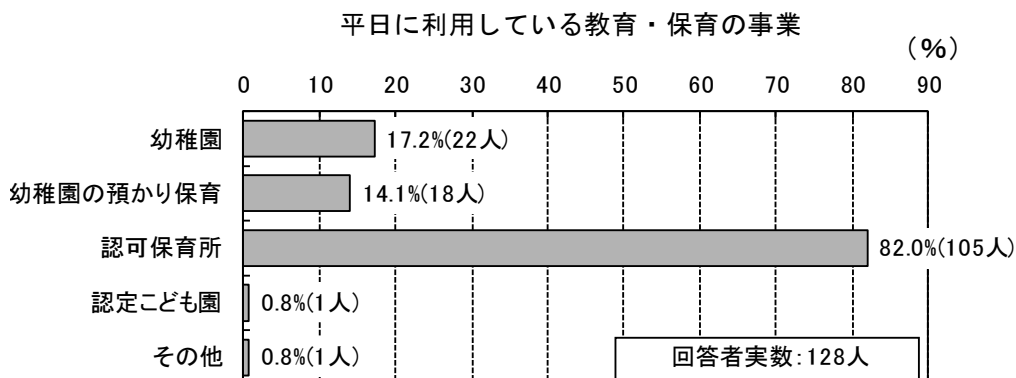


家庭類型別にみると、「利用している」は、「フルタイム＋パート等」が94.9%と最も高く、次に「フルタイム＋フルタイム」が90.3%、「ひとり親」が81.3%と高く、「片親のみ就労」が53.3%となります。



(2) 平日に利用している教育・保育の事業（複数回答）

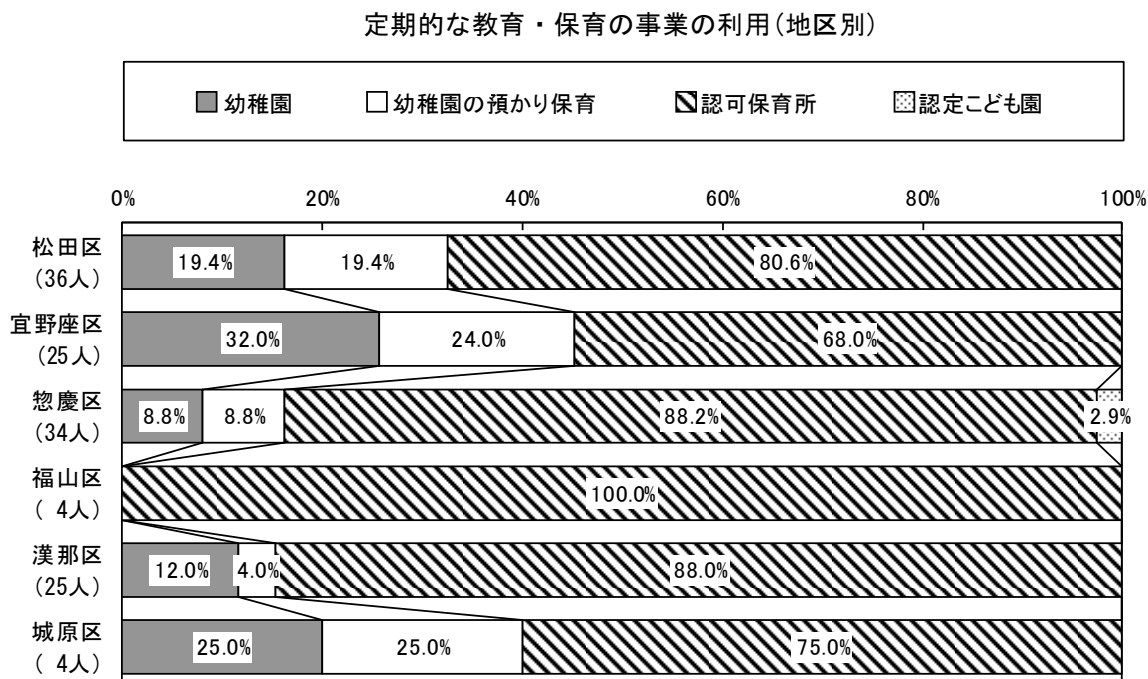
定期的な教育・保育の事業を「利用している」と答えた保護者が、平日に利用している教育・保育の事業は、「認可保育所」が82.0%と最も高く、次に「幼稚園」が17.2%となります。また、「幼稚園の預かり保育」が14.1%で、これは「幼稚園」を利用している子の81.8%にあたります。



地区別にみると、「認可保育所」の利用は、全ての地区で最も割合が高く、「福山区」が100.0%で、「宜野座区」が68.0%と最も低くなります。

「幼稚園」は、「宜野座区」が32.0%、「城原区」が25.0%と高く、「惣慶区」が8.8%と最も低くなります。

また、「幼稚園の預かり保育」も、「宜野座区」が24.0%、「城原区」が25.0%と幼稚園の利用と同じく高い割合となります。一方、「福山区」については、「幼稚園の預かり保育」を利用しているの回答はありません。



子どもの年齢別にみると、「0歳」では教育・保育の事業を「利用している」子はいないため（回答がないため）、「1歳」以上についてみると、「認可保育所」の利用率は、「1歳」から「5歳」にかけて95%以上とほとんどの子が利用しています。また、「6歳」では幼稚園に行くため、割合は13.6%となります。

「幼稚園」の利用率は、「6歳」が86.4%と最も高く、次に「5歳」が9.1%となります。

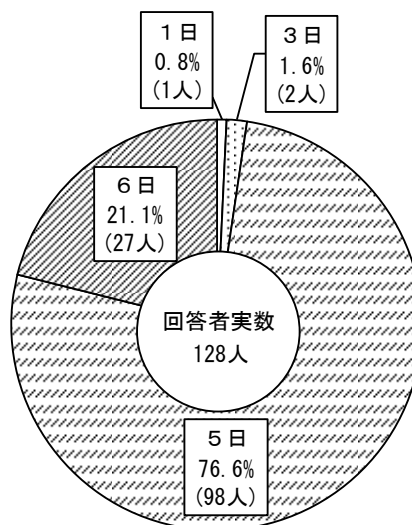
平日に利用している教育・保育の事業(子どもの年齢別)

	回答者実数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育所	認定こども園	その他
1歳	13人	—	—	100.0% (13人)	—	—
2歳	32人	—	—	96.9% (31人)	3.1% (1人)	—
3歳	20人	5.0% (1人)	—	95.0% (19人)	—	—
4歳	19人	—	—	100.0% (19人)	—	—
5歳	22人	9.1% (2人)	9.1% (2人)	90.9% (20人)	—	—
6歳	22人	86.4% (19人)	72.7% (16人)	13.6% (3人)	—	4.5% (1人)

(3) 教育・保育の事業の利用日数

現在利用している教育・保育の事業の利用日数については、「5日」が76.6%と最も高く、次に「6日」が21.1%となります。

教育・保育の事業の利用日数



子どもの年齢別にみると、週「5日」は、「6歳」が90.9%と最も高く、次に「2歳」が81.3%、「1歳」と「5歳」が70%台、「3歳」と「4歳」が60%台となります。

一方、週「6日」は、「3歳」が40.0%と最も高く、「4歳」から年齢が高いほど割合は低くなり、「6歳」では4.5%となります。

教育・保育の事業の利用日数(子どもの年齢別)

	回答者実数	1 日	3 日	5 日	6 日
1 歳	13人	—	7.7% (1人)	76.9% (10人)	15.4% (2人)
2 歳	32人	—	3.1% (1人)	81.3% (26人)	15.6% (5人)
3 歳	20人	—	—	60.0% (12人)	40.0% (8人)
4 歳	19人	—	—	68.4% (13人)	31.6% (6人)
5 歳	22人	—	—	77.3% (17人)	22.7% (5人)
6 歳	22人	4.5% (1人)	—	90.9% (20人)	4.5% (1人)

家庭類型別にみると、週「5日」は、「ひとり親」が92.3%と最も高く、そのほかの家庭ではいずれも70%台の割合となります。

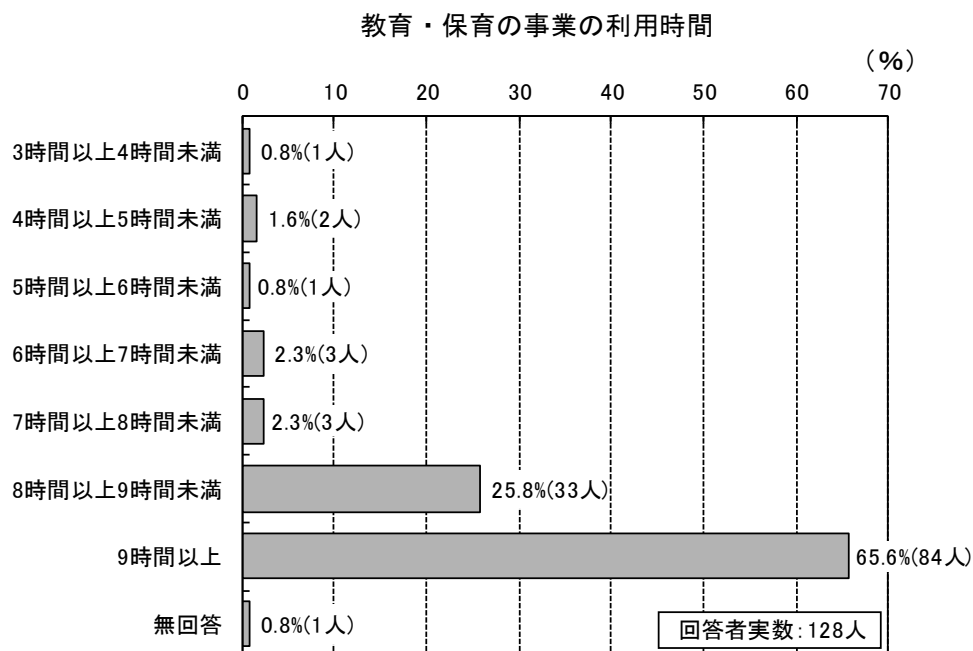
週「6日」は、「フルタイム＋パート等」が27.0%、次に「フルタイム＋フルタイム」が21.5%と高く、「片親のみ就労」が12.5%、「ひとり親」が7.7%と低くなります。

教育・保育の事業の利用日数(家庭類型別)

	回答者実数	1 日	3 日	5 日	6 日
ひとり親	13人	—	—	92.3% (12人)	7.7% (1人)
フルタイム ＋フルタイム	65人	—	3.1% (2人)	75.4% (49人)	21.5% (14人)
フルタイム ＋パート等	37人	—	—	73.0% (27人)	27.0% (10人)
片親のみ就労	8人	12.5% (1人)	—	75.0% (6人)	12.5% (1人)

(4) 教育・保育の事業の利用時間

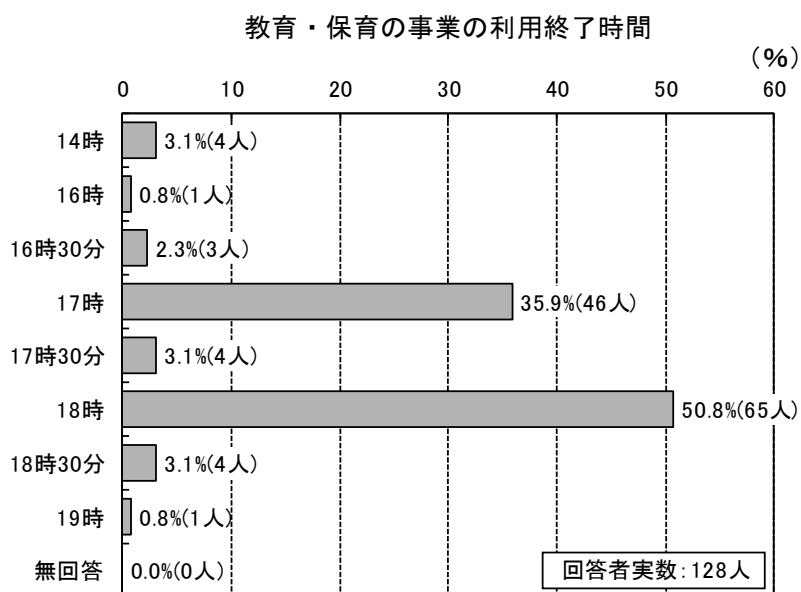
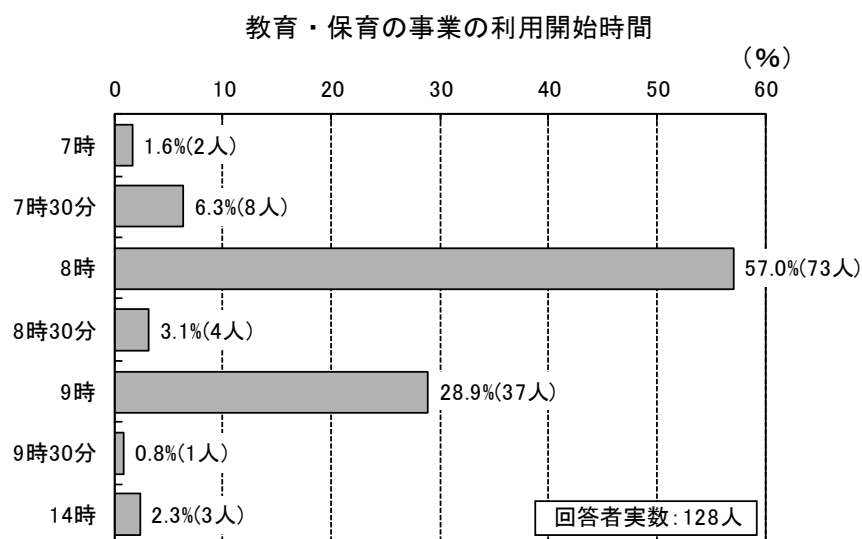
利用している教育・保育の事業の1日あたりの利用時間については、「9時間以上」が65.6%と最も高く、次に「8時間以上9時間未満」が25.8%となります。



(5) 教育・保育の事業の利用開始時間・終了時間

現在利用している教育・保育の事業の利用開始時間については、「8時」が57.0%と最も高く、次に「9時」が28.9%となります。

また、終了時間については、「18時」が50.8%と最も高く、次に「17時」が35.9%となります。

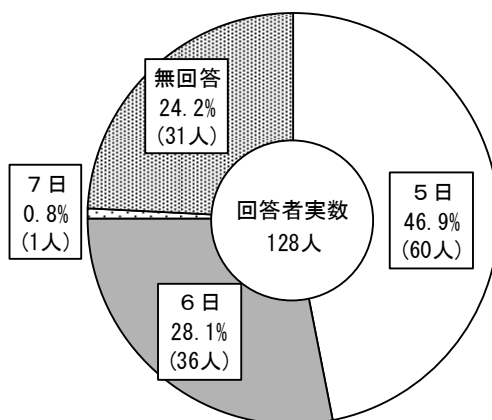


（６）教育・保育の事業の利用希望日数・希望時間

現在利用している教育・保育の事業について、希望する1週あたりの利用日数は、「5日」が46.9%と最も高くなりますが、現在の「5日」の利用日数の割合(76.6%)と比べると、29.7ポイント低くなります。

一方、「6日」の希望は28.1%で、現在の「6日」の利用日数の割合(21.1%)と比べると、7ポイント高くなります。しかし、「無回答」が24.2%と高いことから、現状維持を考えている保護者が多いことが考えられるため、一概に比較できません。

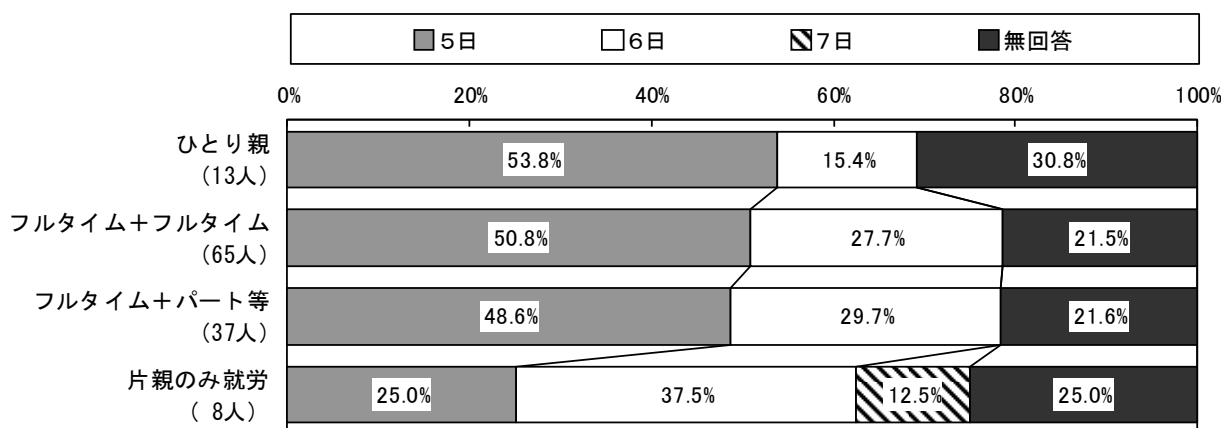
教育・保育の事業の利用希望日数



家庭類型別にみると、週「5日」は、「ひとり親」、「フルタイム＋フルタイム」、「フルタイム＋パート等」がそれぞれ50%前後と高く、「片親のみ就労」が25.0%と最も低くなります。

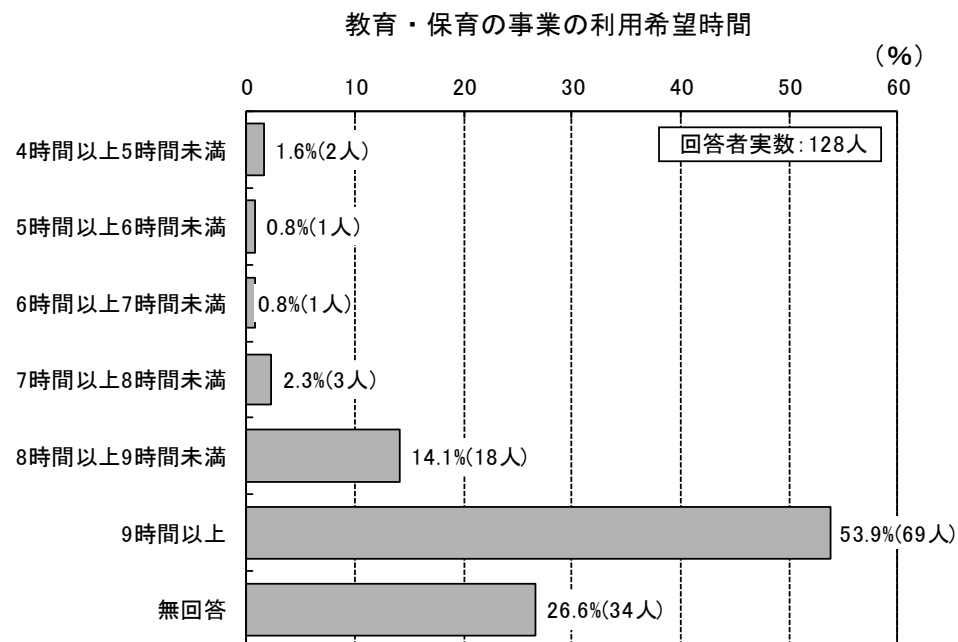
週「6日」は、「片親のみ就労」が37.5%と最も高く、「フルタイム＋フルタイム」と「フルタイム＋パート等」が20%台後半で、「ひとり親」が15.4%と最も低くなります。

教育・保育の事業の利用希望日数（家庭類型別）



次に、現在利用している教育・保育の事業について、希望する1日あたりの利用時間は、「9時間以上」が53.9%と最も高く、次に「8時間以上9時間未満」が14.1%となります。

また、「無回答」が26.6%と高く、現状のままでよいとする保護者が多いことが考えられます。

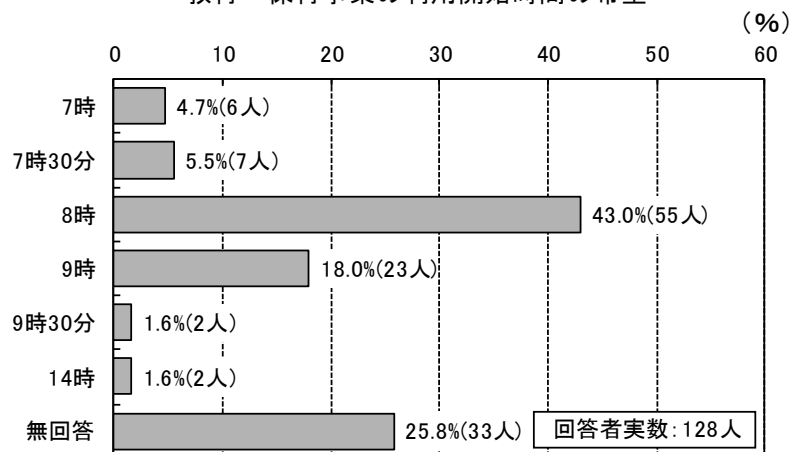


(7) 教育・保育事業の利用開始時間・終了時間の希望

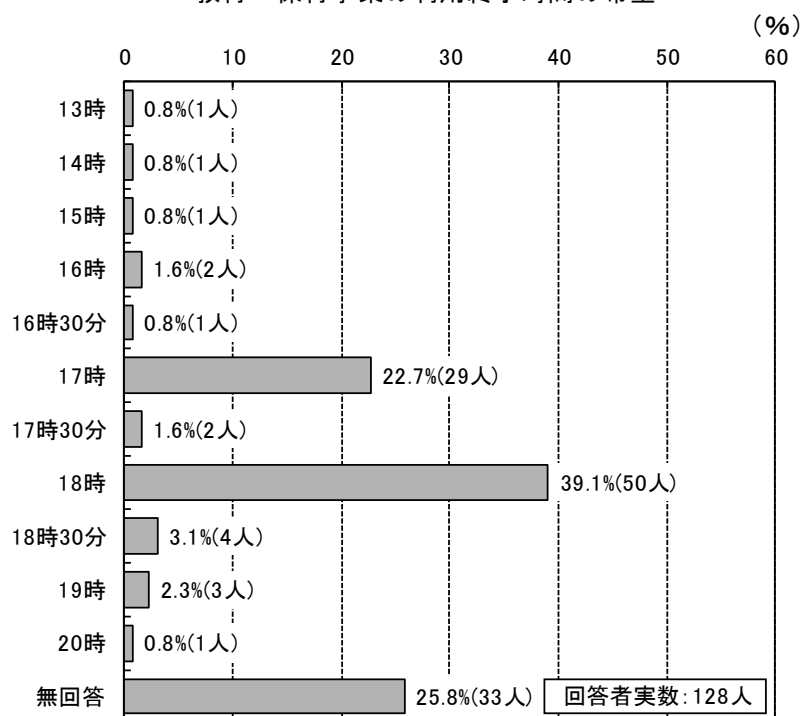
現在利用している教育・保育の事業について、希望する利用開始時間は、「8時」が43.0%と最も高く、次に「9時」が18.0%となります。

また、希望する利用終了時間は、「18時」が39.1%と最も高く、次に「17時」が22.7%となります。なお、利用開始時間、終了時間のいずれも「無回答」が多くなりますが、回答の傾向としては現在の利用状況と似かよった傾向にあります。但し、終了時間については現状の利用にはない、「13時」、「15時」、「20時」の希望があります。

教育・保育事業の利用開始時間の希望

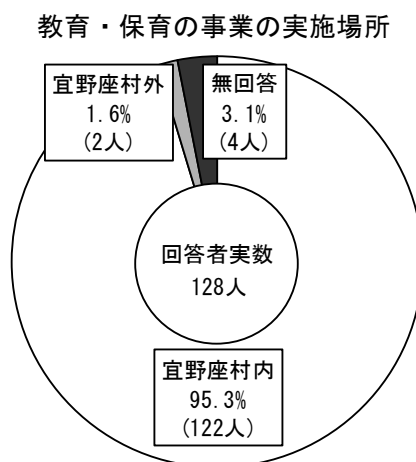


教育・保育事業の利用終了時間の希望



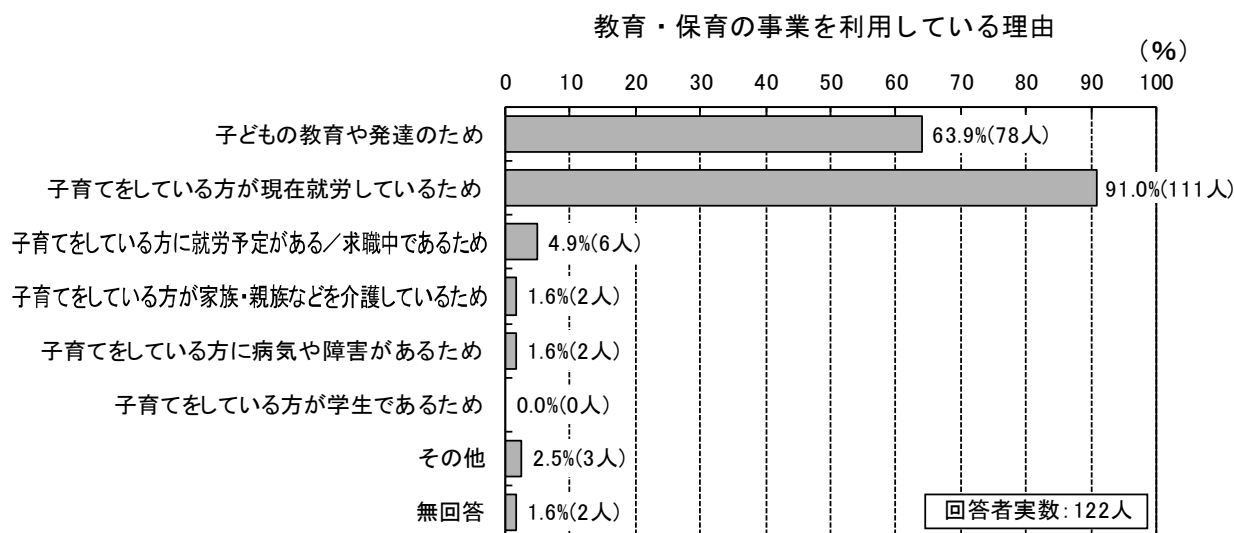
(8) 教育・保育の事業の実施場所

現在利用している教育・保育の事業の実施場所については、「宜野座村内」が95.3%、「宜野座村外」が1.6%となります。



(9) 教育・保育の事業を利用している主な理由（複数回答）

平日に定期的に教育・保育の事業を「利用している」と答えた保護者の、利用している理由については、「子育てをしている方が現在就労しているため」が91.0%と最も高く、次に「子どもの教育や発達のため」が63.9%で、以上の2つが主な理由となります。



子どもの年齢別にみると、「子育て(教育を含む)をしている方が現在就労しているため」は、「1歳」から「5歳」がいずれも90%台と高く、「6歳」が77.3%となります。

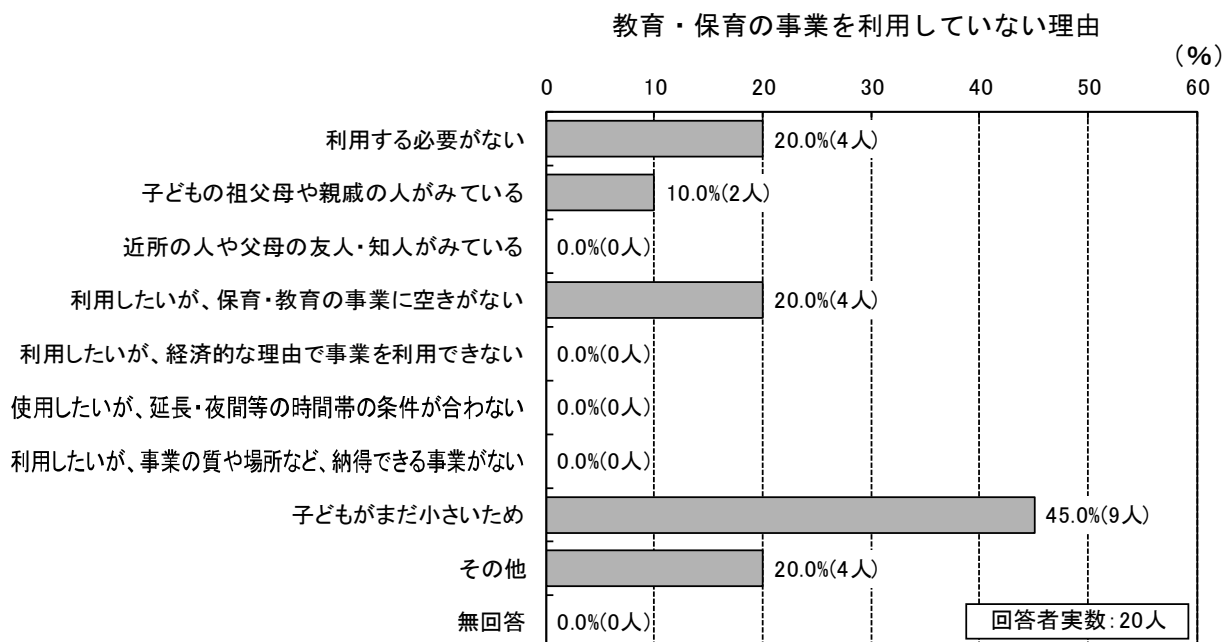
「子どもの教育や発達のため」は、「3歳」が77.8%、「1歳」が75.0%と高く、「5歳」が45.5%と最も低くなります。

教育・保育の事業を利用している理由(子どもの年齢別)

	回答者実数	子どもの教育や発達のため	子育てをしている方が現在就労しているため	子育てをしている方に就労予定がある／求職中であるため	子育てをしている方が家族・親族などを介護しているため	子育てをしている方に病気や障害があるため	その他	無回答
1 歳	12人	75.0% (9人)	91.7% (11人)	—	—	—	—	—
2 歳	29人	62.1% (18人)	93.1% (27人)	10.3% (3人)	6.9% (2人)	3.4% (1人)	6.9% (2人)	3.4% (1人)
3 歳	18人	77.8% (14人)	94.4% (17人)	—	—	5.6% (1人)	—	—
4 歳	19人	63.2% (12人)	94.7% (18人)	10.5% (2人)	—	—	—	—
5 歳	22人	45.5% (10人)	95.5% (21人)	—	—	—	—	—
6 歳	22人	68.2% (15人)	77.3% (17人)	4.5% (1人)	—	—	4.5% (1人)	4.5% (1人)

(10) 教育・保育の事業を利用していない理由（複数回答）

現在、定期的な教育・保育の事業を「利用していない」と答えた保護者の、利用していない理由については、「子どもがまだ小さいため」が45.0%と最も高く、次に「利用する必要がある」と「利用したいが、保育・教育の事業に空きがない」がともに20.0%となります。



(11) 教育・保育の事業を利用しない子どもの年齢

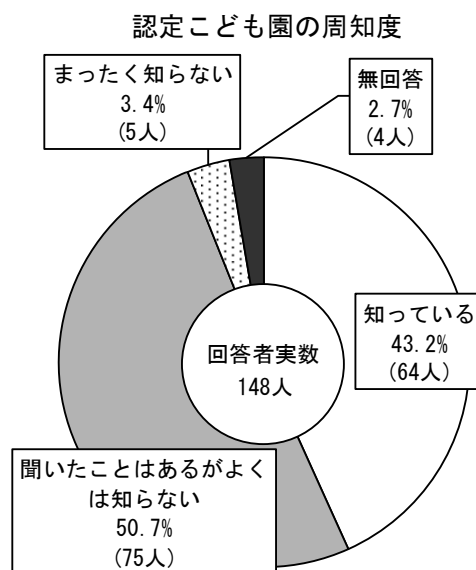
教育・保育の事業を利用していない理由で、「子どもがまだ小さいため」と答えた保護者が、利用を考えている子どもの年齢は、「1歳」が33.3%と最も高く、次に「3歳」が22.2%となります。

教育・保育の事業を利用する子どもの年齢

6 ヶ月	11.1% (1 人)
7 ヶ月	11.1% (1 人)
1 歳	33.3% (3 人)
2 歳	11.1% (1 人)
3 歳	22.2% (2 人)
4 歳	11.1% (1 人)
回答者実数	9 人

(12) 認定こども園の周知度

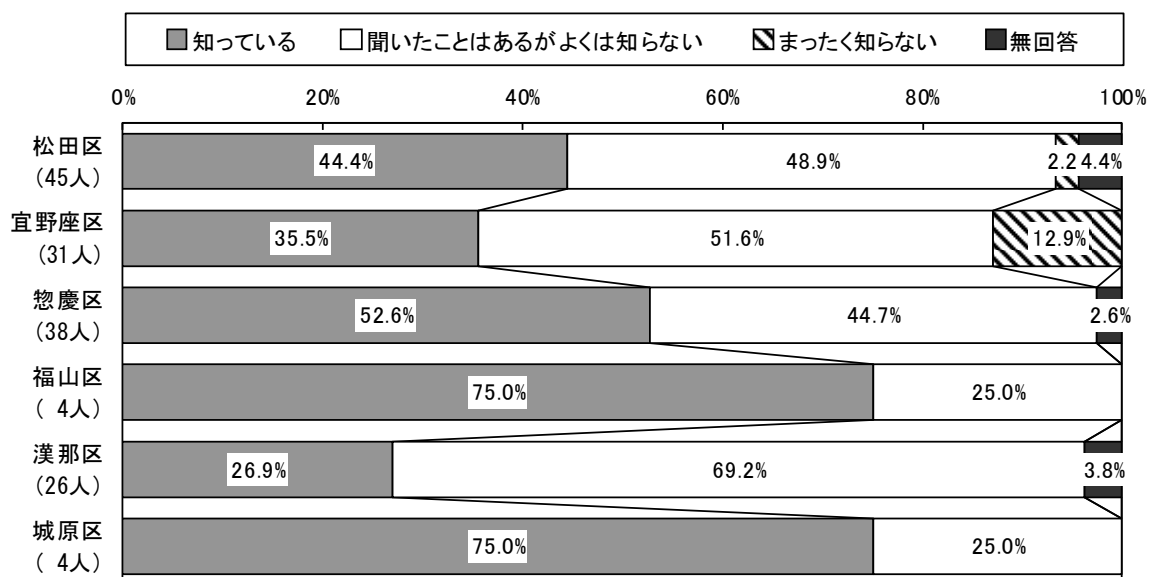
認定こども園については、「聞いたことはあるがよくは知らない」が50.7%と半数以上を占め、「知っている」が43.2%となります。



地区別にみると、認定こども園について「知っている」は、「福山区」と「城原区」がともに75.0%と最も高く、「漢那区」は26.9%と最も低く、地区によって周知度が大きく異なります。

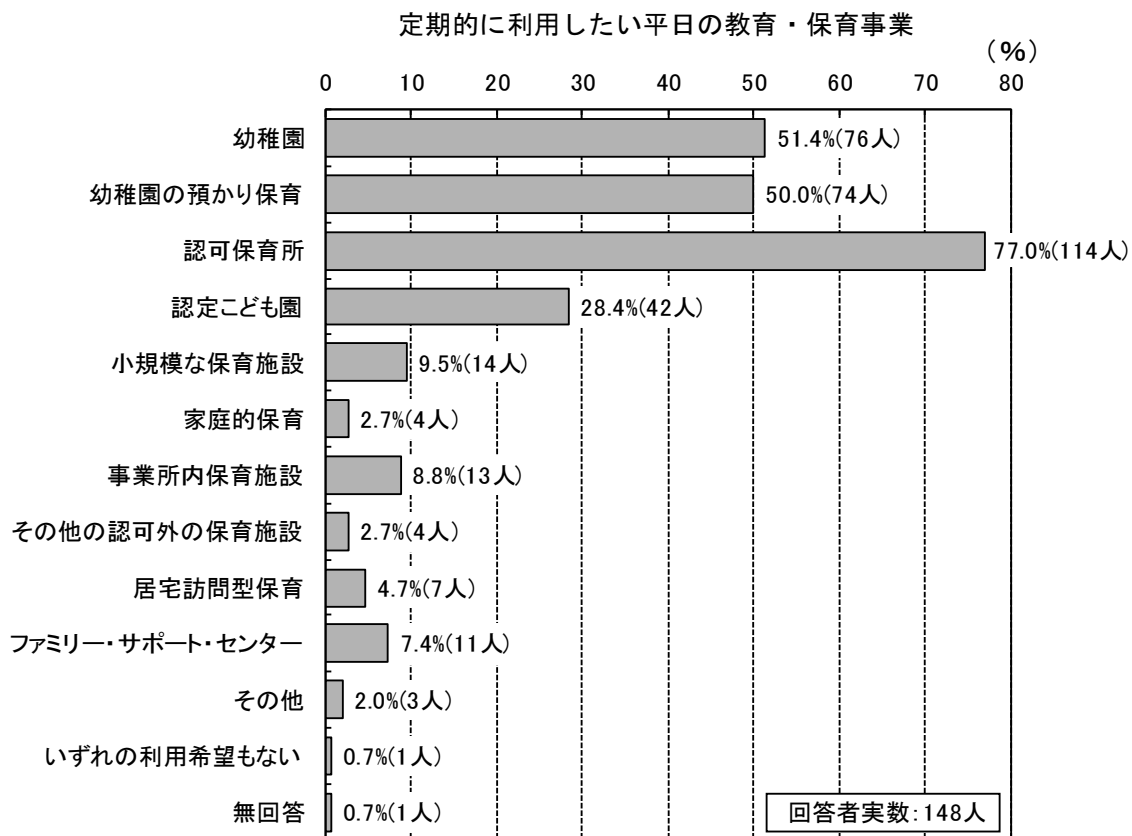
一方、「聞いたことはあるがよくは知らない」は、「漢那区」が69.2%と最も高く、次に「宜野座区」が51.6%となります。

認定こども園の周知度（地区別）



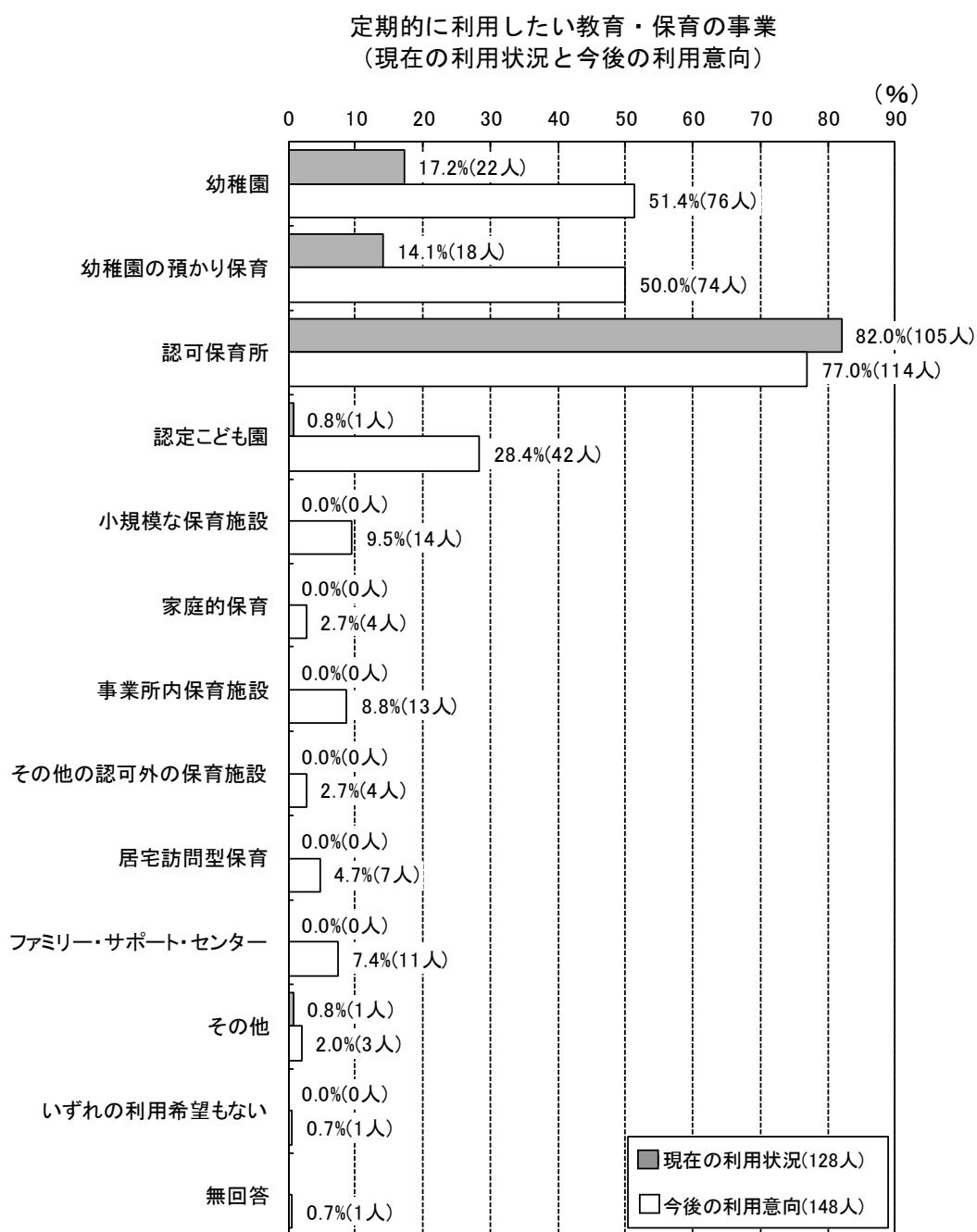
(13) 定期的に利用したい教育・保育の事業（複数回答）

現在の利用の有無に関わらず、今後定期的に利用したい教育・保育の事業については、「認可保育所」が77.0%と最も高く、次に「幼稚園」が51.4%、「幼稚園の預かり保育」が50.0%、「認定こども園」が28.4%となります。



現在の利用状況と比べると、「認可保育所」の利用意向は、現在の利用率より5.0ポイント低くなりますが、そのほかの事業では現在の利用率より利用意向の割合が高く、中でも「幼稚園の預かり保育」で35.9ポイント、「幼稚園」で34.2ポイント高くなります。

また、「小規模な保育施設」など現在利用のない教育・保育の事業についても利用意向があります。



子どもの年齢別にみると、「認可保育所」は、「1歳」から「4歳」が90%から100%と高く、「0歳」が75.0%となります。また、「5歳」が47.8%、「6歳」が27.3%と低くなります。

「幼稚園」は、「5歳」が82.6%と最も高く、次に「6歳」が77.3%となります。また、「幼稚園の預り保育」も、「5歳」が82.6%と最も高く、次に「6歳」が81.8%となります。

「認定こども園」は、「1歳」が40.0%と最も高く、次に「3歳」が39.1%、「0歳」が37.5%と高く、そのほかの年齢ではいずれも20%台の割合となります。

「小規模な保育施設」は、「1歳」が30.0%と最も高く、次に「0歳」が25.0%で、「3歳」と「5歳」が4.3%と最も低くなります。

また、「ファミリー・サポート・センター」は、「2歳」から「5歳」まで利用希望があり、「2歳」が18.2%と最も高く、次に「5歳」が13.0%となります。

定期的に利用したい教育・保育の事業(子どもの年齢別)

	回答者実数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育所	認定こども園	小規模な保育施設	家庭的保育	事業所内保育施設	その他の認可外の保育施設	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	いずれの利用希望もない
0歳	8人	62.5% (5人)	50.0% (4人)	75.0% (6人)	37.5% (3人)	25.0% (2人)	—	12.5% (1人)	—	—	—	—	—
1歳	20人	45.0% (9人)	30.0% (6人)	90.0% (18人)	40.0% (8人)	30.0% (6人)	5.0% (1人)	15.0% (3人)	—	5.0% (1人)	—	—	—
2歳	33人	24.2% (8人)	24.2% (8人)	97.0% (32人)	21.2% (7人)	12.1% (4人)	9.1% (3人)	15.2% (5人)	9.1% (3人)	9.1% (3人)	18.2% (6人)	3.0% (1人)	—
3歳	23人	52.2% (12人)	47.8% (11人)	100.0% (23人)	39.1% (9人)	4.3% (1人)	—	13.0% (3人)	4.3% (1人)	—	4.3% (1人)	—	—
4歳	19人	31.6% (6人)	42.1% (8人)	94.7% (18人)	21.1% (4人)	—	—	—	—	—	5.3% (1人)	—	—
5歳	23人	82.6% (19人)	82.6% (19人)	47.8% (11人)	26.1% (6人)	4.3% (1人)	—	4.3% (1人)	—	8.7% (2人)	13.0% (3人)	4.3% (1人)	—
6歳	22人	77.3% (17人)	81.8% (18人)	27.3% (6人)	22.7% (5人)	—	—	—	—	4.5% (1人)	—	4.5% (1人)	4.5% (1人)

地区別にみると、「認可保育所」は、「福山区」が100.0%、次に「惣慶区」が81.6%、「松田区」、「宜野座区」、「漢那区」がいずれも70%台で、「城原区」が50.0%と最も低くなります。

「幼稚園」と「幼稚園の預かり保育」は、「城原区」が75.0%と最も高く、「認定こども園」は、「宜野座区」が38.7%と最も高くなります。

また、「城原区」では、「幼稚園」、「幼稚園の預かり保育」、「認可保育所」、「認定こども園」以外の教育・保育の事業の利用を望む回答はありません。

定期的に利用したい教育・保育の事業(地区別)

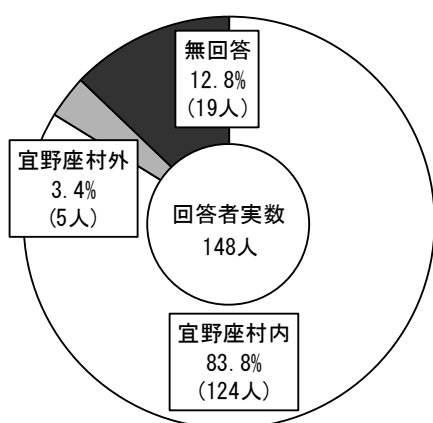
	回答者実数	幼稚園	幼稚園の預かり保育	認可保育所	認定こども園	小規模な保育施設	家庭的保育	事業所内保育施設	その他の認可外の保育施設	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	いずれの利用希望もない
松田区	45人	51.1% (23人)	46.7% (21人)	75.6% (34人)	33.3% (15人)	8.9% (4人)	2.2% (1人)	11.1% (5人)	—	4.4% (2人)	8.9% (4人)	—	—
宜野座区	31人	54.8% (17人)	48.4% (15人)	74.2% (23人)	38.7% (12人)	9.7% (3人)	3.2% (1人)	9.7% (3人)	3.2% (1人)	3.2% (1人)	6.5% (2人)	6.5% (2人)	3.2% (1人)
惣慶区	38人	52.6% (20人)	60.5% (23人)	81.6% (31人)	28.9% (11人)	7.9% (3人)	2.6% (1人)	5.3% (2人)	—	—	2.6% (1人)	2.6% (1人)	—
福山区	4人	50.0% (2人)	25.0% (1人)	100.0% (4人)	25.0% (1人)	50.0% (2人)	25.0% (1人)	25.0% (1人)	50.0% (2人)	50.0% (2人)	50.0% (2人)	—	—
漢那区	26人	42.3% (11人)	42.3% (11人)	76.9% (20人)	7.7% (2人)	7.7% (2人)	—	7.7% (2人)	3.8% (1人)	7.7% (2人)	7.7% (2人)	—	—
城原区	4人	75.0% (3人)	75.0% (3人)	50.0% (2人)	25.0% (1人)	—	—	—	—	—	—	—	—

(14) 教育・保育の事業を利用したい場所

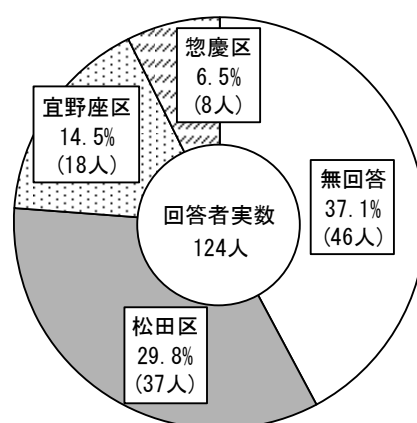
教育・保育の事業を利用したい場所については、「宜野座村内」が83.8%で、現在の利用場所の割合（村内95.3%）と比べ、11.5ポイント低くなります。

また、教育・保育の事業を利用したい、宜野座村内の地区をみると、「松田区」が29.8%、「宜野座区」が14.5%、「惣慶区」が6.5%となります。なお、「無回答」の割合が37.1%と高いことから、一概には言えません。

教育・保育の事業を利用したい場所



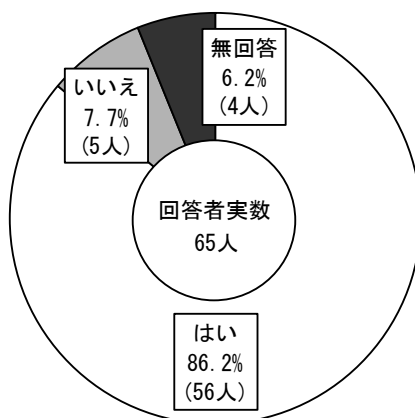
教育・保育の事業を利用したい地区



(15) 幼稚園利用希望の強さ

現在、利用している、利用していないに関わらず、特に幼稚園（幼稚園の預り保育をあわせて利用する場合を含む）の利用を強く希望するかについては、「はい」が86.2%とほとんどを占め、「いいえ」が7.7%となります。

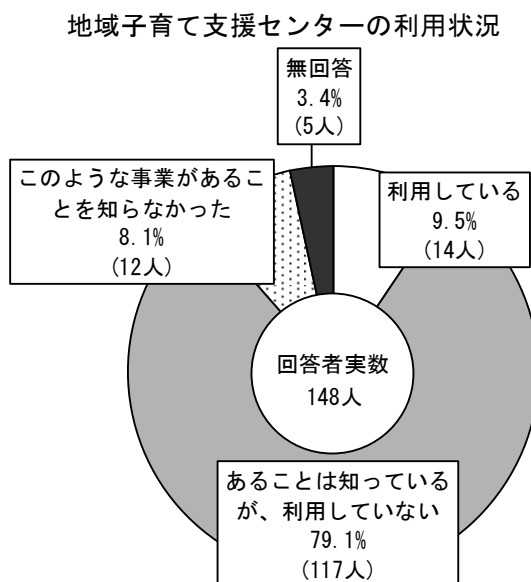
幼稚園利用希望の強さ



6. 地域の子育て支援事業の利用

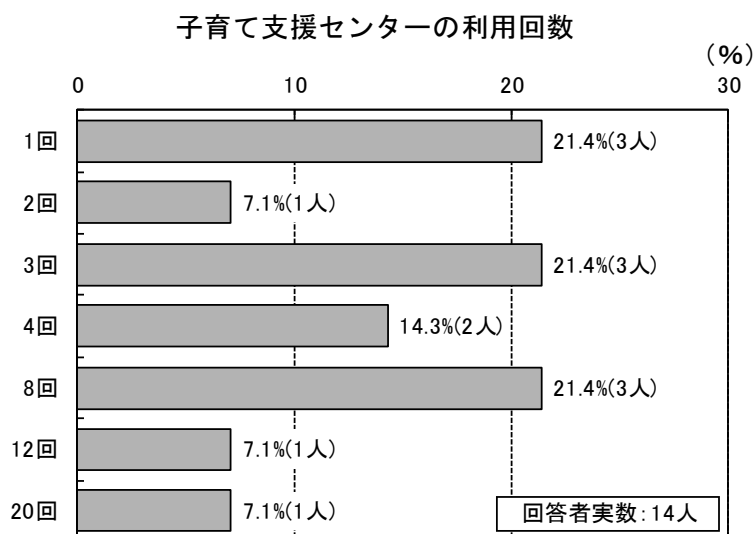
(1) 子育て支援センターの利用状況

子育て支援センター（ぽかぽか、すくすく）の利用については、「あることは知っているが利用していない」が79.1%と約8割を占め、「利用している」が9.5%、「このような事業があることを知らなかった」が8.1%となります。



(2) 子育て支援センターの利用回数

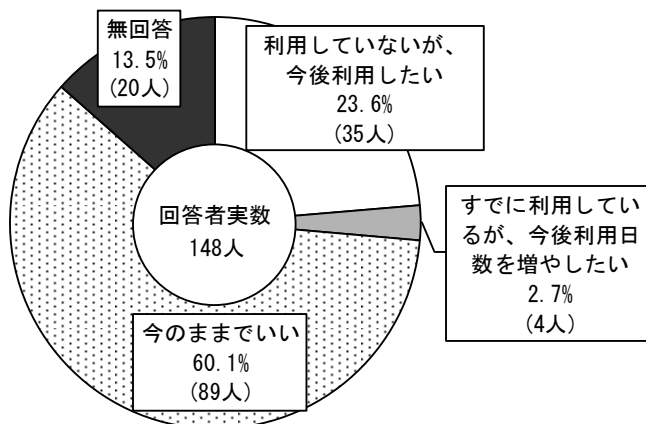
子育て支援センターを利用していると答えた保護者の、1ヶ月あたりの利用回数は、「1回」と「3回」、「8回」がともに21.4%と最も高く、次に「4回」が14.3%となります。利用回数が最も多いのは「20回」となります。



(3) 子育て支援センターの利用希望

子育て支援センターの今後の利用希望については、「今のままでいい」が60.1%と最も高く、次に「利用していないが、今後利用したい」が23.6%となります。

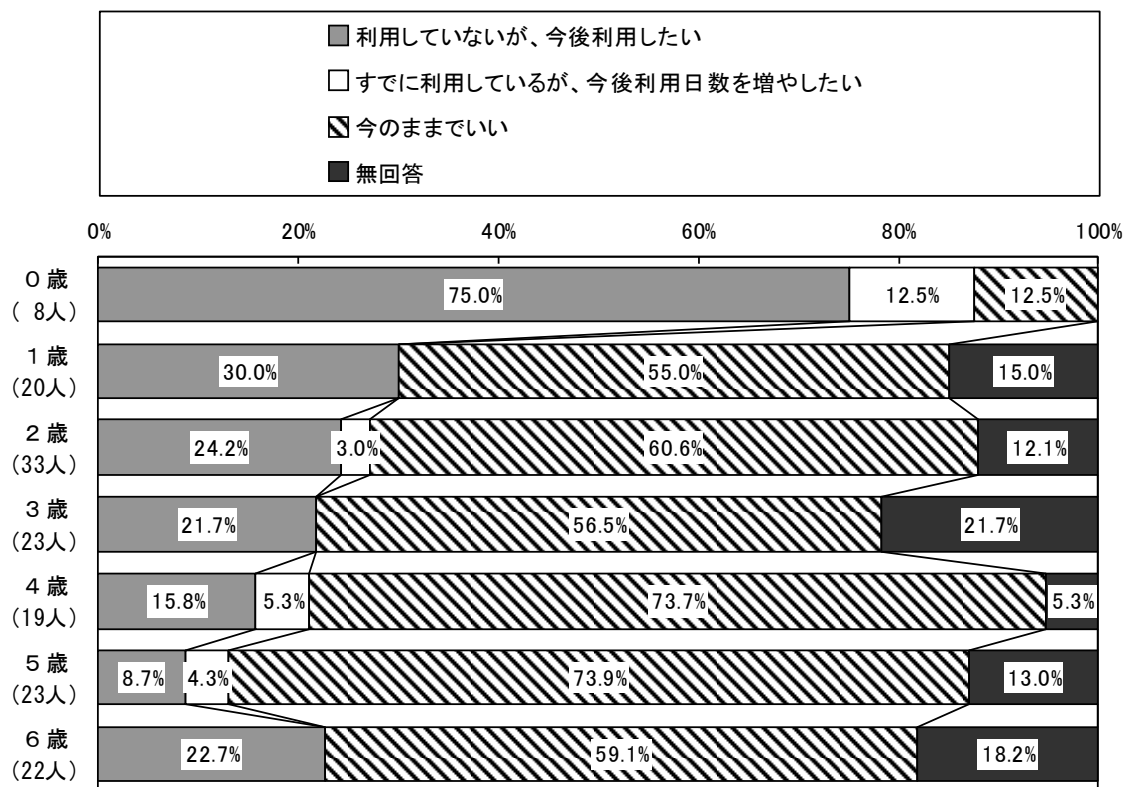
子育て支援センターの今後の利用希望



子どもの年齢別にみると、「利用していないが、今後利用したい」は、「0歳」が75.0%と最も高く、「0歳」から「5歳」にかけて、年齢が高いほど割合は低くなる傾向にあります。

一方、「今のままでいい」は、「0歳」が12.5%と最も低く、そのほかの年齢ではいずれも50%以上を占め、そのうち「4歳」と「5歳」がともに73%台と高くなります。

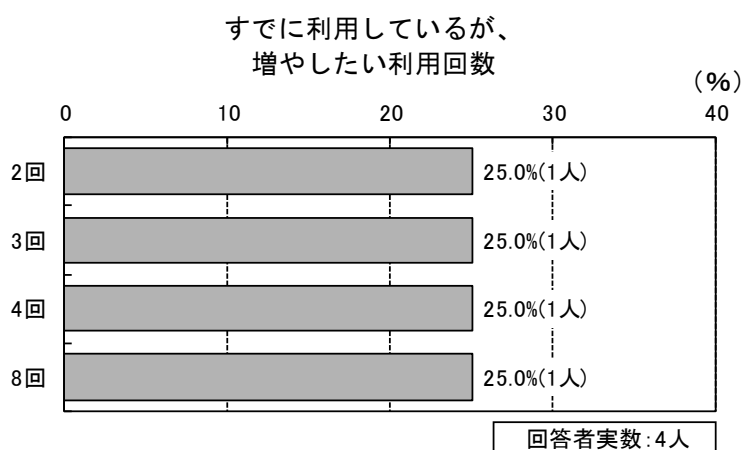
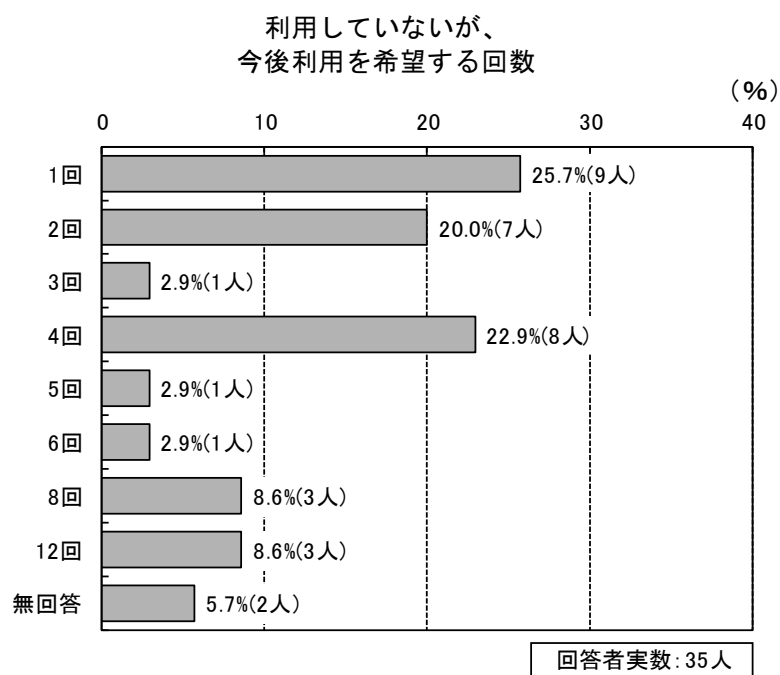
子育て支援センターの今後の利用希望（子どもの年齢別）



(4) 子育て支援センターの利用希望回数

子育て支援センターを「利用していないが、今後利用したい」と答えた保護者の、希望する1ヶ月あたりの利用希望回数は、「1回」が25.7%と最も高く、次に「4回」が22.9%、「2回」が20.0%となります。

「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」と答えた保護者の、希望する1ヶ月あたりの増やしたい回数は、「2回」から「8回」までの希望があり、それぞれ25.0%となります。



(5) 子育て支援事業の周知及び利用等

1) 周知状況

宜野座村内で実施されている子育て支援事業について、「知っている」は、「パパ・ママサークル（離乳食実習、ベビーマッサージ等）」が80.4%と最も高く、次に「役場にて来庁相談（電話相談も含む）」が51.4%となります。

子育て支援事業の周知状況

	回答者 実数	知っている	知らない	無回答
パパ・ママサークル(離乳食実習、ベビーマッサージ等)	148人	80.4% (119人)	16.2% (24人)	3.4% (5人)
役場にて来庁相談(電話相談も含む)	148人	51.4% (76人)	45.3% (67人)	3.4% (5人)
家庭教育に関する事業(やーなれー運動)	148人	44.6% (66人)	52.0% (77人)	3.4% (5人)
教育相談室(中央公民館2階)	148人	20.9% (31人)	75.7% (112人)	3.4% (5人)

2) 利用状況

宜野座村内で実施されている子育て支援事業の利用について、「利用したことがある」は、「パパ・ママサークル（離乳食実習、ベビーマッサージ等）」が50.7%と最も高く、そのほかの事業については12.8%以下の割合で、あまり利用されていない状況です。

子育て支援事業の利用状況

	回答者 実数	利用したことがある	利用したことがない	無回答
パパ・ママサークル(離乳食実習、ベビーマッサージ等)	148人	50.7% (75人)	40.5% (60人)	8.8% (13人)
役場にて来庁相談(電話相談も含む)	148人	12.8% (19人)	77.0% (114人)	10.1% (15人)
家庭教育に関する事業(やーなれー運動)	148人	4.1% (6人)	81.1% (120人)	14.9% (22人)
教育相談室(中央公民館2階)	148人	1.4% (2人)	86.5% (128人)	12.2% (18人)

3) 今後の利用意向

宜野座村内で実施されている子育て支援事業の今後の利用意向について、「今後利用したい」は、「パパ・ママサークル（離乳食実習、ベビーマッサージ等）」が54.7%と最も高く、次に「教育相談室（中央公民館2階）」が39.9%となります。

これまでの利用状況と比べると、「パパ・ママサークル（離乳食実習、ベビーマッサージ等）」の利用意向は4ポイント高くなりますが、そのほかの事業についても利用意向の割合が高く、中でも、「教育相談室（中央公民館2階）」の利用意向が38.5ポイント高く、「家庭教育に関する事業（やーなれー運動）」も利用意向が35.1ポイント高くなります。

なお、「2）利用状況」とともに、「無回答」の割合が比較的高くなっていますが、周知していない事業の割合が高いことによるものと考えられます。

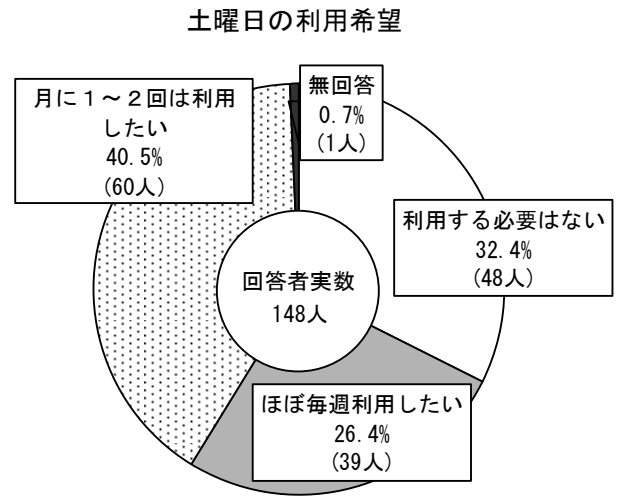
子育て支援事業の利用意向

	回答者 実数	今後利用したい	利用しない	無回答
パパ・ママサークル(離乳食実習、ベビーマッサージ等)	148人	54.7% (81人)	29.1% (43人)	16.2% (24人)
役場にて来庁相談(電話相談も含む)	148人	37.8% (56人)	47.3% (70人)	14.9% (22人)
家庭教育に関する事業(やーなれー運動)	148人	39.2% (58人)	41.2% (61人)	19.6% (29人)
教育相談室(中央公民館 2 階)	148人	39.9% (59人)	41.2% (61人)	18.9% (28人)

7. 土曜・休日や長期休暇中の教育・保育の事業の利用希望について

(1) 土曜日の利用希望

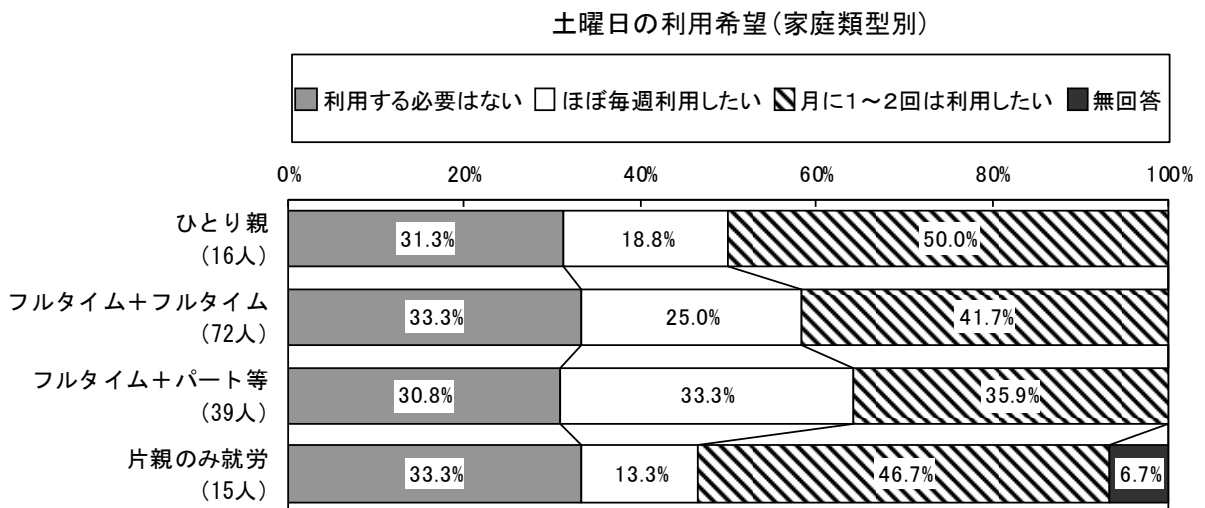
定期的な教育・保育の事業の土曜日の利用希望については、「月に1～2回は利用したい」が40.5%と最も高く、「ほぼ毎週利用したい」の26.4%を合わせると66.9%が土曜日の利用を希望しています。



家庭類型別にみると、「利用する必要はない」は、どの家庭でも30%台の割合で、大きな違いはありません。

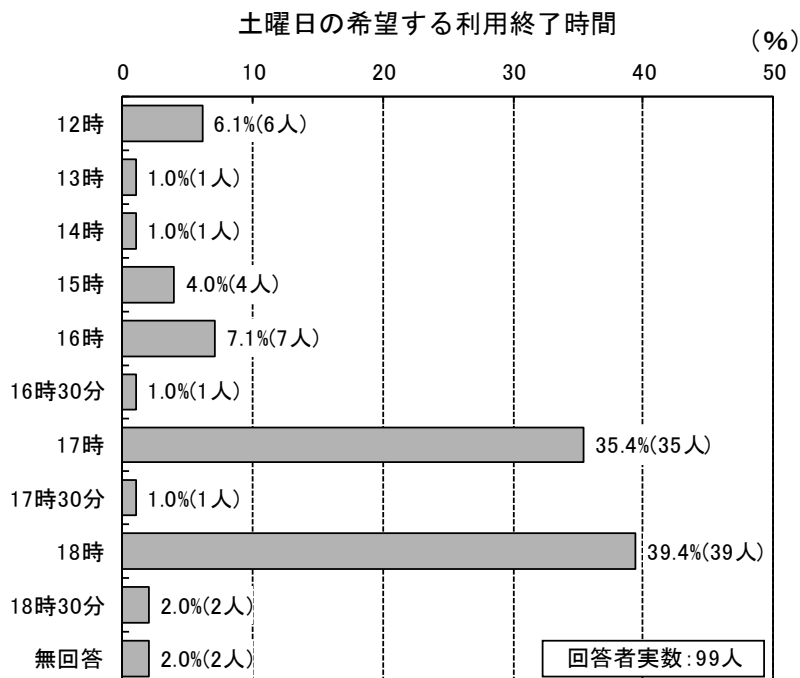
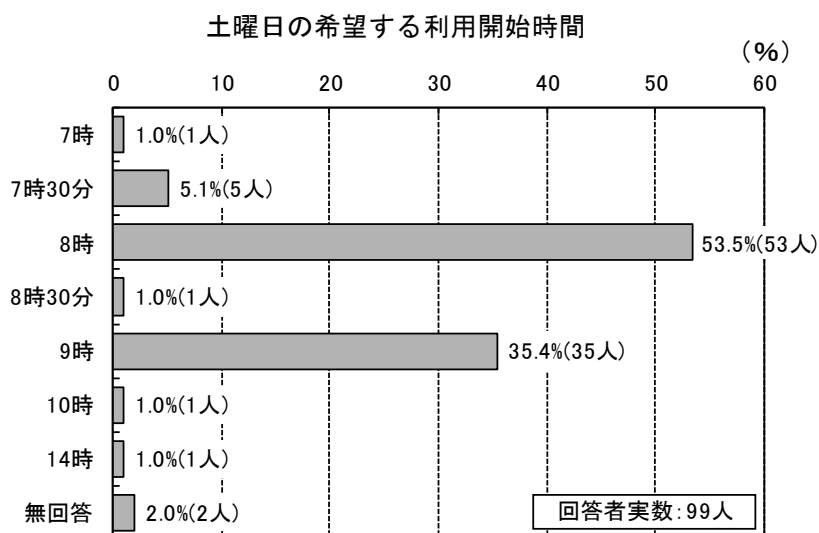
「ほぼ毎週利用したい」は、「フルタイム＋パート等」が33.3%と最も高く、「片親のみ就労」が13.3%と最も低くなります。

また、「月に1～2回は利用したい」は、「ひとり親」が50.0%と最も高く、次に「片親のみ就労」と「フルタイム＋フルタイム」が40%台、「フルタイム＋パート等」が35.9%と最も低くなります。



「ほぼ毎週利用したい」あるいは「月に1～2回利用したい」と答えた保護者の、希望する利用開始時間は、「7時」から「14時」まであり、「8時」が53.5%と最も高く、次に「9時」が35.4%となります。平日の利用希望と比べると、開始時間は、「8時」が10.5ポイント高く、「9時」が16.6ポイント高くなります。

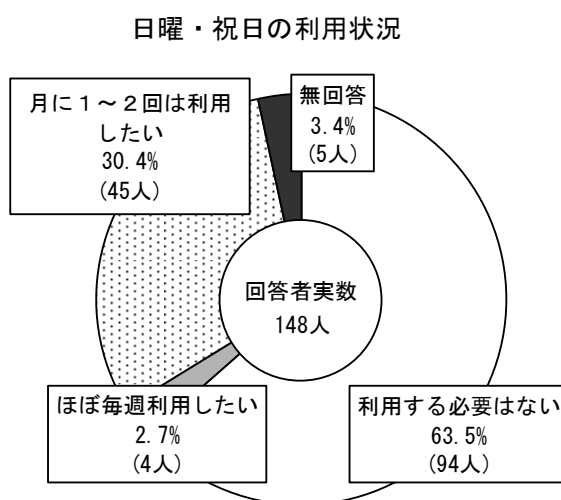
また、希望する終了時間は、「18時」が39.4%と最も高く、次に「17時」が35.4%となります。平日と同じ時間に終了したいと考える保護者が多い結果となります。



(2) 日曜日・祝日の利用希望

日曜・祝日の利用希望については、「利用する必要はない」が63.5と最も高くなります。

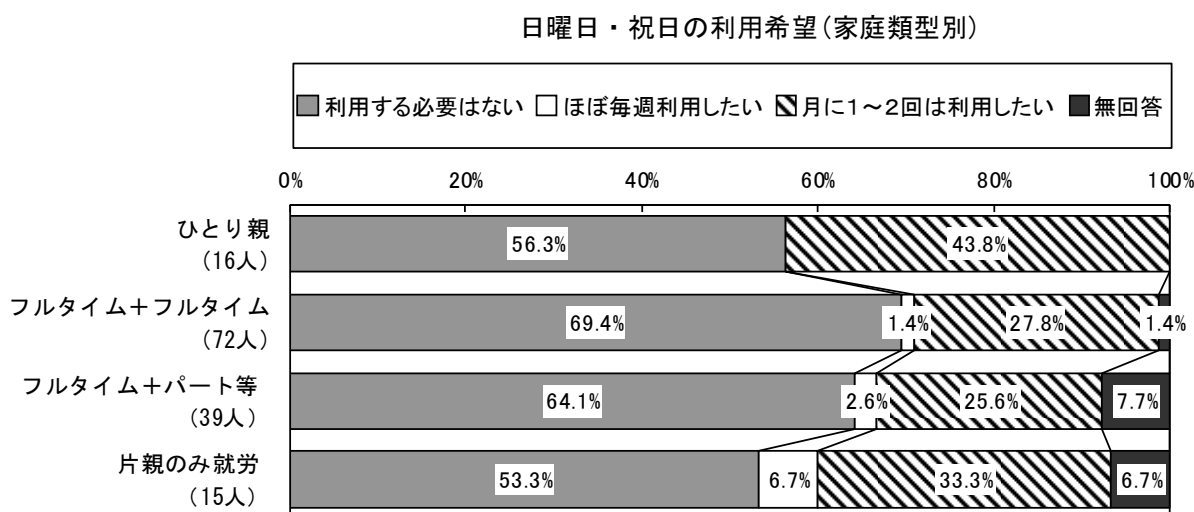
一方、「ほぼ毎週利用したい」が2.7%、「月に1～2回は利用したい」が30.4%で、合わせると33.1%が日曜日・祝日の利用を希望しています。



家庭類型別にみると、「利用する必要はない」は、「フルタイム＋フルタイム」が69.4%と最も高く、次に「フルタイム＋パート等」が64.1%となります。また、「片親のみ就労」が53.3%と最も低くなります。

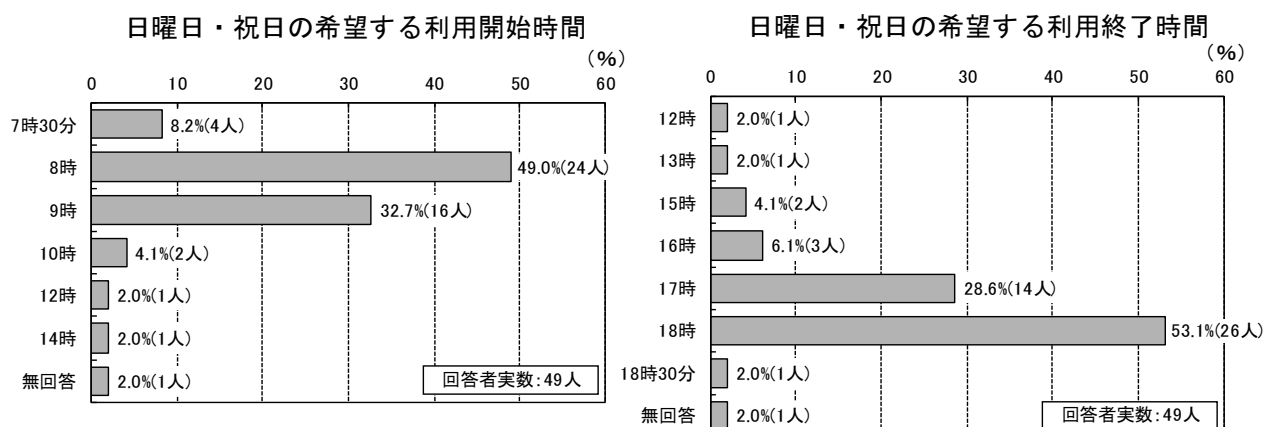
「月に1～2回は利用したい」は、「ひとり親」が43.8%と最も高く、次に「片親のみ就労」が33.3%で、「フルタイム＋パート等」が25.6%と最も低くなります。

また、「ほぼ毎週利用したい」は、「片親のみ就労」が6.7%と最も高くなります。



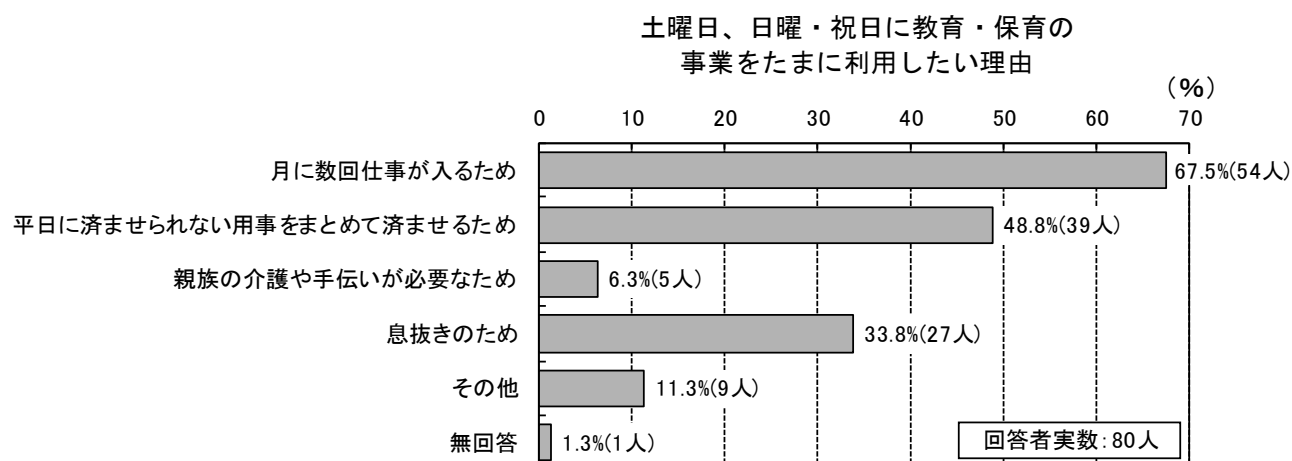
「ほぼ毎週利用したい」あるいは「月に1～2回利用したい」と答えた保護者の、希望する利用開始時間は、「8時」が49.0%と最も高く、次に「9時」が32.7%となります。土曜日の利用希望と比べると、「8時」は4.5ポイント低く、「9時」は2.7ポイント低くなります。

また、希望する終了時間は、「18時」が53.1%と最も高く、次に「17時」が28.6%となります。土曜日の利用希望と比べると、「18時」は13.7ポイント高く、「17時」は6.8ポイント低くなります。



(3) 土曜日、日曜・祝日に教育・保育の事業をたまに利用したい理由（複数回答）

土曜日または、日曜日・祝日に教育・保育の事業をたまに利用したい（「月に1～2回は利用したい」）と答えた理由については、「月に数回仕事が入るため」が67.5%と最も高く、次に「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が48.8%、「息抜きのため」が33.8%となります。



子どもの年齢別にみると、「月に数回仕事が入るため」は、「4歳」から「6歳」がいずれも80%台と高く、「1歳」と「3歳」が60%台で、「2歳」が52.4%と最も低くなります。

「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」は、「0歳」が100.0%、次に「3歳」が75.0%で、「5歳」が31.3%と最も低くなります。

「息抜きのため」は、「3歳」が58.3%と最も高く、次に「4歳」が50.0%で、「5歳」が12.5%と最も低くなります。

土曜日、日曜・祝日に教育・保育の事業をたまに利用したい理由(子どもの年齢別)

	回答者実数	月に数回仕事が入るため	平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため	親族の介護や手伝いが必要なため	息抜きのため	その他	無回答
0 歳	2人	—	100.0% (2人)	—	—	—	—
1 歳	12人	66.7% (8人)	50.0% (6人)	—	41.7% (5人)	16.7% (2人)	—
2 歳	21人	52.4% (11人)	47.6% (10人)	4.8% (1人)	38.1% (8人)	4.8% (1人)	4.8% (1人)
3 歳	12人	66.7% (8人)	75.0% (9人)	16.7% (2人)	58.3% (7人)	16.7% (2人)	—
4 歳	6人	83.3% (5人)	33.3% (2人)	16.7% (1人)	50.0% (3人)	16.7% (1人)	—
5 歳	16人	81.3% (13人)	31.3% (5人)	6.3% (1人)	12.5% (2人)	6.3% (1人)	—
6 歳	11人	81.8% (9人)	45.5% (5人)	—	18.2% (2人)	18.2% (2人)	—

家庭類型別にみると、「月に数回仕事が入るため」は、「フルタイム＋パート等」が85.0%と最も高く、次に「ひとり親」が70.0%で、「片親のみ就労」が25.0%と最も低くなります。

「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」は、「片親のみ就労」が87.5%と最も高く、次に「フルタイム＋フルタイム」と「フルタイム＋パート等」が40%台で、「ひとり親」が30.0%と最も低くなります。

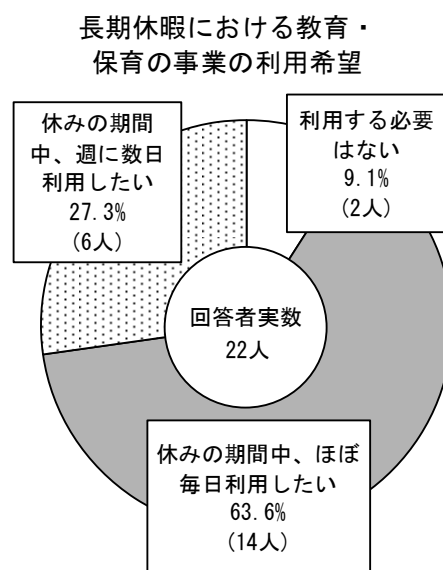
「息抜きのため」は、「片親のみ就労」が62.5%と最も高く、次に「フルタイム＋パート等」が40.0%で、「ひとり親」が20.0%と最も低くなります。

土曜日、日曜・祝日に教育・保育の事業をたまに利用したい理由（家庭類型別）

	回答者実数	月に数回仕事が入るため	平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため	親族の介護や手伝いが必要なため	息抜きのため	その他	無回答
ひとり親	10人	70.0% (7人)	30.0% (3人)	—	20.0% (2人)	—	—
フルタイム＋フルタイム	39人	66.7% (26人)	48.7% (19人)	7.7% (3人)	28.2% (11人)	15.4% (6人)	—
フルタイム＋パート等	20人	85.0% (17人)	45.0% (9人)	—	40.0% (8人)	—	5.0% (1人)
片親のみ就労	8人	25.0% (2人)	87.5% (7人)	25.0% (2人)	62.5% (5人)	12.5% (1人)	—

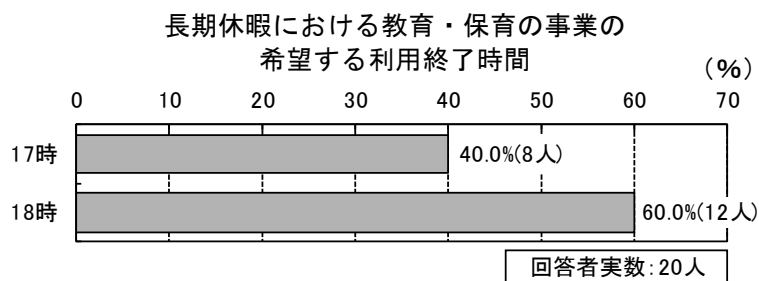
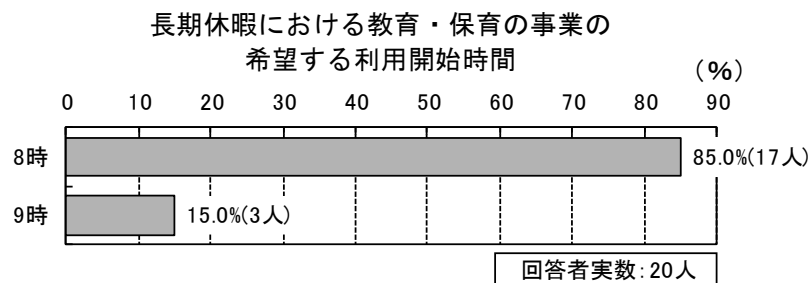
(4) 長期休暇における教育・保育の事業の利用希望

「幼稚園」を利用している子について、夏休み・冬休みなど長期休暇における教育・保育の事業の利用希望は、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が63.6%と最も高く、次に「休みの期間中、週に数日利用したい」が27.3%で、合わせると90.9%が利用を希望しています。



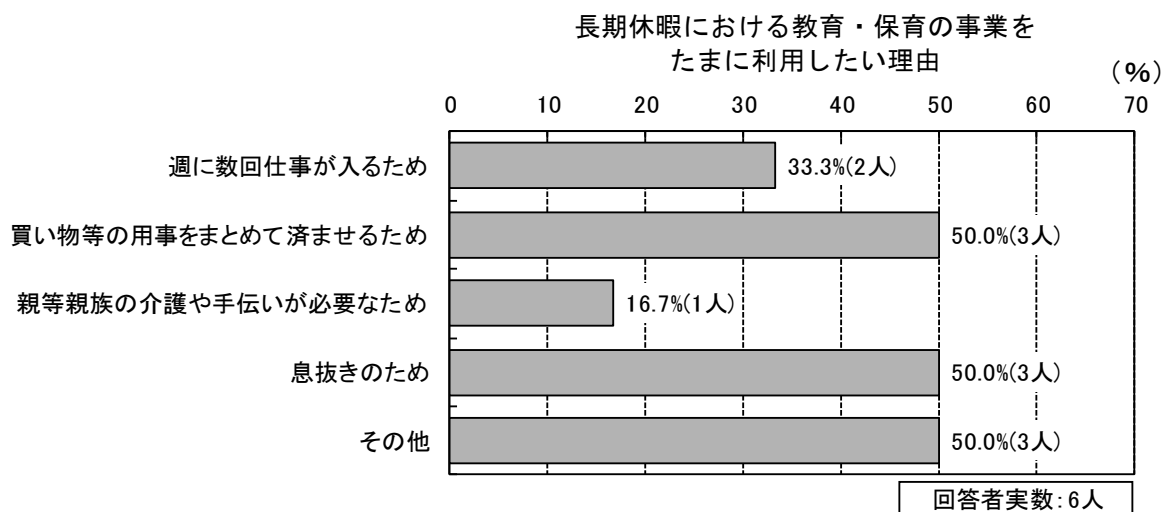
「ほぼ毎日利用したい」または「週に数日利用したい」と答えた保護者の、希望する利用開始時間は、「8時」と「9時」があり、「8時」が85.0%、「9時」が15.0%となります。

また、希望する利用終了時間は、「17時」と「18時」があり、「17時」が40.0%、「18時」が60.0%となります。



(5) 長期休暇における教育・保育の事業をたまに利用したい理由（複数回答）

長期休暇における教育・保育の事業をたまに利用したい（「休みの期間中、週に数日利用したい」）と答えた理由については、「買い物等の用事をまとめて済ませるため」と「息抜きのため」、「その他」がいずれも50.0%と高く、次に「週に数回仕事が入るため」が33.3%となります。

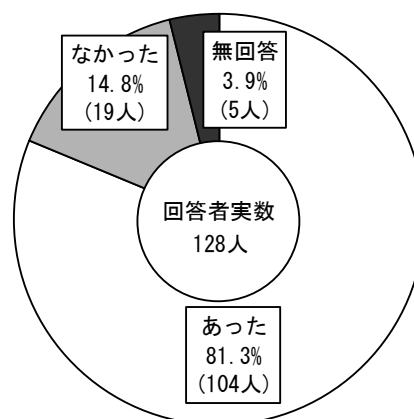


8. 子どもが病気などの際の対応について

(1) 病気やケガによる事業の利用の有無

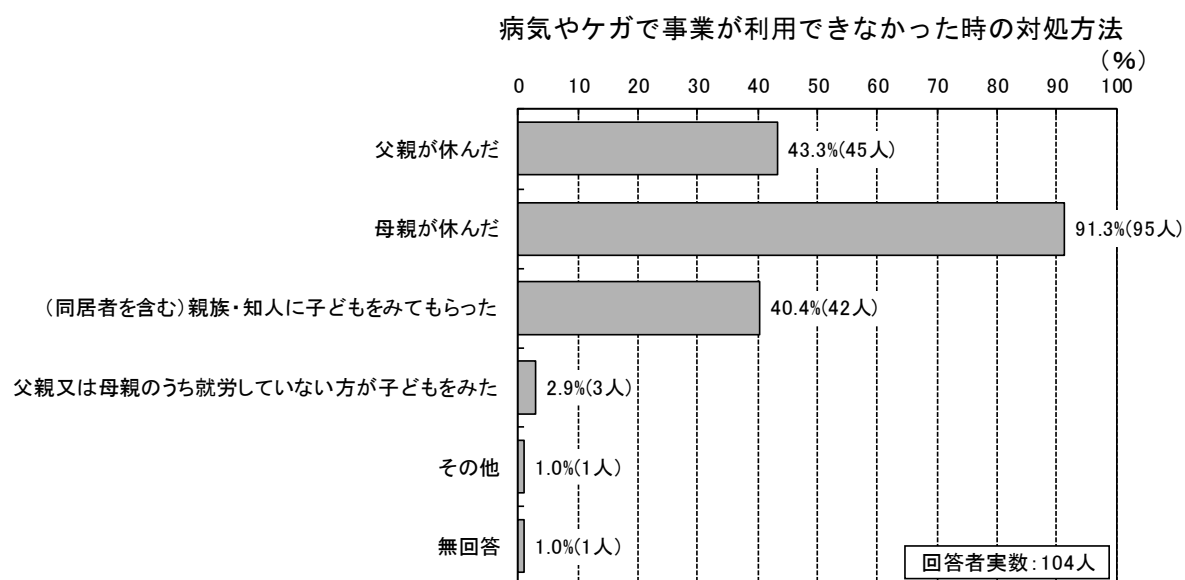
定期的な教育・保育の事業を「利用している」と答えた保護者が、この1年間に子どもが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことについては、「あった」が81.3%、「なかった」が14.8%となります。

病気やケガによる事業の利用状況



(2) 病気やケガで事業が利用できなかった時の対処方法（複数回答）

子どもの病気やケガで、普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合の対処方法については、「母親が休んだ」が91.3%と最も高くなります。次に「父親が休んだ」が43.3%、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」が40.4%となります。



次に、1年間の対処方法別の日数をみると、「父親が休んだ」では、「1日」から「20日」まであり、「2日」が26.7%と最も高く、次に「1日」が17.8%となります。

また、「母親が休んだ」では、「1日」から「90日」まであり、「10日」が16.8%と最も高く、次に「3日」が13.7%となります。

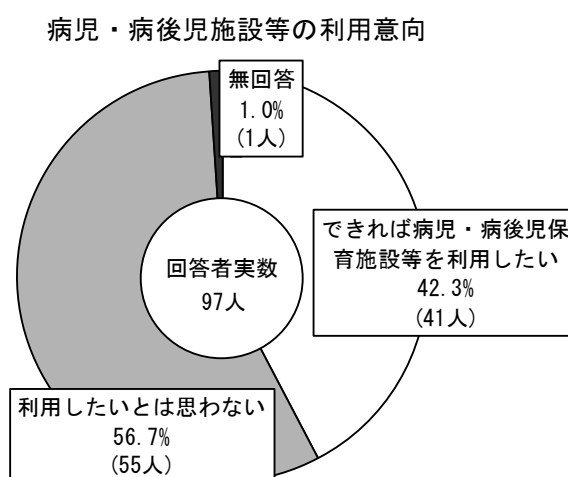
「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」では、「1日」から「20日」まであり、「2日」と「3日」がともに16.7%と最も高く、次に「1日」、「5日」、「10日」がいずれも14.3%となります。

1年間の対処方法と日数

①父親が休んだ		②母親が休んだ		③(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった	
1日	17.8% (8人)	1日	8.4% (8人)	1日	14.3% (6人)
2日	26.7% (12人)	2日	5.3% (5人)	2日	16.7% (7人)
3日	15.6% (7人)	3日	13.7% (13人)	3日	16.7% (7人)
4日	6.7% (3人)	4日	6.3% (6人)	4日	4.8% (2人)
5日	11.1% (5人)	5日	9.5% (9人)	5日	14.3% (6人)
7日	6.7% (3人)	6日	2.1% (2人)	7日	4.8% (2人)
8日	2.2% (1人)	7日	6.3% (6人)	10日	14.3% (6人)
10日	4.4% (2人)	8日	3.2% (3人)	20日	7.1% (3人)
20日	4.4% (2人)	10日	16.8% (16人)	無回答	7.1% (3人)
無回答	4.4% (2人)	12日	1.1% (1人)	回答者実数	42人
回答者実数	45人	14日	4.2% (4人)	⑨その他	
④父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた		15日	3.2% (3人)	2日	100.0% (1人)
3日	33.3% (1人)	20日	4.2% (4人)	回答者実数	1人
20日	33.3% (1人)	30日	3.2% (3人)		
30日	33.3% (1人)	35日	1.1% (1人)		
回答者時数	3人	40日	2.1% (2人)		
		60日	1.1% (1人)		
		90日	1.1% (1人)		
		無回答	7.4% (7人)		
		回答者実数	95人		

(3) 病児・病後児施設等の利用意向

子どもが病気やケガで、普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合の対処方法で、「父親が休んだ」あるいは「母親が休んだ」と答えた保護者の、病児・病後児保育の利用意向については、「利用したいとは思わない」が56.7%で、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したかった」が42.3%となります。



次に、「できれば病児・病後児保育施設等を利用したかった」と答えた保護者の、利用したいと思った日数は、「1日」から「30日」まであり、「5日」が19.5%と最も高く、次に「1日」と「10日」がともに17.1%となります。

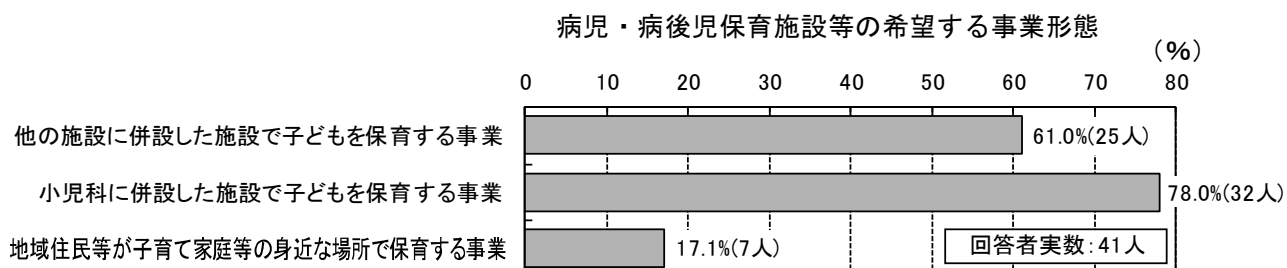
また、「無回答」を除いた35人の保護者の、利用したい延日数は223日で、1人あたり平均6.4日となります。

病児・病後児施設を
利用したい日数

1 日	17.1% (7 人)
2 日	7.3% (3 人)
3 日	7.3% (3 人)
4 日	7.3% (3 人)
5 日	19.5% (8 人)
7 日	2.4% (1 人)
10 日	17.1% (7 人)
12 日	2.4% (1 人)
30 日	4.9% (2 人)
無回答	14.6% (6 人)
回答者実数	41 人

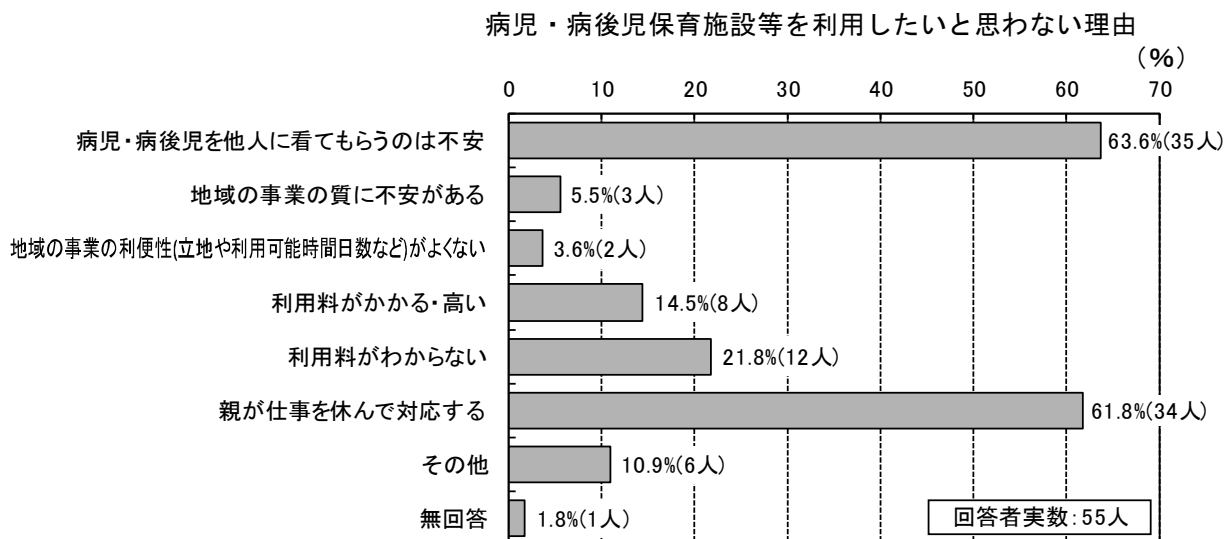
(4) 病児・病後児保育施設等の希望する事業形態（複数回答）

「できれば病児・病後児保育施設等を利用したかった」と答えた保護者の、子どもを預ける場合の望ましいと思われる事業形態は、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が78.0%と最も高く、次に「他の施設（幼稚園・保育所等）に併設した施設で子どもを保育する事業」が61.0%となります。



(5) 病児・病後児保育施設等を利用したいと思わない理由（複数回答）

病児・病後児保育施設等を「利用したいと思わない」と答えた保護者の、その理由については、「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が63.6%、「親が仕事を休んで対応する」が61.8%と高く、次に「利用料がわからない」が21.8%となります。



家庭類型別にみると、「親が仕事を休んで対応する」は、「フルタイム＋フルタイム」が67.7%と最も高く、次に「フルタイム＋パート等」が58.8%で、「ひとり親」が25.0%と最も低くなります。

「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」は、「フルタイム＋パート等」が76.5%と最も高く、「ひとり親」が50.0%と最も低くなります。

「利用料がかかる・高い」は、「ひとり親」が50.0%と最も高く、次に「フルタイム＋パート等」が17.6%で、「フルタイム＋フルタイム」が9.7%と最も低くなります。

「利用料がわからない」は、「フルタイム＋パート等」が41.2%で、次に「ひとり親」が25.0%、「フルタイム＋フルタイム」が12.9%と最も低くなります。

病児・病後児保育施設等を利用したいと思わない理由(家庭類型別)

	回答者実数	病児・病後児を他人に看てもらうのは不安	地域の事業の質に不安がある	地域の事業の利便性(立地や利用可能時間 日数など)がよくない	利用料がかかる・高い	利用料がわからない	親が仕事を休んで対応する	その他	無回答
ひとり親	4人	50.0% (2人)	—	—	50.0% (2人)	25.0% (1人)	25.0% (1人)	—	—
フルタイム ＋フルタイム	31人	58.1% (18人)	3.2% (1人)	3.2% (1人)	9.7% (3人)	12.9% (4人)	67.7% (21人)	12.9% (4人)	3.2% (1人)
フルタイム ＋パート等	17人	76.5% (13人)	5.9% (1人)		17.6% (3人)	41.2% (7人)	58.8% (10人)	11.8% (2人)	—

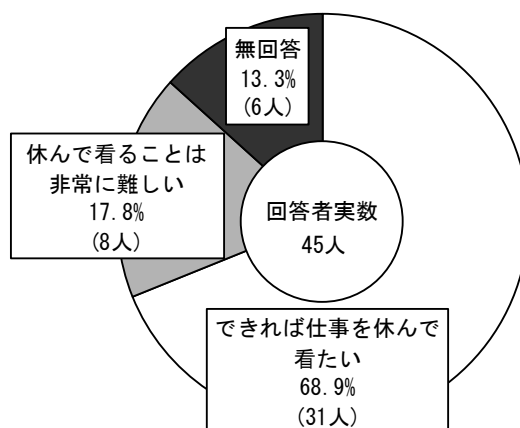
（６）父母のいずれかが仕事を休んで看ること

前項の「（２）病気やケガで事業が利用できなかった時の対処方法」で、子どもが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった際、「父親が休んだ」、「母親が休んだ」以外の対処方法を選択した保護者について、できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たいと思ったかについては、「できれば仕事を休んで看たい」が68.9%、「休んで看することは非常に難しい」が17.8%となります。

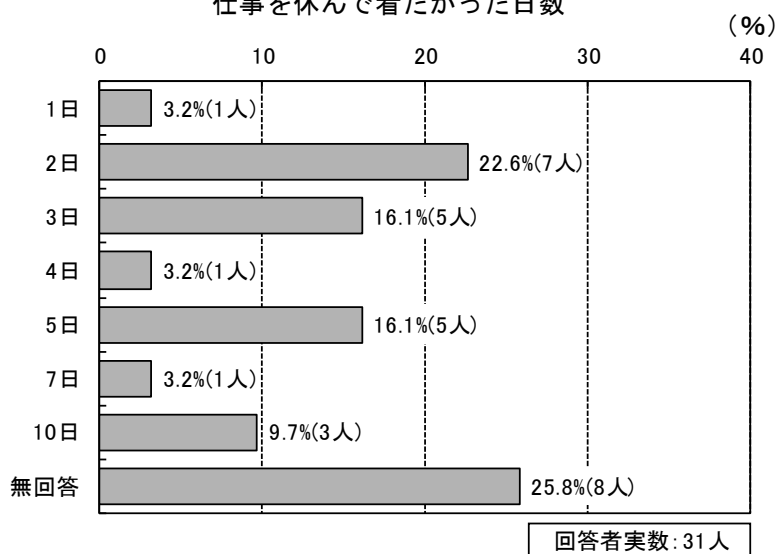
なお、「無回答」が13.3%と比較的高くなっていますが、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」とする保護者が含まれるためと考えられます。

次に、「できれば仕事を休んで子どもを看たい」と答えた保護者の、見たかった日数については、「1日」から「10日」まであり、「2日」が22.6%と最も高く、次に「3日」と「5日」がともに16.1%となります。なお、日数について「無回答」が25.8%と最も高くなっていますが、過ぎたことであり、具体的に休んで見たかった日数を把握できていない（記憶、記録がない）保護者が多いためと考えられます。

父母のいずれかが
仕事を休んで看ること

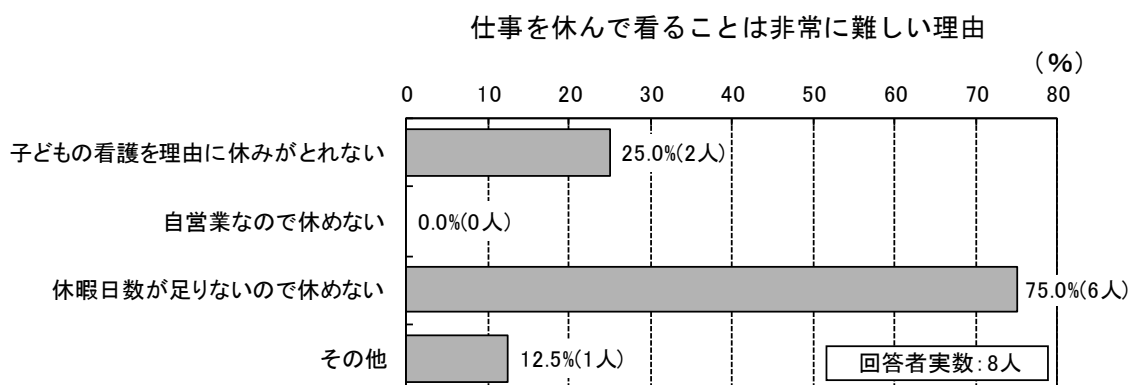


仕事を休んで見たかった日数



(7) 仕事を休んで看することは非常に難しい理由（複数回答）

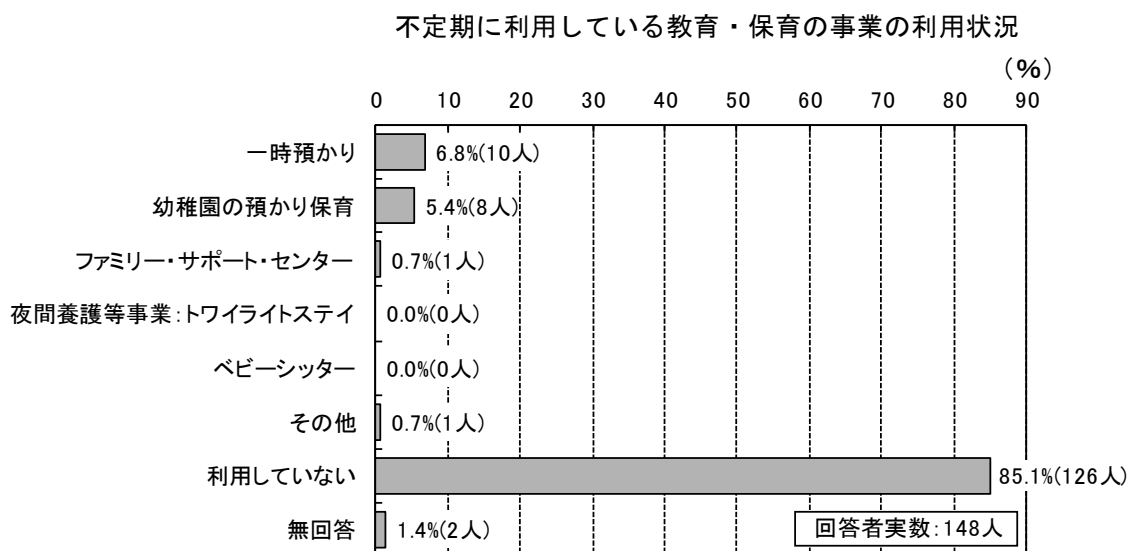
子どもが病気やけがで教育・保育の事業が利用できなかった場合に、「仕事を休んで看することが非常に難しい」と答えた理由については、「休假日数が足りないので休めない」が75.0%と最も高く、次に「子どもの看護を理由に休みがとれない」が25.0%となります。



9. 不定期の教育・保育の事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

(1) 不定期の教育・保育の事業の利用状況（複数回答）

保護者の私用、通院、不定期の就労等の目的で、不定期に利用している事業については、「利用していない」が85.1%とほとんどを占めます。一方、利用している事業では「一時預かり」、「幼稚園の預かり保育」、「ファミリー・サポート・センター」などがあります。



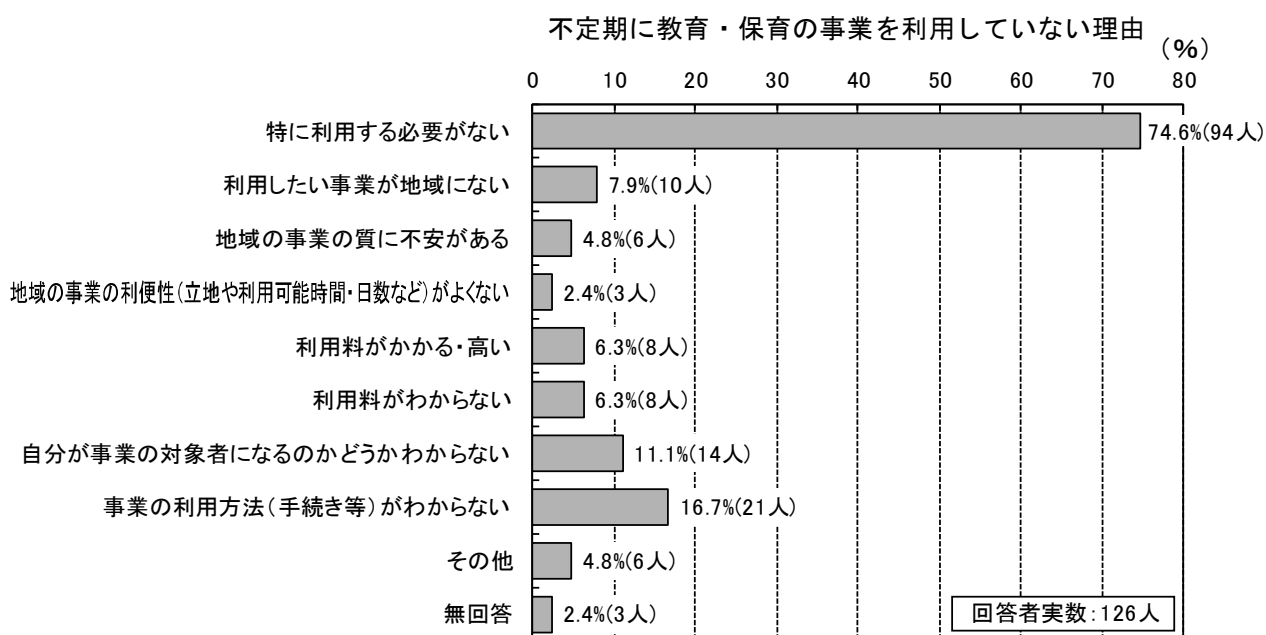
利用している事業の年間利用日数をみると、「一時預かり」は、「2日」から「48日」まであり、「幼稚園の預かり保育」は、「6日」から「260日」まであります。

利用している事業の年間利用日数

①一時預かり		②幼稚園の預かり保育		⑥その他	
2日	10.0% (1人)	6日	12.5% (1人)	5日	100.0% (1人)
3日	20.0% (2人)	10日	12.5% (1人)	回答者実数	1人
4日	10.0% (1人)	30日	12.5% (1人)		
5日	10.0% (1人)	200日	12.5% (1人)		
7日	10.0% (1人)	260日	12.5% (1人)		
40日	10.0% (1人)	無回答	37.5% (3人)		
45日	10.0% (1人)	回答者実数	8人		
48日	10.0% (1人)				
無回答	10.0% (1人)				
回答者実数	10人				

(2) 不定期的に教育・保育の事業を利用していない理由（複数回答）

不定期的に教育・保育の事業を「利用していない」と答えた保護者の、その理由については、「特に利用する必要がない」が74.6%と多数を占めます。そのほかの理由では「事業の利用方法（手続き等）がわからない」が16.7%、「自分が事業の対象者になるのかどうかかわからない」が11.1%、「利用したい事業が地域にない」が7.9%となっていますが、不定期の教育・保育の事業の利用に関する周知が深まれば、利用につながる可能性があります。

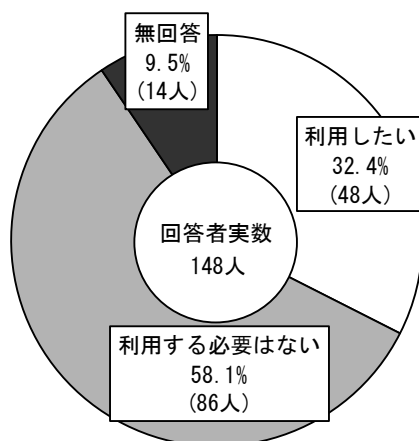


(3) 不定期の教育・保育の事業の利用希望

保護者の私用、通院、不定期の就労等による、不定期の教育・保育の事業の利用希望については、「利用したい」が32.4%で、「利用する必要はない」が58.1%となります。

次に、「利用したい」と答えた保護者の、利用したい年間合計日数は「2日」から「120日」まであり、「12日」が22.9%と最も高く、次に「10日」が12.5%となります。

不定期の教育・保育の事業の利用希望

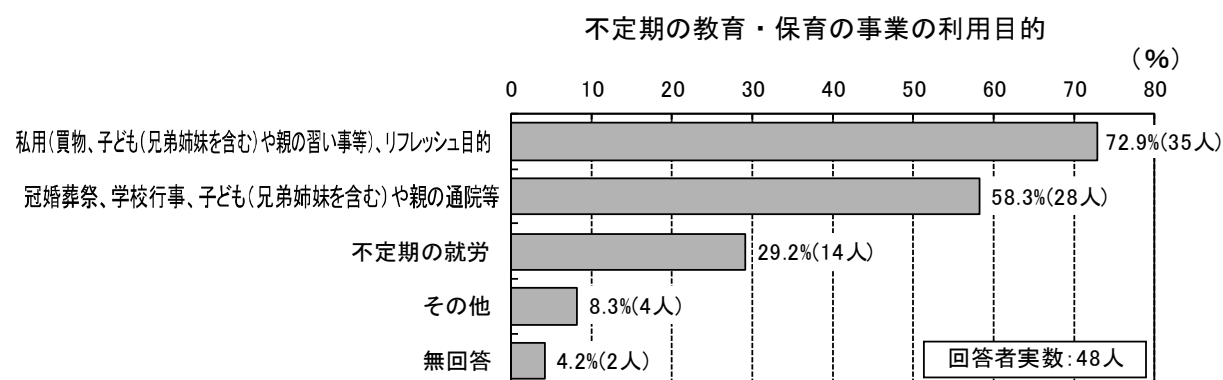


不定期の教育・保育の事業の年間利用希望日数

2 日	4.2% (2 人)
3 日	4.2% (2 人)
5 日	10.4% (5 人)
6 日	2.1% (1 人)
10 日	12.5% (6 人)
12 日	22.9% (11 人)
20 日	10.4% (5 人)
22 日	2.1% (1 人)
24 日	4.2% (2 人)
30 日	6.3% (3 人)
45 日	2.1% (1 人)
48 日	4.2% (2 人)
60 日	2.1% (1 人)
90 日	2.1% (1 人)
96 日	2.1% (1 人)
120 日	2.1% (1 人)
無回答	6.3% (3 人)
回答者実数	48 人

(4) 不特定の教育・保育の事業の利用目的・利用希望日数（複数回答）

不特定の教育・保育の事業を「利用したい」と答えた保護者の利用目的については、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」が72.9%、「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」が58.3%、「不特定の就労」が29.2%となります。



家庭類型別にみると、「私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的」は、「片親のみ就労」が90.0%と最も高く、次に「ひとり親」が83.3%で、「フルタイム＋パート等」が50.0%と最も低くなります。

「冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等」は、「フルタイム＋フルタイム」が77.3%と最も高く、次に「フルタイム＋パート等」が50.0%で、「片親のみ就労」が30.0%と最も低くなります。

「不特定の就労」は、「ひとり親」が50.0%と最も高く、そのほかの家庭ではいずれも20%台の割合となります。

不特定の教育・保育の利用目的（家庭類型別）

	回答者実数	私用（買物、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の習い事等）、リフレッシュ目的	冠婚葬祭、学校行事、子ども（兄弟姉妹を含む）や親の通院等	不特定の就労	その他	無回答
ひとり親	6人	83.3% (5人)	33.3% (2人)	50.0% (3人)	—	—
フルタイム＋フルタイム	22人	72.7% (16人)	77.3% (17人)	27.3% (6人)	9.1% (2人)	9.1% (2人)
フルタイム＋パート等	8人	50.0% (4人)	50.0% (4人)	25.0% (2人)	12.5% (1人)	—
片親のみ就労	10人	90.0% (9人)	30.0% (3人)	20.0% (2人)	10.0% (1人)	—

次に、利用目的別の年間の利用希望日数については、「私用(買物、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の習い事等)、リフレッシュ目的」では、「1日」から「96日」まであり、「12日」が22.9%と最も高く、次に「5日」が17.1%となります。

「冠婚葬祭、学校行事、子ども(兄弟姉妹を含む)や親の通院等」では、「1日」から「30日」まであり、「5日」が21.4%と最も高く、次に「12日」が14.3%となります。

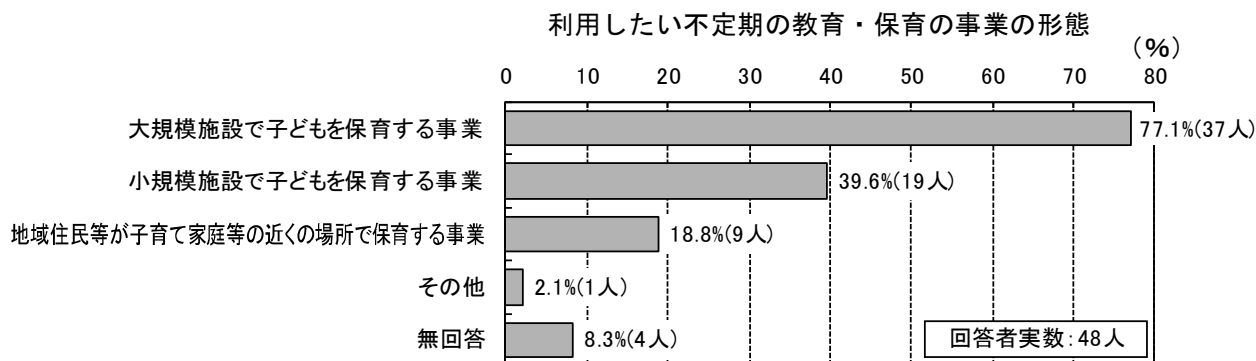
「不定期の就労」では、「1日」から「70日」まであり、「2日」が28.6%と最も高くなります。

利用目的別の年間利用希望日数

①私用		②冠婚葬祭、学校行事、 子どもや親の通院等		③不定期の就労	
1日	5.7% (2人)	1日	10.7% (3人)	1日	7.1% (1人)
2日	8.6% (3人)	2日	7.1% (2人)	2日	28.6% (4人)
4日	2.9% (1人)	3日	3.6% (1人)	8日	7.1% (1人)
5日	17.1% (6人)	4日	7.1% (2人)	9日	7.1% (1人)
6日	5.7% (2人)	5日	21.4% (6人)	10日	7.1% (1人)
10日	5.7% (2人)	6日	3.6% (1人)	12日	7.1% (1人)
12日	22.9% (8人)	8日	3.6% (1人)	40日	7.1% (1人)
20日	5.7% (2人)	10日	7.1% (2人)	48日	7.1% (1人)
30日	2.9% (1人)	12日	14.3% (4人)	70日	7.1% (1人)
45日	2.9% (1人)	20日	10.7% (3人)	無回答	14.3% (2人)
48日	2.9% (1人)	30日	3.6% (1人)	回答者実数	14人
50日	5.7% (2人)	無回答	7.1% (2人)		
96日	2.9% (1人)	回答者実数	28人		
無回答	8.6% (3人)			④その他	
回答者実数	35人			30日	25.0% (1人)
				90日	25.0% (1人)
				無回答	50.0% (2人)
				回答者実数	4人

(5) 利用したい不定期の教育・保育の事業の形態（複数回答）

不定期に教育・保育の事業を「利用したい」と答えた保護者の、希望する事業の形態については、「大規模施設で子どもを保育する事業（幼稚園・保育所等）」が77.1%と最も高く、次に「小規模施設で子どもを保育する事業（子育て支援センター等）」が39.6%となります。



子どもの年齢別にみると、「大規模施設で子どもを保育する事業（幼稚園・保育所等）」は、「3歳」と「6歳」がともに100.0%、「0歳」と「1歳」、「4歳」が80%台と高く、「5歳」が42.9%と最も低くなります。

「小規模施設で子どもを保育する事業（子育て支援センター等）」は、「0歳」が60.0%、「2歳」が50.0%と高く、「1歳」と「6歳」がともに33.3%と最も低くなります。

「地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業（ファミリー・サポート・センター等）」は、「5歳」が42.9%と最も高く、「0歳」が20.0%と最も低くなります。

利用したい不定期の教育・保育の事業の形態(子どもの年齢別)

	回答者 実数	大規模施設で 子どもを保育 する事業	小規模施設で 子どもを保育 する事業	地域住民等が子 育て家庭等の近 くの場所で保育 する事業	その他	無回答
0 歳	5人	80.0% (4人)	60.0% (3人)	20.0% (1人)	—	—
1 歳	6人	83.3% (5人)	33.3% (2人)	—	—	—
2 歳	12人	66.7% (8人)	50.0% (6人)	25.0% (3人)	8.3% (1人)	16.7% (2人)
3 歳	7人	100.0% (7人)	42.9% (3人)	28.6% (2人)	—	—
4 歳	5人	80.0% (4人)	—	—	—	20.0% (1人)
5 歳	7人	42.9% (3人)	42.9% (3人)	42.9% (3人)	—	14.3% (1人)
6 歳	6人	100.0% (6人)	33.3% (2人)	—	—	—

家庭類型別にみると、「大規模施設で子どもを保育する事業（幼稚園・保育所等）」は、どの家庭でも最も高くなります。

「小規模施設で子どもを保育する事業（子育て支援センター等）」は、「片親のみ就労」が50.0%と最も高く、次に「フルタイム＋フルタイム」が40.9%となります。

「地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業（ファミリー・サポート・センター等）」は、「ひとり親」が33.3%と最も高く、「フルタイム＋フルタイム」が18.2%と最も低くなります。

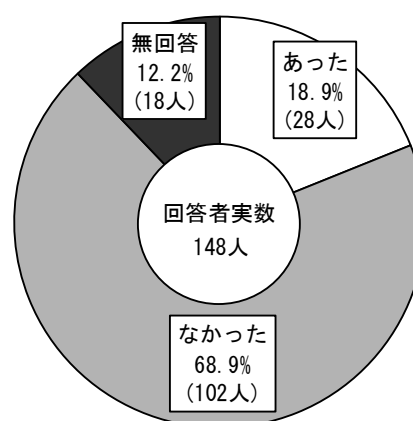
利用したい不定期の教育・保育の事業の形態（家庭類型別）

	回答者 実数	大規模施設で 子どもを保育 する事業	小規模施設で 子どもを保育 する事業	地域住民等が子 育て家庭等の近 くの場所で保育 する事業	その他	無回答
ひとり親	6人	66.7%（4人）	33.3%（2人）	33.3%（2人）	—	—
フルタイム ＋フルタイム	22人	68.2%（15人）	40.9%（9人）	18.2%（4人）	—	13.6%（3人）
フルタイム ＋パート等	8人	87.5%（7人）	25.0%（2人）	—	12.5%（1人）	—
片親のみ就労	10人	90.0%（9人）	50.0%（5人）	20.0%（2人）	—	10.0%（1人）

（6）泊りがけで子どもを家族以外にみてもらったこと

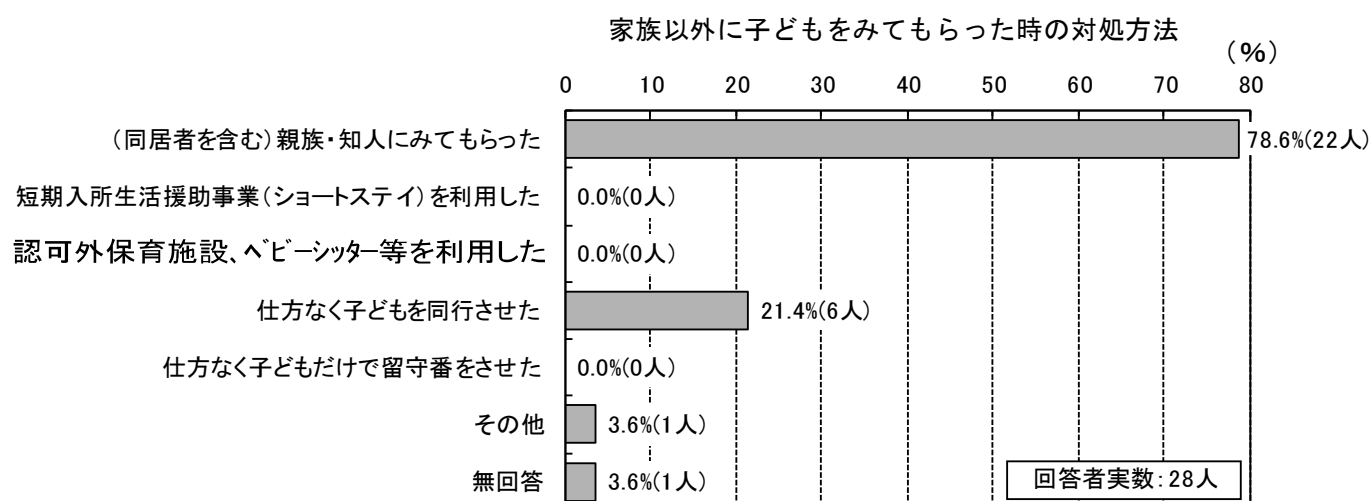
この1年間に保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならなかったことについては、「なかった」が68.9%、「あった」が18.9%となります。

泊りがけで子どもを家族以外に
みてもらったこと



(7) 泊りがけで家族以外に子どもをみてもらった時の対処方法

泊りがけで、家族以外に子どもをみてもらわなければならないことが「あった」と答えた保護者の、その時の対処方法は「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」が78.6%、「仕方なく子どもを同行させた」が21.4%となります。



次に、対処方法別の泊数をみると、「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」は、「1泊」から「20泊」まであり、「1泊」から「3泊」がいずれも22.7%と最も高くなります。また、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」は、「1泊」から「3泊」まであり、「2泊」が50.0%と最も高くなります。

対処方法と泊数

①(同居者を含む)親族・知人にみてもらった泊数

1泊	22.7% (5人)
2泊	22.7% (5人)
3泊	22.7% (5人)
5泊	13.6% (3人)
6泊	4.5% (1人)
10泊	9.1% (2人)
20泊	4.5% (1人)
回答者実数	22人

⑤仕方なく子どもだけで留守番をさせた

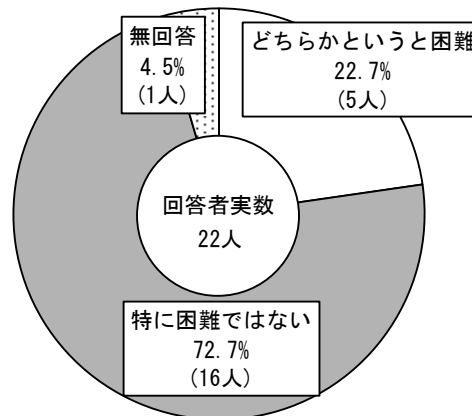
1泊	16.7% (1人)
2泊	50.0% (3人)
3泊	16.7% (1人)
無回答	16.7% (1人)
回答者実数	6人

⑥その他

2泊	100.0% (1人)
回答者実数	1人

また、子どもを泊りがけで「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」と答えた保護者の、その時の困難度については、「特に困難ではない」が72.7%と多数を占め、「どちらかという困難」が22.7%となります。

泊りがけで親族・知人に
みてもらった時の困難度



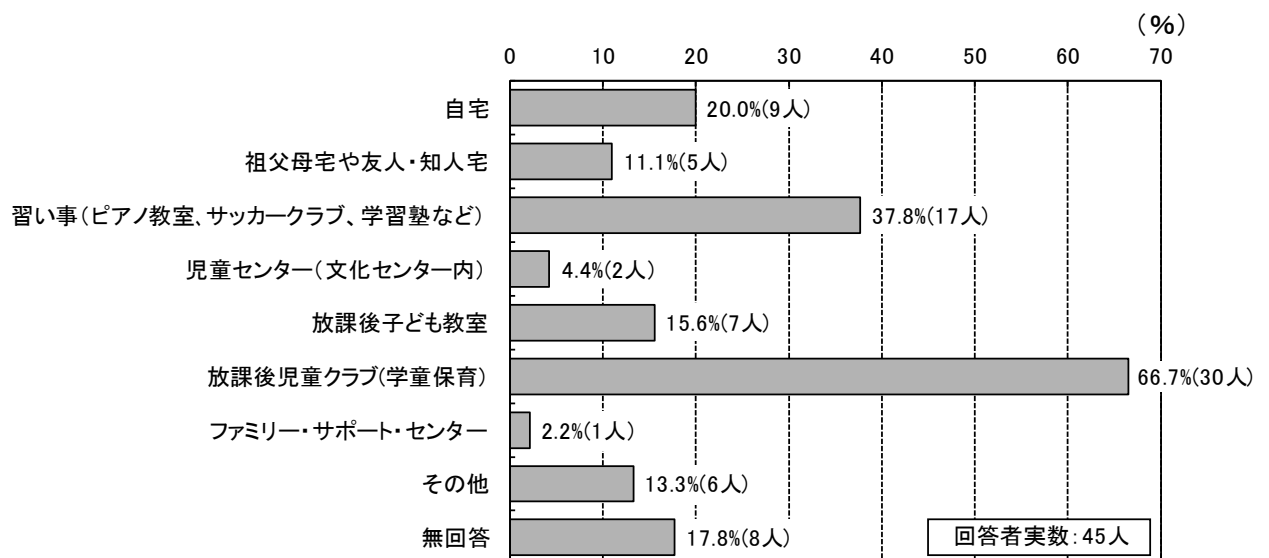
10. 小学校就学後の放課後の過ごし方

(1) 放課後に過ごさせたい場所（複数回答）

〈小学校低学年の間〉

就学前の子（5歳以上の子が対象）が小学校就学後に、放課後の時間を過ごしてもらいたい場所について、小学校低学年（1～3年生）の間は、「放課後児童クラブ（学童保育）」が66.7%と最も高くなります。次に「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が37.8%、「自宅」が20.0%、「放課後子ども教室」が15.6%となります。

放課後に過ごさせたい場所（小学校低学年の間）



地区別にみると、「放課後児童クラブ（学童保育）」は、「宜野座区」が84.6%と最も高く、次に「松田区」が71.4%で、「惣慶区」が40.0%と最も低くなります。

「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」は、「松田区」と「城原区」がともに50.0%、次に「惣慶区」が40.0%、「宜野座区」が38.5%となります。

放課後に過ごさせたい場所（小学校低学年の間：地区別）

	回答者実数	自宅	祖父母宅や友人・知人宅	習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）	児童センター（文化センター内）	放課後子ども教室	放課後児童クラブ（学童保育）	その他	無回答
松田区	14人	21.4% (3人)	21.4% (3人)	50.0% (7人)	14.3% (2人)	28.6% (4人)	71.4% (10人)	21.4% (3人)	14.3% (2人)
宜野座区	13人	7.7% (1人)	—	38.5% (5人)	—	7.7% (1人)	84.6% (11人)	7.7% (1人)	7.7% (1人)
惣慶区	10人	20.0% (2人)	20.0% (2人)	40.0% (4人)	—	10.0% (1人)	40.0% (4人)	10.0% (1人)	30.0% (3人)
福山区	0人	—	—	—	—	—	—	—	—
漢那区	6人	50.0% (3人)	—	—	—	16.7% (1人)	66.7% (4人)	16.7% (1人)	16.7% (1人)
城原区	2人	—	—	50.0% (1人)	—	—	50.0% (1人)	—	50.0% (1人)

次に、過ごしてもらいたい場所別に、希望する週あたりの利用日数をみると、「放課後児童クラブ（学童保育）」は、週「5日」が56.7%、「習い事（ピアノ教室など）」は、週「1日」と「2日」がともに35.3%、「放課後子ども教室」は、週「1日」と「5日」がともに28.6%、「自宅」は、週「2日」が66.7%とそれぞれ最も高くなります。

また、週「6日」は「放課後児童クラブ（学童保育）」のみ回答があります。

放課後に過ごさせたい場所の週あたりの利用希望日数（小学校低学年の間）

	回答者 実数	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答
自宅	9人	11.1% (1人)	66.7% (6人)	11.1% (1人)	11.1% (1人)	—	—	—	—
祖父母宅や友人・知人宅	5人	40.0% (2人)	20.0% (1人)	40.0% (2人)	—	—	—	—	—
習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)	17人	35.3% (6人)	35.3% (6人)	17.6% (3人)	5.9% (1人)	5.9% (1人)	—	—	—
児童センター	2人	—	500% (1人)	500% (1人)	—	—	—	—	—
放課後子ども教室	7人	28.6% (2人)	14.3% (1人)	14.3% (1人)	—	28.6% (2人)	—	—	14.3% (1人)
放課後児童クラブ (学童保育)	30人	—	6.7% (2人)	16.7% (5人)	10.0% (3人)	56.7% (17人)	3.3% (1人)	—	6.7% (2人)
ファミリー・サポ- ト・センター	1人	—	—	100.0% (1人)	—	—	—	—	—
その他 (公民館、公園など)	6人	16.7% (1人)	33.3% (2人)	—	—	33.3% (2人)	—	—	—

次に、「放課後児童クラブ(学童保育)」で過ごさせたいと考えている保護者が、下校時から何時までの利用を希望するかについては、「18時」が83.3%と最も高く、次に「17時」が6.7%となります。

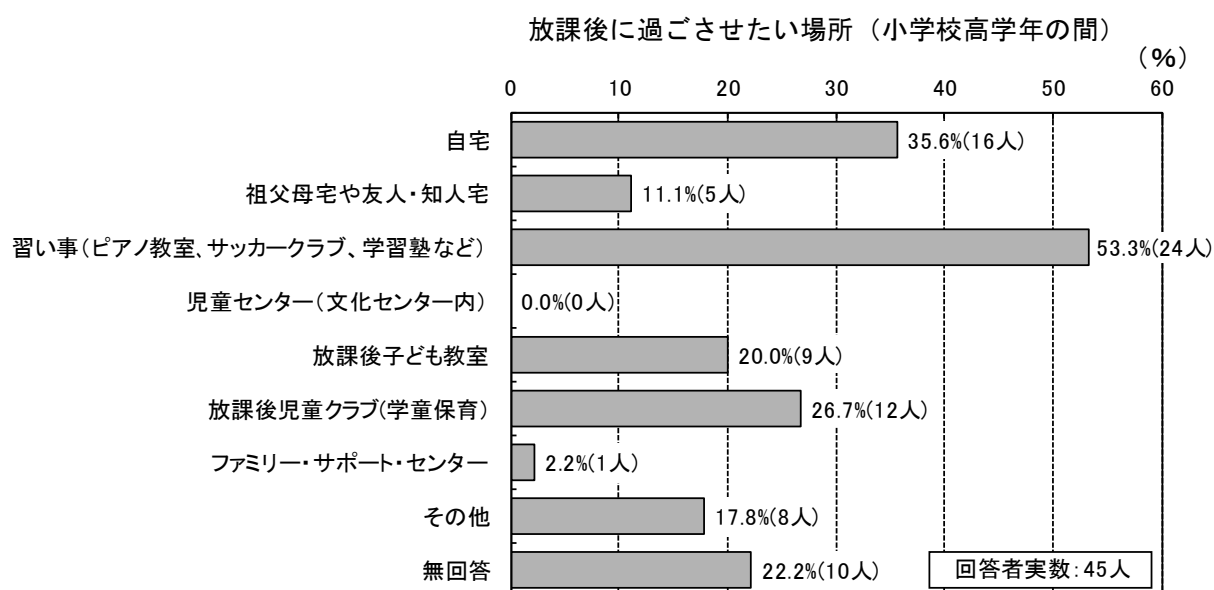
放課後児童クラブの利用希望時間

17時	6.7% (2人)
18時	83.3% (25人)
19時	3.3% (1人)
無回答	6.7% (2人)
回答者実数	30人

〈小学校高学年の間〉

放課後に過ごさせたい場所として小学校高学年(4～6年生)の間は、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」が53.3%と最も高く、次に「自宅」が35.6%となります。以下、「放課後児童クラブ[学童保育]」が26.7%、「放課後子ども教室」が20.0%、「祖父母宅や友人・知人宅」が11.1%と続きます。

低学年の間過ごさせたい場所と比べると、「習い事」が15.5ポイント高く、「放課後児童クラブ(学童保育)」が40ポイント低くなります。なお「児童センター(文化センター内)」で過ごさせたいとの回答はありません。



小学校就学後に、放課後の時間を過ごしてもらいたい場所について地区別でみると、「放課後児童クラブ（学童保育）」は、「城原区」が50.0%と最も高く、次に「松田区」が42.9%となります。また、「宜野座区」が15.4%、「惣慶区」が10.0%と低くなります。

「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」は、「松田区」と「宜野座区」が60%台、次に「惣慶区」と「城原区」が50.0%で、「漢那区」が16.7%と最も低くなります。

「放課後子ども教室」は、「漢那区」と「城原区」がともに50.0%、次に「松田区」が21.4%となります。また、「惣慶区」が10.0%、「宜野座区」が7.7%と低くなります。

放課後に過ごさせたい場所（小学校高学年の間：地区別）

	回答者実数	自宅	祖父母宅や友人・知人宅	習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）	放課後子ども教室	放課後児童クラブ（学童保育）	ファミリー・サポート・センター	その他	無回答
松田区	14人	35.7% (5人)	14.3% (2人)	64.3% (9人)	21.4% (3人)	42.9% (6人)	—	21.4% (3人)	21.4% (3人)
宜野座区	13人	46.2% (6人)	15.4% (2人)	61.5% (8人)	7.7% (1人)	15.4% (2人)	—	7.7% (1人)	15.4% (2人)
惣慶区	10人	30.0% (3人)	10.0% (1人)	50.0% (5人)	10.0% (1人)	10.0% (1人)	—	20.0% (2人)	30.0% (3人)
福山区	0人	—	—	—	—	—	—	—	—
漢那区	6人	33.3% (2人)	—	16.7% (1人)	50.0% (3人)	33.3% (2人)	16.7% (1人)	33.3% (2人)	16.7% (1人)
城原区	2人	—	—	50.0% (1人)	50.0% (1人)	50.0% (1人)	—	—	50.0% (1人)

次に、過ごしてもらいたい場所別に、希望する週あたりの利用日数をみると、「習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」は、週「3日」が54.2%、「放課後子ども教室」は、週「5日」が33.3%、「放課後児童クラブ(学童保育)」は、週「2日」と「5日」がともに25.0%とそれぞれ最も高くなります。

放課後に過ごさせたい場所の週あたりの利用希望日数

	回答者 実数	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答
自宅	16人	12.5% (2人)	31.3% (5人)	12.5% (2人)	—	25.0% (4人)	6.3% (1人)	—	12.5% (2人)
祖父母宅や友人・知人宅	5人	40.0% (2人)	20.0% (1人)	20.0% (1人)	—	—	—	—	20.0% (1人)
習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)	24人	4.2% (1人)	25.0% (6人)	54.2% (13人)	—	16.7% (4人)	—	—	—
児童センター	—	—	—	—	—	—	—	—	—
放課後子ども教室	9人	22.2% (2人)	11.1% (1人)	22.2% (2人)	—	33.3% (3人)	—	—	11.1% (1人)
放課後児童クラブ (学童保育)	12人	8.3% (1人)	25.0% (3人)	16.7% (2人)	8.3% (1人)	25.0% (3人)	8.3% (1人)	—	8.3% (1人)
ファミリー・ サポート・センター	1人	—	—	—	—	100.0% (1人)	—	—	—
その他 (公民館、公園など)	8人	—	25.0% (2人)	37.5% (3人)	—	25.0% (2人)	—	—	12.5% (1人)

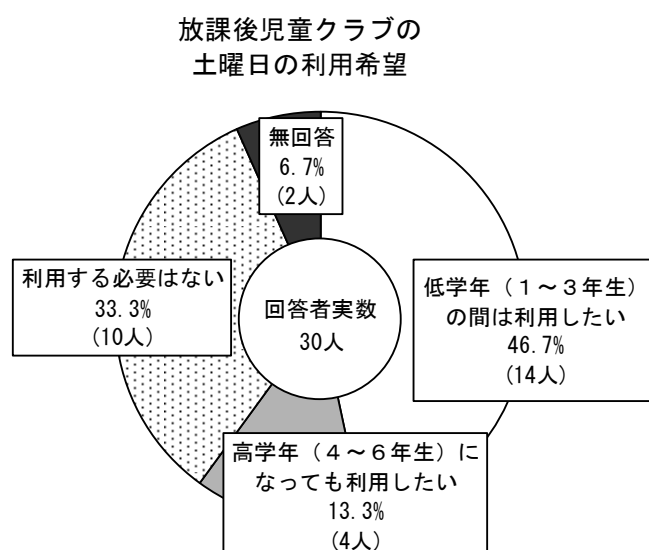
次に、「放課後児童クラブ(学童保育)」で過ごさせたいと考えている保護者が、下校時から何時までの利用を希望するかについては、「18時」が66.7%と最も高く、「17時」と「19時」がともに8.3%となります。

放課後児童クラブの利用希望時間

17時	8.3% (1人)
18時	66.7% (8人)
19時	8.3% (1人)
無回答	16.7% (2人)
回答者実数	12人

(2) 放課後児童クラブの土曜日、休日の利用希望
〈土曜日〉

「放課後児童クラブ(学童保育)」を利用したいと答えた保護者の「土曜日」の利用希望については、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」が46.7%と最も高く、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」が13.3%となります。また、「利用する必要はない」が33.3%となります。



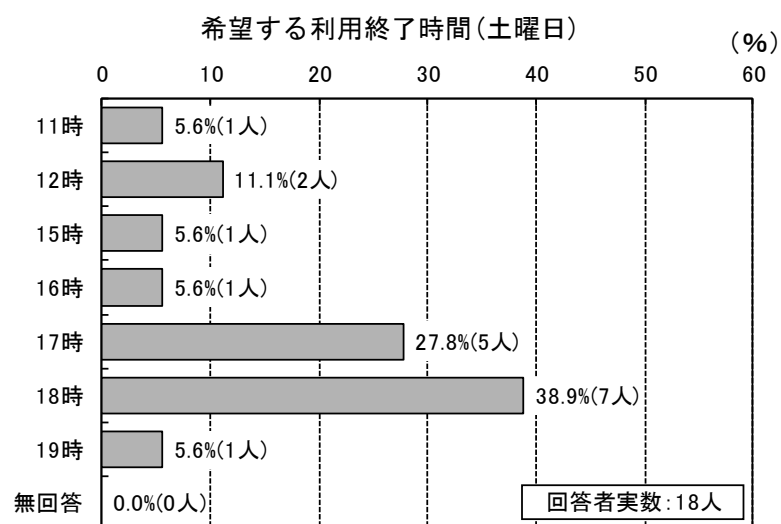
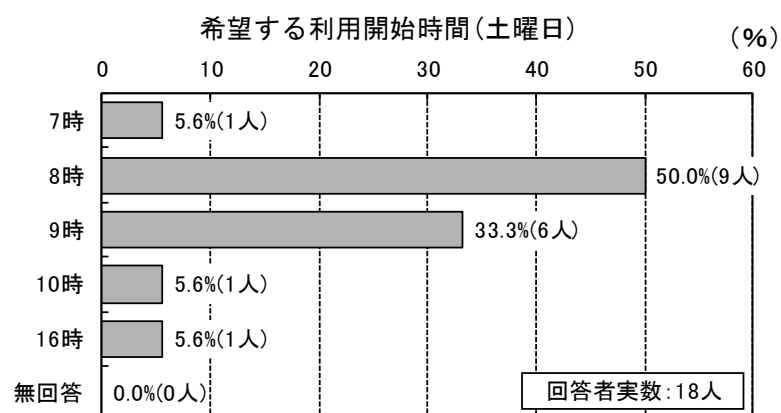
地区別にみると、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」は、「城原区」が100.0%、次に「漢那区」が75.0%、「松田区」が60.0%と高く、「宜野座区」と「惣慶区」が各20%台と低くなります。

「高学年(4～6年生)になっても利用したい」は、「松田区」と「惣慶区」のみ回答があり、「松田区」が30.0%、「惣慶区」が25.0%となります。

放課後児童クラブの土曜日の利用希望(地区別)

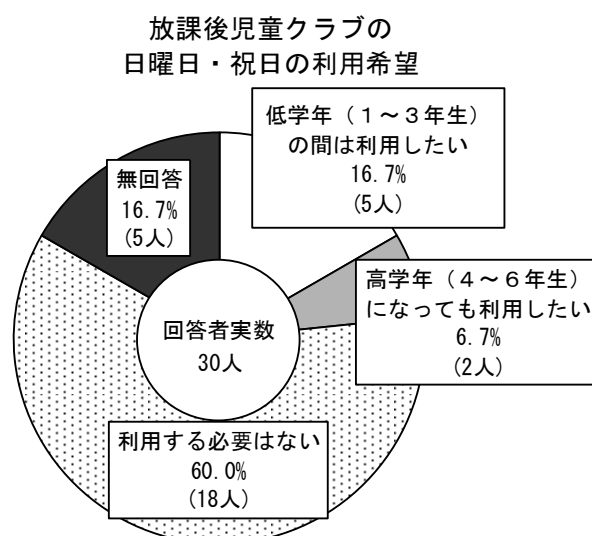
	回答者実数	低学年(1～3年生)の間は利用したい	高学年(4～6年生)になっても利用したい	利用する必要はない	無回答
松田区	10人	60.0% (6人)	30.0% (3人)	10.0% (1人)	—
宜野座区	11人	27.3% (3人)	—	54.5% (6人)	18.2% (2人)
惣慶区	4人	25.0% (1人)	25.0% (1人)	50.0% (2人)	—
福山区	0人	—	—	—	—
漢那区	4人	75.0% (3人)	—	25.0% (1人)	—
城原区	1人	100.0% (1人)	—	—	—

低学年の間または高学年になっても「利用したい」と答えた保護者の、希望する利用開始時間は、「8時」が50.0%と最も高く、次に「9時」が33.3%となります。また、希望する終了時間は、「18時」が38.9%と最も高く、次に「17時」が27.8%となります。



〈日曜日・祝日〉

放課後児童クラブの「日曜日・祝日」の利用希望については、「利用する必要はない」が60.0%と最も高く、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」が16.7%、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」が6.7%となります。



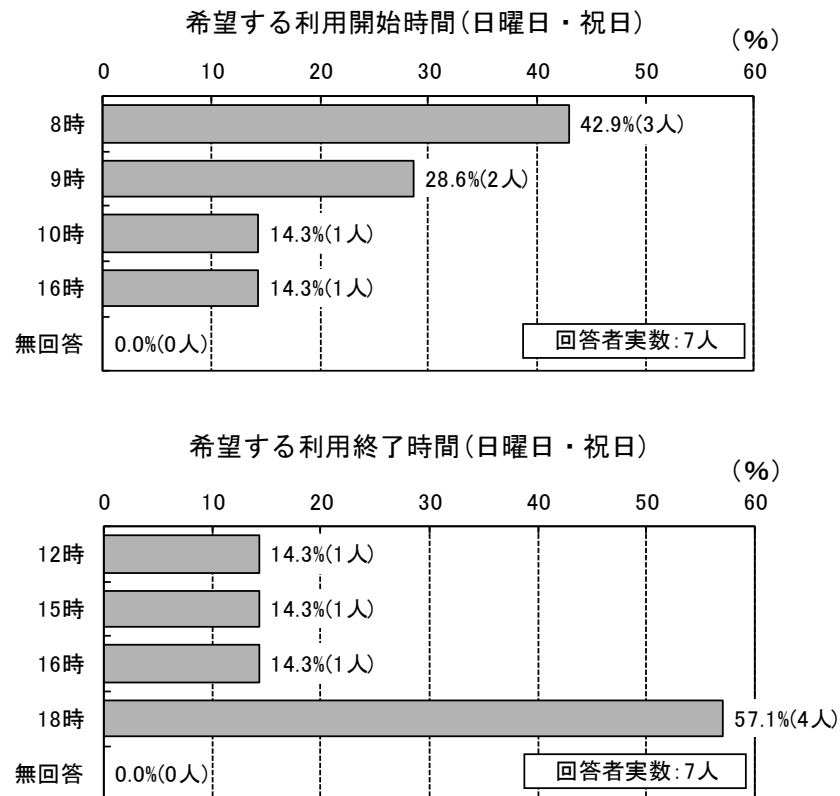
地区別にみると、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」は、「城原区」が100.0%、次に「松田区」が30.0%、「漢那区」が25.0%となりました。

「高学年(4～6年生)になっても利用したい」は、「松田区」のみ回答があり20.0%となります。

放課後児童クラブの日曜日・祝日の利用希望（地区別）

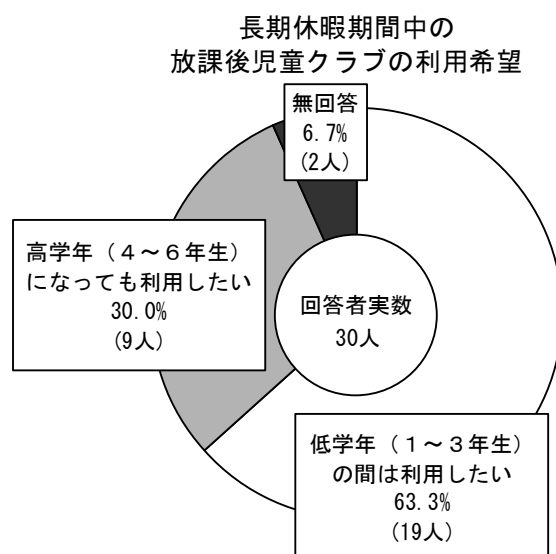
	回答者実数	低学年(1～3年生)の間は利用したい	高学年(4～6年生)になっても利用したい	利用する必要はない	無回答
松田区	10人	30.0% (3人)	20.0% (2人)	40.0% (4人)	10.0% (1人)
宜野座区	11人	—	—	63.6% (7人)	36.4% (4人)
惣慶区	4人	—	—	100.0% (4人)	—
福山区	0人	—	—	—	—
漢那区	4人	25.0% (1人)	—	75.0% (3人)	—
城原区	1人	100.0% (1人)	—	—	—

低学年の間または高学年になっても「利用したい」と答えた保護者の、希望する利用開始時間は、「8時」が42.9%と最も高く、次に「9時」が28.6%となります。また、希望する終了時間は、「18時」が57.1%と最も高くなります。



(3) 長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望

子どもの夏休み・冬休みなどの長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望については、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」が63.3%と最も高く、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」が30.0%となります。



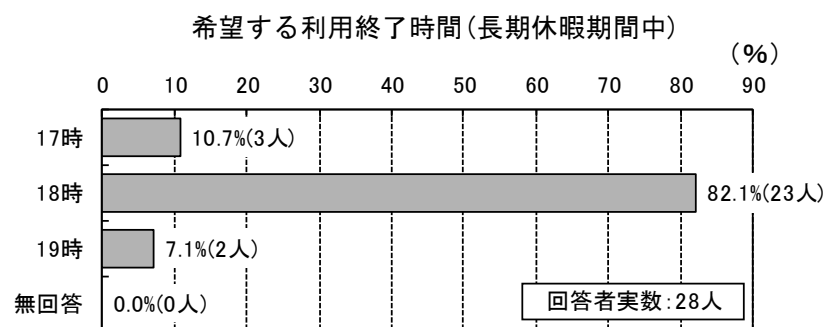
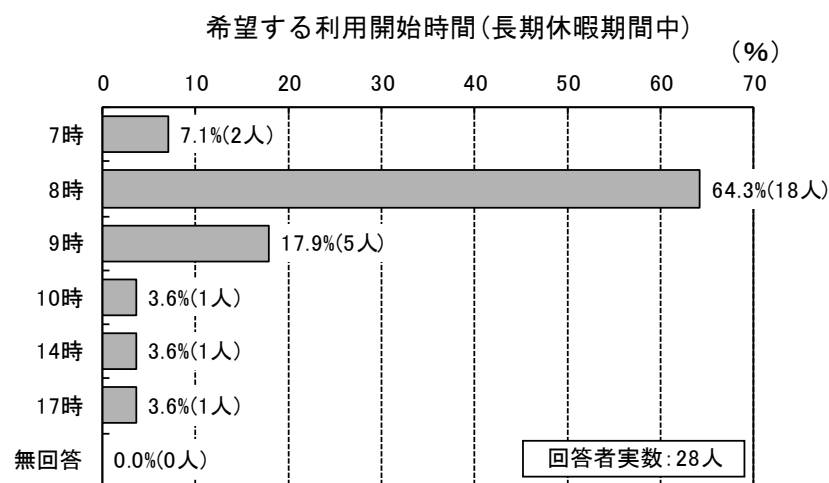
地区別にみると、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」は、「城原区」が100.0%、次に「宜野座区」と「惣慶区」が70%、「松田区」と「漢那区」がともに50.0%となります。

「高学年(4～6年生)になっても利用したい」は、「松田区」が50.0%、次に「惣慶区」と「漢那区」がともに25.0%で、「宜野座区」が18.2%最も低くなります。

放課後児童クラブの長期休暇中の利用希望（地区別）

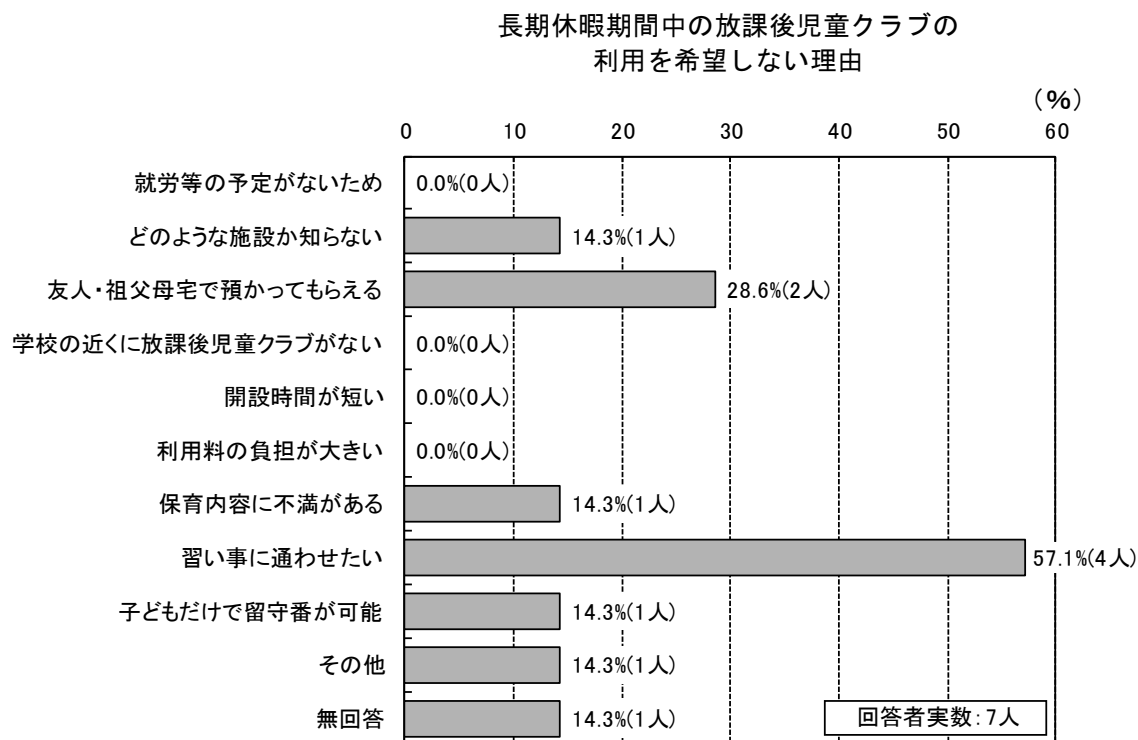
	回答者実数	低学年(1～3年生)の間は利用したい	高学年(4～6年生)になっても利用したい	無回答
松田区	10人	50.0% (5人)	50.0% (5人)	—
宜野座区	11人	72.7% (8人)	18.2% (2人)	9.1% (1人)
惣慶区	4人	75.0% (3人)	25.0% (1人)	—
福山区	0人	—	—	—
漢那区	4人	50.0% (2人)	25.0% (1人)	25.0% (1人)
城原区	1人	100.0% (1人)	—	—

低学年の間または高学年になっても「利用したい」と答えた保護者の、希望する利用開始時間は、「8時」が64.3%と最も高く、次に「9時」が17.9%となります。また、希望する終了時間は、「18時」が82.1%と最も高く、次に「17時」が10.7%となります。



(4) 放課後児童クラブを利用しない理由（複数回答）

小学校就学後の放課後の過ごし方で、放課後児童クラブの利用を希望しない理由については、「習い事に通わせたい」が57.1%と最も高く、次に「友人・祖父母宅で預かってもらえる」が28.6%となります。



選択肢の略称	選択肢の内容
どのような施設か知らないため	放課後児童クラブがどのような施設なのか知らないため
友人・祖父母宅で預かってもらえるため	小学校就学後、友人・知人宅や祖父母宅で預かってもらえるため
学校の近くに放課後児童クラブがないため	入学予定の学校の近くに、放課後児童クラブがないため
開設時間が短いため	利用したいと思うが、放課後児童クラブの開設時間が短いため
利用料の負担が大きいため	利用したいと思うが、放課後児童クラブの利用料の負担が大きいため
保育内容に不満があるため	放課後児童クラブの保育内容に不安又は不満があるため
習い事に通わせたいため	習い事（クラブ活動、学習塾など）を利用したいと考えているため
子どもだけで留守番が可能ため	放課後の短時間ならば、子どもだけでも留守番が可能であると考えているため

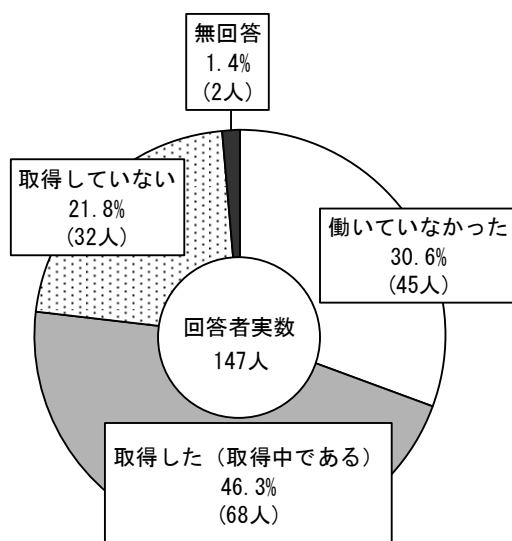
11. 育児と仕事の両立支援制度について

(1) 育児休業の取得状況

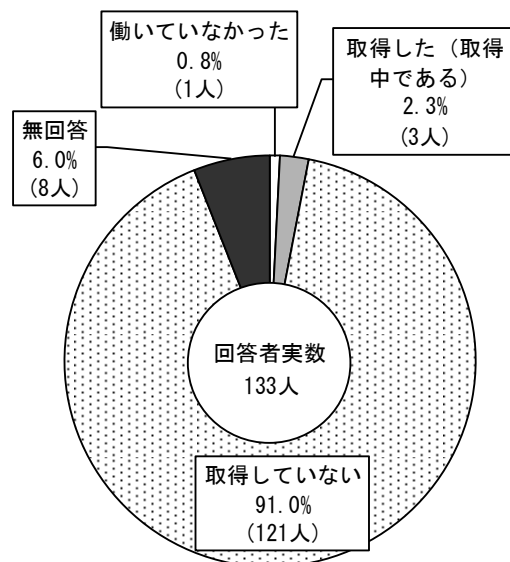
子どもが生まれた時の母親、父親の育児休業の取得について、母親の場合は、「取得した（取得中である）」が46.3%、「取得していない」が21.8%となります。

父親の場合は、「取得していない」が91.0%とほとんどを占め、「取得した（取得中である）」が2.3%となります。

育児休業の取得状況（母親）



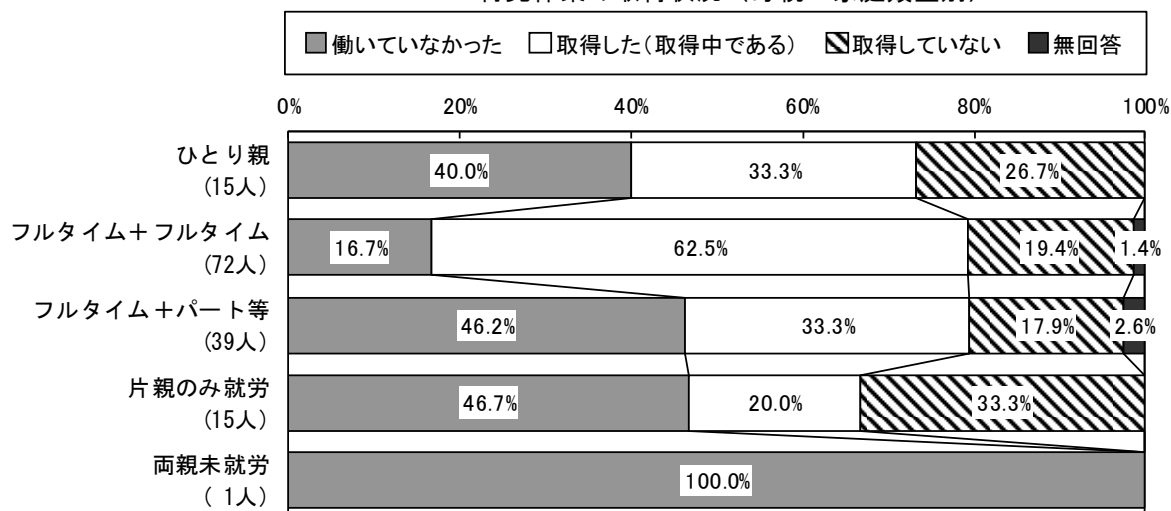
育児休業の取得状況（父親）



母親の育児休業の取得状況について家庭類型別にみると、「取得した（取得中である）」は、「フルタイム＋フルタイム」が62.5%と最も高く、次に「ひとり親」と「フルタイム＋パート等」がともに33.3%となります。

一方、「取得していない」は、「片親のみ就労」が33.3%、「ひとり親」が26.7%と高くなります。

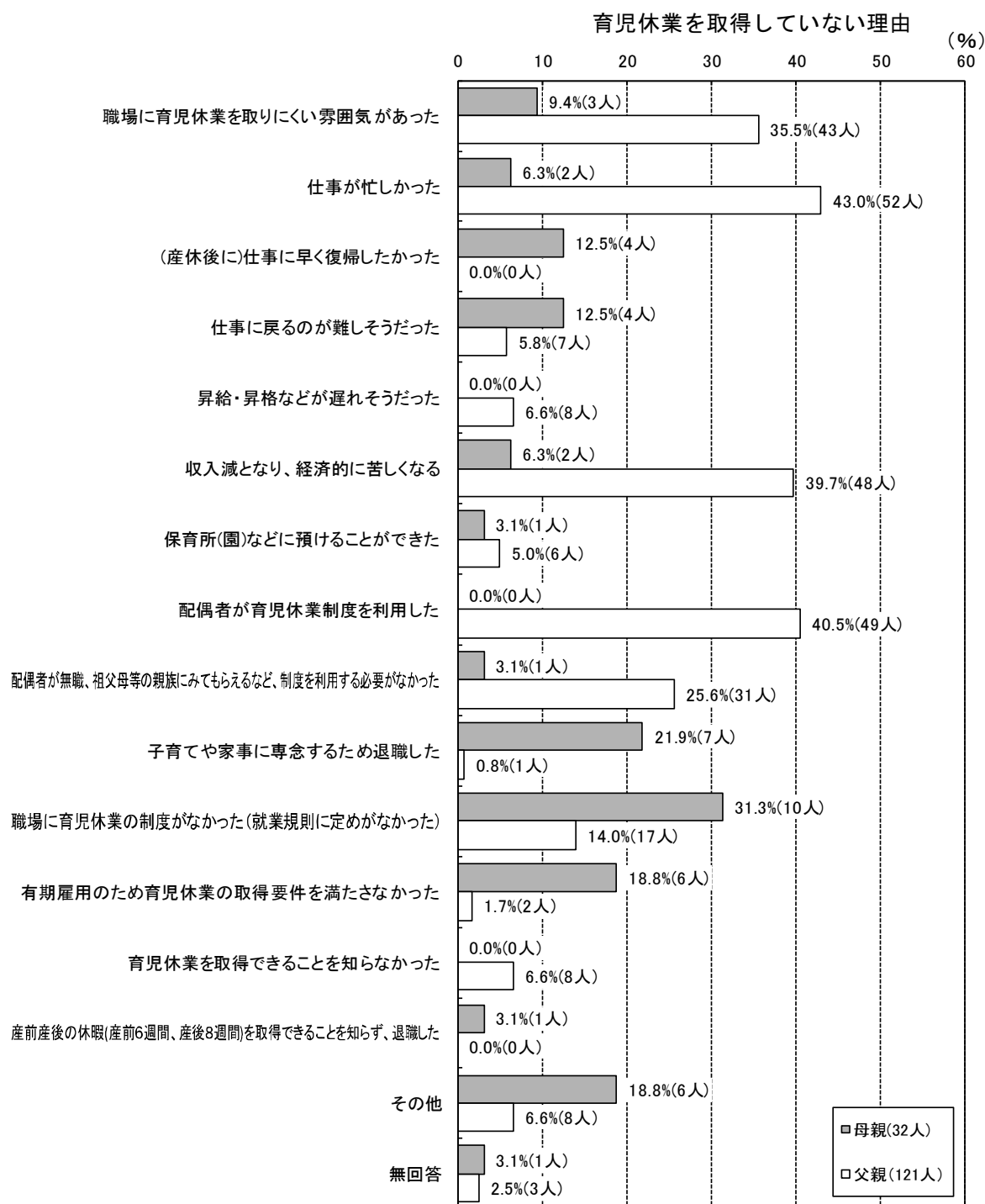
育児休業の取得状況（母親：家庭類型別）



(2) 育児休業を取得していない理由（複数回答）

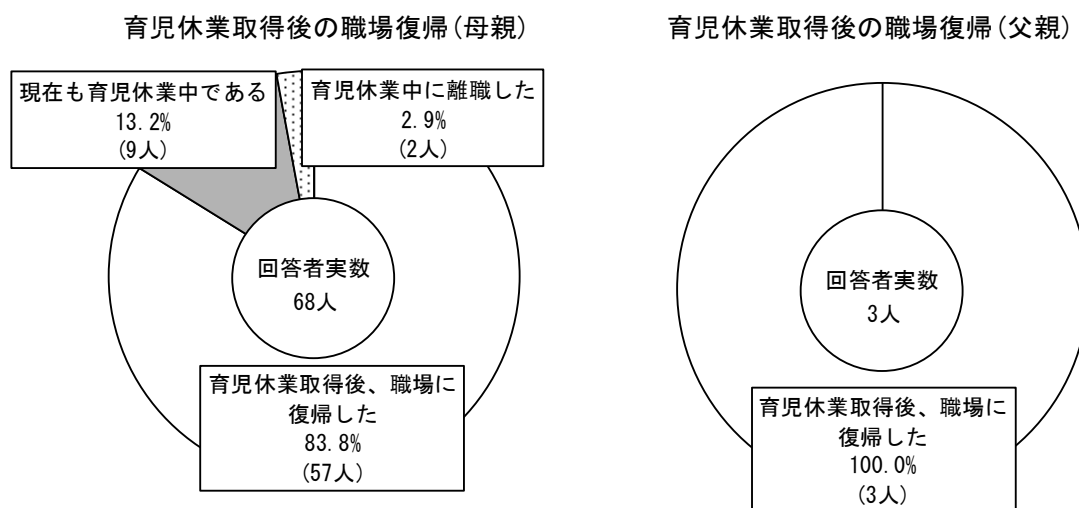
育児休業を「取得していない」と答えた母親と父親の、取得していない理由について、母親の場合は、「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」が31.3%、「子育てや家事に専念するため退職した」が21.9%と高くなります。

父親の場合は、「仕事が忙しかった」が43.0%と最も高くなります。続いて、「配偶者が育児休業制度を利用した」が40.5%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」が39.7%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が35.5%となります。



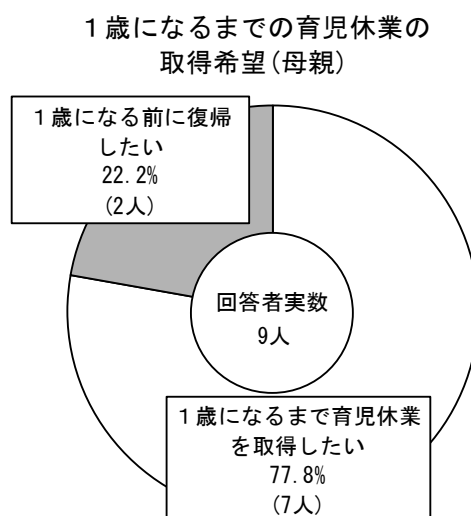
(3) 育児休業取得後の職場復帰

育児休業を「取得した(取得中である)」と答えた母親と父親の、育児休業取得後の職場復帰について、母親の場合は、「育児休業取得後、職場に復帰した」が83.8%とほとんどを占め、次に「現在も育児休業中である」が13.2%、「育児休業中に離職した」が2.9%となります。父親の場合は、全員「育児休業取得後、職場に復帰した」と答えています。



(4) 1歳になるまでの育児休業の取得希望(母親)

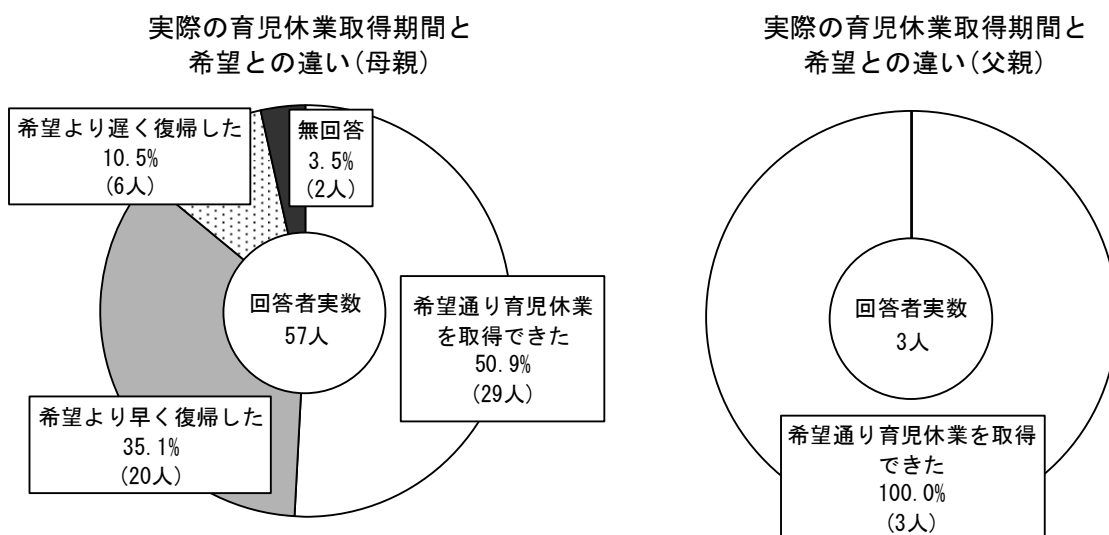
「現在も育児休業中である」と答えた母親について、子どもが1歳になったときに必ず利用できる(預けられる)事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得するか、または、利用できる事業があっても1歳になる前に職場に復帰するかについては、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が77.8%、「1歳になる前に復帰したい」が22.2%となります。



(5) 実際の育児休業取得期間と希望との違い

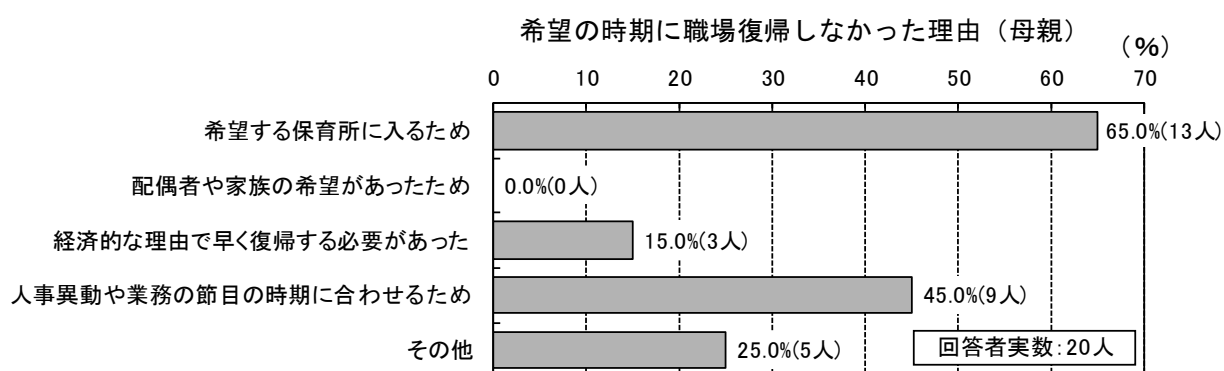
育児休業を取得した母親の実際の取得期間と希望する取得期間の違いについて、母親の場合は、「希望通り育児休業を取得できた」が50.9%と半数余りを占め、次に「希望より早く復帰した」が35.1%、「希望より遅く復帰した」が10.5%となります。

父親の場合は、全員が「希望通り育児休業を取得できた」と答えています。

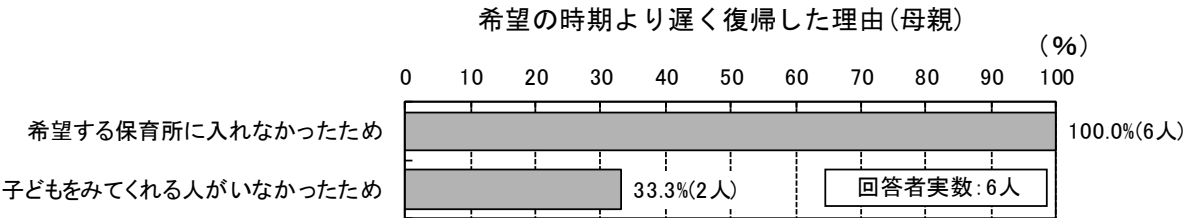


(6) 希望の時期に職場復帰しなかった理由(母親：複数回答)

「希望より早く復帰した」と答えた母親の、早く復帰した理由については、「希望する保育所に入るため」が65.0%と最も高く、次に「人事移動や業務の節目の時期に合わせるため」が45.0%となります。



また、「希望の時期より遅く復帰した」と答えた母親の、その遅く復帰した理由については、「希望する保育所に入れなかったため」が100.0%と、早く復帰した理由と同じく保育所入所にかかわる理由が最も高くなります。次に「子どもをみてくれる人がいなかったため」が33.3%となります。



(7) 職場復帰した実際の時期と希望の時期の子どもの年齢(母親)

母親が育児休業から実際に職場復帰した時の子どもの年齢については、「1歳」が15.8%と最も高く、次に「11ヶ月」が10.5%となります。

一方、希望していた職場復帰時の子どもの年齢については、「1歳」が61.4%と最も高く、実際に「1歳」で職場復帰をした割合(15.5%)と比べて45.6ポイント高くなります。

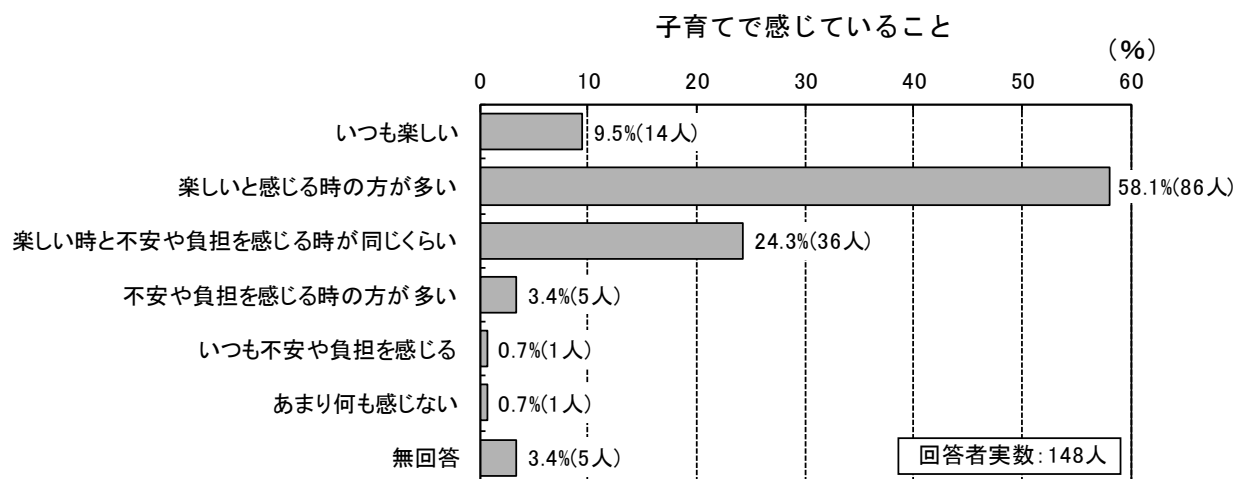
実際に職場復帰した時の子どもの年齢		
5ヶ月	7.0% (4人)	50.9 (29人)
6ヶ月	5.3% (3人)	
7ヶ月	5.3% (3人)	
8ヶ月	7.0% (4人)	
9ヶ月	7.0% (4人)	
10ヶ月	8.8% (5人)	
11ヶ月	10.5% (6人)	
1歳	15.8% (9人)	33.5 (19人)
1歳1ヶ月	1.8% (1人)	
1歳2ヶ月	1.8% (1人)	
1歳3ヶ月	3.5% (2人)	
1歳4ヶ月	3.5% (2人)	
1歳5ヶ月	5.3% (3人)	
1歳6ヶ月	1.8% (1人)	
2歳1ヶ月	1.8% (1人)	9.0% (5人)
2歳2ヶ月	1.8% (1人)	
2歳9ヶ月	1.8% (1人)	
2歳10ヶ月	1.8% (1人)	
3歳9ヶ月	1.8% (1人)	
無回答	7.0% (4人)	7.0% (4人)
回答者実数	57人	

希望する職場復帰時の子どもの年齢		
6ヶ月	5.3% (3人)	16.0% (9人)
7ヶ月	1.8% (1人)	
9ヶ月	1.8% (1人)	
10ヶ月	1.8% (1人)	
11ヶ月	5.3% (3人)	
1歳	61.4% (35人)	73.7% (42人)
1歳1ヶ月	1.8% (1人)	
1歳3ヶ月	3.5% (2人)	
1歳4ヶ月	3.5% (2人)	
1歳6ヶ月	3.5% (2人)	3.5% (2人)
2歳	3.5% (2人)	
無回答	7.0% (4人)	7.0% (4人)
回答者実数	57人	

12. そのほかの子育てに関すること

(1) 子育てで感じていること

子育てで感じていることは、「楽しいと感じる時の方が多い」が58.1%と最も高く、次に「楽しい時と不安や負担を感じる時が同じくらい」が24.3%、「いつも楽しい」が9.5%となります。また、割合は低くなりますが、「不安や負担を感じる時の方が多い」が3.4%、「いつも不安や負担を感じる」と「あまり何も感じない」がともに0.7%となります。

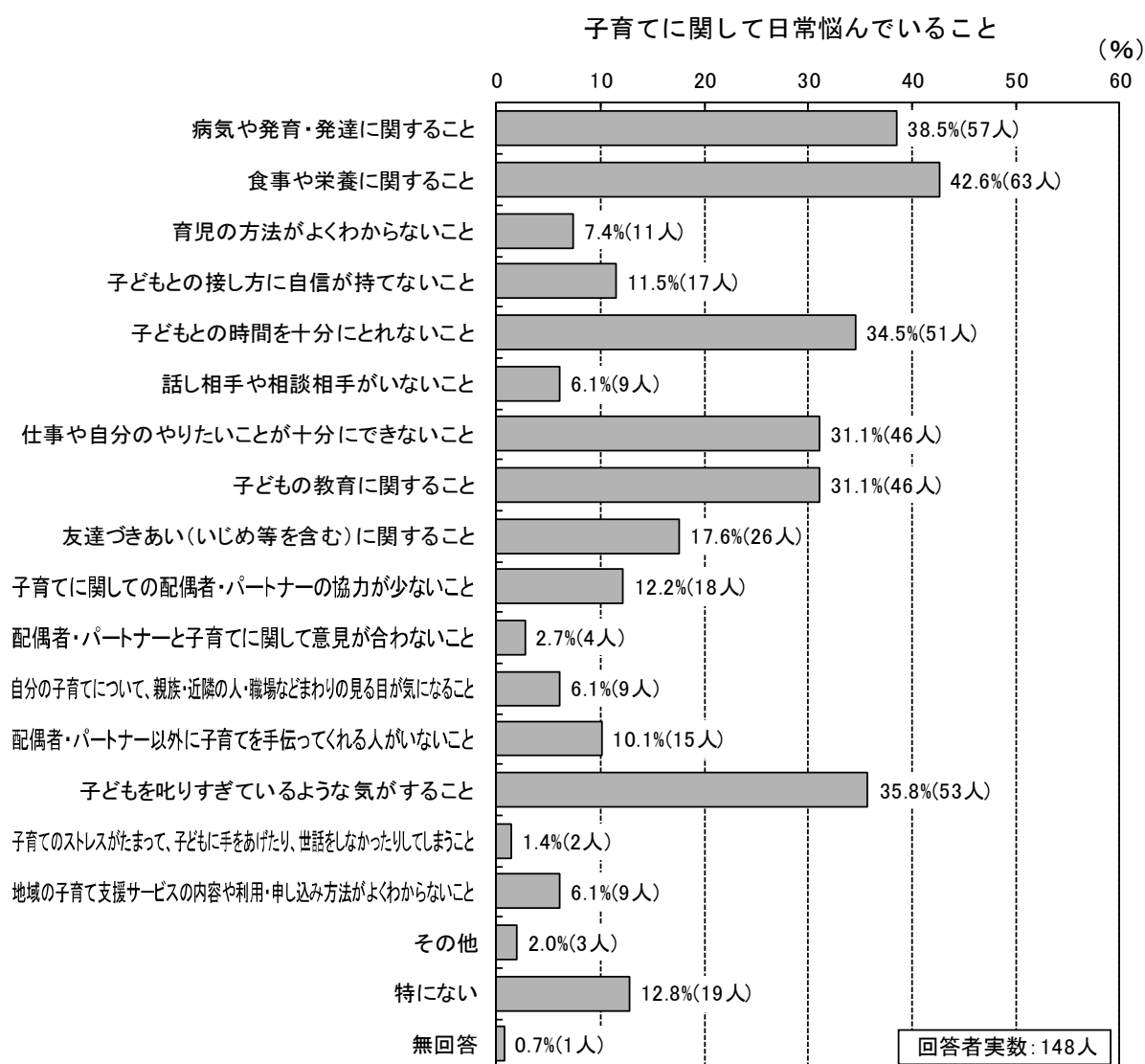


(2) 子育てに関して日常悩んでいること（複数回答）

子育てに関して、日常悩んでいること、または気になることは、「食事や栄養に関すること」が42.6%と最も高くなります。

続いて、「病気や発育・発達に関すること」が38.5%、「子どもを叱りすぎているような気がする」と35.8%、「子どもとの時間を十分にとれないこと」が34.5%、「仕事や自分のやりたいことが十分にできないこと」と「子どもの教育に関すること」がともに31.1%となります。

また、「子育てのストレスがたまって、子どもに手をあげたり、世話をしなかったりしてしまうこと」に悩んでいる保護者が1.4%あり、子どもに手をあげるなどの行為が行き過ぎることがないように、相談支援や周りからのサポートを必要とする可能性がうかがえます。



子どもの年齢別に、割合の高かった上位6つの悩みや気になることについてみると、「病
気や発育・発達に関すること」は、「0歳」が62.5%と最も高く、次に「1歳」が50.0%で、
「3歳」から「6歳」が30%台から40%台で、「2歳」が24.2%と最も低くなります。

「食事や栄養に関すること」は、「2歳」が55.0%と最も高く、次に「0歳」と「6歳」が
ともに50.0%で、「5歳」が30.4%と最も低くなります。

「子どもを叱りすぎているような気がする」とは、「5歳」が47.8%と最も高く、「2歳」
と「3歳」も40%台と高くなります。また、「1歳」が25.0%と最も低く、次に「6歳」が27.3%
となります。

「子どもとの時間を十分にとれないこと」は、「3歳」が43.5%、「1歳」が40.0%と高く、
「0歳」が12.5%と最も低くなります。

「仕事や自分のやりたいことが十分にできないこと」は、「1歳」が45.0%と最も高く、
「0歳」が12.5%と最も低くなります。

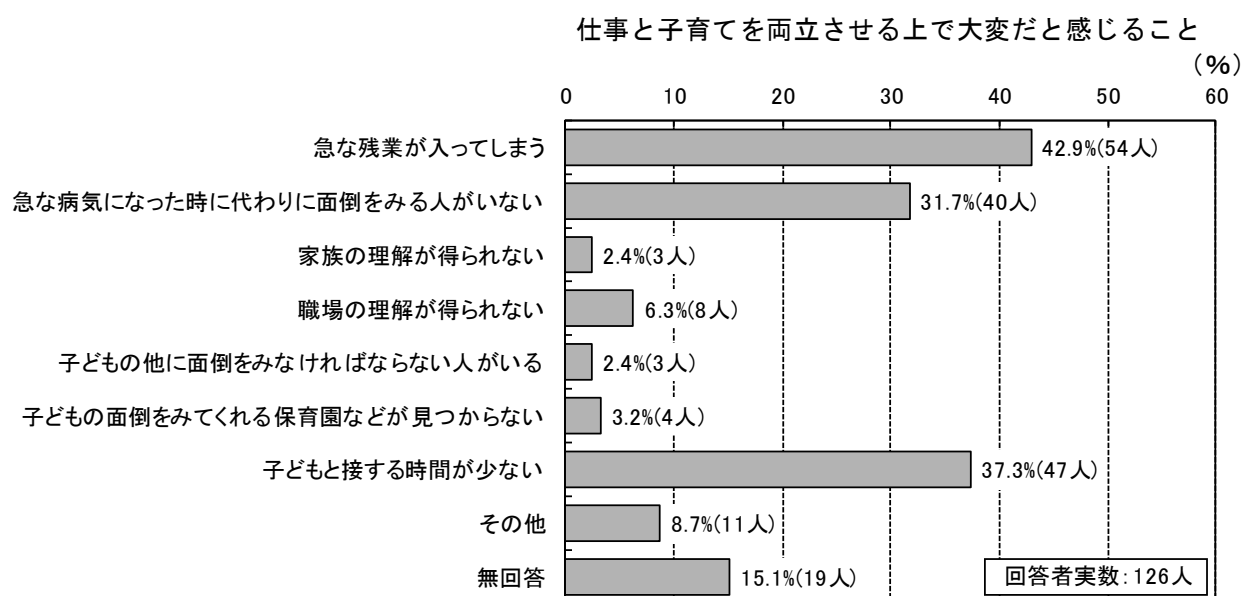
「子どもの教育に関すること」は、「5歳」が39.1%と最も高く、「0歳」から「2歳」と「6
歳」もそれぞれ30%台で、「3歳」と「4歳」が20%台と低くなります。

子育てに関して日常悩んでいること（子どもの年齢別）

	回答者実数	病気や発育・発達に関すること	食事や栄養に関すること	子どもとの時間を十分にとれないこと	仕事や自分のやりたいことが十分にできないこと	子どもの教育に関すること	子どもを叱りすぎているような気がする
0歳	8人	62.5% (5人)	50.0% (4人)	12.5% (1人)	12.5% (1人)	37.5% (3人)	—
1歳	20人	50.0% (10人)	55.0% (11人)	40.0% (8人)	45.0% (9人)	35.0% (7人)	25.0% (5人)
2歳	33人	24.2% (8人)	36.4% (12人)	36.4% (12人)	39.4% (13人)	30.3% (10人)	42.4% (14人)
3歳	23人	39.1% (9人)	39.1% (9人)	43.5% (10人)	30.4% (7人)	26.1% (6人)	43.5% (10人)
4歳	19人	42.1% (8人)	47.4% (9人)	26.3% (5人)	26.3% (5人)	21.1% (4人)	36.8% (7人)
5歳	23人	39.1% (9人)	30.4% (7人)	34.8% (8人)	26.1% (6人)	39.1% (9人)	47.8% (11人)
6歳	22人	36.4% (8人)	50.0% (11人)	31.8% (7人)	22.7% (5人)	31.8% (7人)	27.3% (6人)

(3) 仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じること（3つまで回答）

共働き、または働いているひとり親の家庭において、仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じることについては、「急な残業が入ってしまう」が42.9%と最も高く、次に「子どもと接する時間が少ない」が37.3%、「急に病気になった時に代わりに面倒をみる人がいない」が31.7%となります。



選択肢の略称	選択肢の内容
急に病気になった時に代わりに面倒をみる人がいない	自分が病気・けがをした時や子どもが急に病気になった時に代わりに面倒を見る人がいない

子どもの年齢別にみると、「急な残業が入ってしまう」は、「1歳」が64.3%と最も高く、次に「4歳」が58.8%で、「0歳」が20.0%と最も低くなります。

「子どもと接する時間が少ない」は、「1歳」が64.3%と最も高く、「2歳」、「4歳」、「5歳」がそれぞれ40%前後で、「3歳」が21.1%と最も低くなります。

また、「急に病気になった時に代わりに見る人がいない」は、「3歳」が57.9%と最も高く、次に「0歳」と「4歳」が40%台で、「1歳」7.1%と最も低くなります。

仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じること（子どもの年齢別）

	回答者実数	急な残業が入ってしまう	急に病気になった時に代わりに見る人がいない	家族の理解が得られない	職場の理解が得られない	子どもの他に面倒をみなければならぬ人がいる	子どもの面倒をみてくれる保育園などがみつからない	子どもと接する時間が少ない	その他	無回答
0 歳	5人	20.0% (1人)	40.0% (2人)	—	—	—	—	—	—	60.0% (3人)
1 歳	14人	64.3% (9人)	7.1% (1人)	—	—	—	7.1% (1人)	64.3% (9人)	14.3% (2人)	7.1% (1人)
2 歳	29人	34.5% (10人)	27.6% (8人)	3.4% (1人)	6.9% (2人)	6.1% (2人)	3.4% (1人)	41.4% (12人)	3.4% (1人)	13.8% (4人)
3 歳	19人	42.1% (8人)	57.9% (11人)	—	15.8% (3人)	5.3% (1人)	5.3% (1人)	21.1% (4人)	—	26.3% (5人)
4 歳	17人	58.8% (10人)	41.2% (7人)	5.9% (1人)	—	—	—	41.2% (7人)	11.8% (2人)	—
5 歳	23人	39.1% (9人)	26.1% (6人)	4.3% (1人)	4.3% (1人)	—	4.3% (1人)	39.1% (9人)	21.7% (5人)	4.3% (1人)
6 歳	19人	36.8% (7人)	26.3% (5人)	—	10.5% (2人)	—	—	31.6% (6人)	5.3% (1人)	26.3% (5人)

家庭類型別にみると、「急な残業が入ってしまう」は、「ひとり親」が46.7%、「フルタイム＋フルタイム」が45.8%と高く、「フルタイム＋パート等」が35.9%と低くなります。

「子どもと接する時間が少ない」は、「フルタイム＋フルタイム」が43.1%と最も高く、次に「フルタイム＋パート等」が30.8%で、「ひとり親」が26.7%と最も低くなります。

「急に病気になった時に代わりに見る人がいない」は、どの家庭も30%余りとほぼ同程度の割合となります。

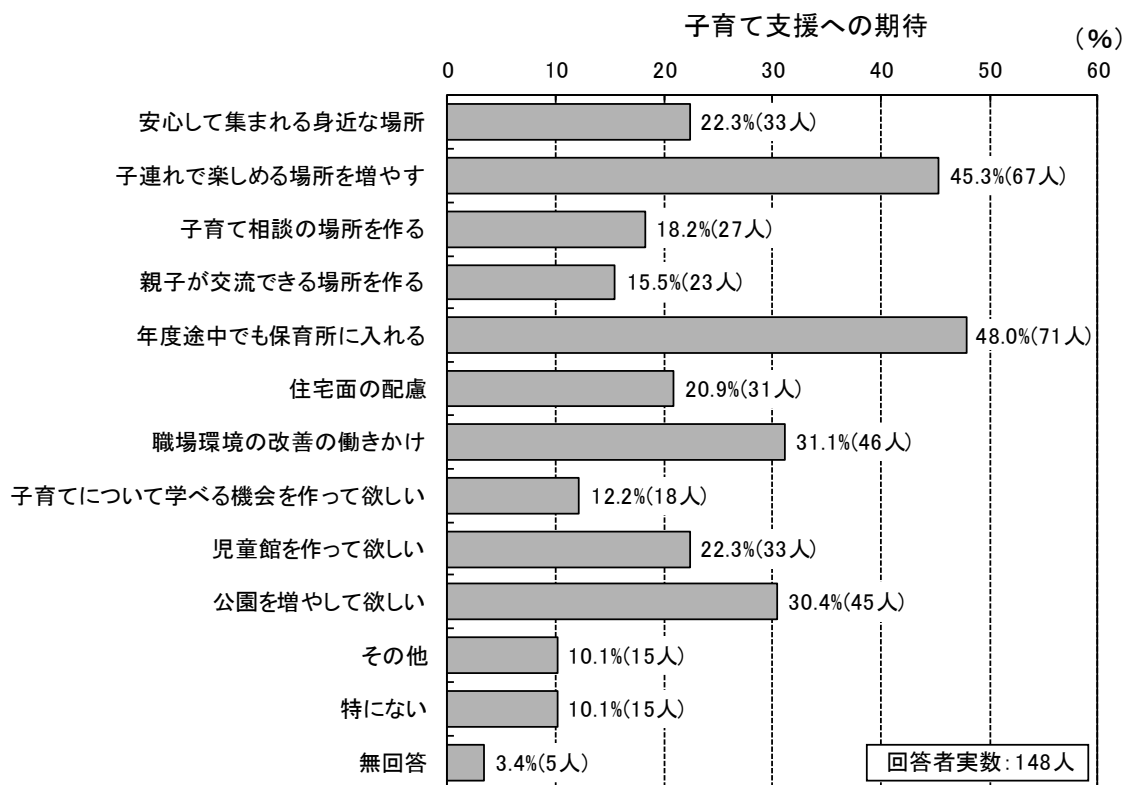
仕事と子育てを両立させる上で大変だと感じる事（家庭類型別）

	回答者実数	急な残業が入ってしまう	急に病気になった時に代わりに見る人がいない	家族の理解が得られない	職場の理解が得られない	子どもの他に面倒をみなければならぬ人がいる	子どもの面倒をみてくれる保育園などがみつからない	子どもと接する時間が少ない	その他	無回答
ひとり親	15人	46.7% (7人)	33.3% (5人)	6.7% (1人)	13.3% (2人)	—	—	26.7% (4人)	6.7% (1人)	13.3% (2人)
フルタイム＋フルタイム	72人	45.8% (33人)	31.9% (23人)	1.4% (1人)	5.6% (4人)	2.8% (2人)	2.8% (2人)	43.1% (31人)	6.9% (5人)	15.3% (11人)
フルタイム＋パート等	39人	35.9% (14人)	30.8% (12人)	2.6% (1人)	5.1% (2人)	2.6% (1人)	5.1% (2人)	30.8% (12人)	12.8% (5人)	15.4% (6人)

(4) 子育て支援への期待（複数回答）

行政に対して保護者が期待する子育て支援については、「年度途中でも保育所に入れる」が48.0%と最も高く、次に「子連れでも楽しめる場所を増やす」が45.3%となります。

また、「職場環境の改善の働きかけ」が31.1%、「公園を増やしてほしい」が30.4%と比較的高くなります。



選択肢の略称	選択肢の内容
安心して集まれる身近な場所	親子が安心して集まれる身近な場が欲しい
子連れで楽しめる場所を増やす	子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やして欲しい
子育て相談の場所を作る	子育てに困った時に相談したり情報が得られる場を作りたい
親子が交流できる場所を作る	子育てサークルなど親子が交流できる場を作りたい
年度途中でも保育所に入れる	育児休業明けに年度途中でも保育所に入れるようにして欲しい
住宅面の配慮	公営住宅への多子世帯の優先入居や広い部屋の割り当てなど、住宅面の配慮が欲しい
職場環境の改善の働きかけ	残業時間の短縮や休暇の取得促進など、企業に対して職場環境の改善を働きかけて欲しい

Ⅲ 保護者自由意見・要望等

本調査において、問 12（子育てをする上で、身近な人や行政担当者などからのサポート）、問 35（子育ての環境や支援に関する意見・要望）について、自由記述による意見等を求めました。ここでは、記述された意見等について報告します。

1. 子育てをする上で、身近な人や行政担当者などからのサポートについて

問 12 子育て（教育を含む）をする上で、周囲（身近な人、行政担当者など）からどのようなサポートがあればよいとお考えでしょうか。ご自由にお書きください。

（概要）

問 12 についての意見等は、18 人から寄せられ、これを 7 項目に分類しました。

なお、1 人の意見が複数の項目に及んでいる場合は、意見等を分割して、それぞれの項目に含めました（例えば「子育てに関する相談と、情報交換の機会」は、「子育てに関する相談」を「相談・相談場所」の項目に、「情報交換の機会」を「情報提供について」の項目に）。このため、各項目の意見等の件数を合わせると、記述者の実数とは一致しません。

意見等としては「相談・相談場所」が 7 件と最も多く、次に「遊びと学びの場について」が 5 件となります。以下、「病児保育について」と「情報提供について」、「その他」が 3 件と続きます。

次に、上位 2 項目について以下にその内容をとりまとめて報告します。

「相談・相談場所」については、相談窓口やサポートしてくれる場所を知りたいことや、気軽に話ができる場所を望む声があります。

「遊びと学びの場について」は、土曜・休日に乳幼児が参加できるイベントや、習い事の要望があります。

子育てをする上でのサポートについての親の要望等（問 12）

意見分類	件数	意見分類	件数
1) 相談・相談場所	7 件	5) 送迎支援について	2 件
2) 遊びと学びの場について	5 件	6) 地域について	2 件
3) 病児保育について	3 件	7) その他	3 件
4) 情報提供について	3 件		

1) 相談・相談場所

ただただ話を聞いて欲しいことはあります。そういう時に「こうしたほうがいい」とかアドバイスされると、余計にしんどくなります。
村外出身の配偶者にとっては、知り合いも少なく、子育てで相談、サポートをしてもらえる場所がよく分からないので、子育てや教育について情報交換できる機会があれば良いと思います。
つらい時、話を聞いてもらえるだけでも心が軽くなります。いつでも話せる、相談窓口があればと、いつも思います。
LINE や専用メール等、気軽に相談が出来るようになればいいなと思います。 後は、赤ちゃんの体重や身長を測る、心配事を相談出来る個別のブース（部屋）等、来所せずふらっと立ち寄れる場所が欲しい。
子育てに関して困っている状況やニーズは個々で違うので、形式的なアドバイスだけでなく、どこに相談したらいいかなど具体的なアドバイスがもらえるような窓口があるといい（行政）。
何かあった時に、気軽に相談ができるような場所の提供。
子どもにとってどのように接する事で、その子の為になるか、子どもの気持ちや成長に良い伸び方、伸ばし方を教えてもらいたい。最近は虐待などの問題があるので、どの様な怒り方？しつけ？をしたらいいのか悩む。

2) 遊びと学びの場について

小さい子（0～3 歳）でも参加できるイベントが定期的にあったら嬉しい。保育園にも入っていないので、お友達も少なく、日頃の遊びがワンパターンになるので（遊び方等も教えてほしい）、マラソン大会とか、おにごっこ大会とかのイベントに参加したい。現在あるイベントは 3 歳以上とかが多くて、参加できないことがある。
土日支援センター等、乳幼児も連れて行けるところを開放して欲しい。父が仕事の時、母が 2 人を連れて行けるところが限られている為。公園等もあるが 2 人を 1 人で追いかけることが大変だったので支援センターが土日あれば安心して遊ばせられると思いました（土曜日の午前中だけとかでもありがたいです。）。
情報などがあまりなく、ネット等で調べる事が多々あるが、就学前児童の”塾”がないので、行政で作ってくれたらうれしい。
幼児が参加可能なクラス、イベント、習い事、自治会がない。 早い段階から子供（赤ちゃん）にいい教育場が欲しい。
母乳育児のサポート（おっぱいマッサージ、授乳のコツ）。 教育講演会の開催。

3) 病児保育について

病児保育
病児保育が必要です。長期間仕事を休めないためインフルエンザの時も最低 5 日は休まないといけなくなるので…。
子どもが熱が出た時見てくれる場所（保育）が欲しい。すぐに迎えに行けなかったり、仕事を休む事が難しい時があるため、安心して働けるようにしてほしい。

4) 情報提供について

子育てや教育について情報交換できる機会があれば良いと思います。
離乳食、幼児食も毎日作るのは大変です。保育園のメニューや、レシピを公開してほしい。
地方県外から来た人が、情報を得る方法が少ない中、宜野座村のネット情報が乏しい。

5) 送迎支援について

学校や習い事の送り迎えが難しい時に、代わりに行ってほしいです。
送迎サービス（保育園）。

6) 地域について

地域交流への誘い（転居後全くない。広報が届くだけで孤立している）。区が変わっただけで、ここまでの変化には驚いている。
地域の青年による見回り。 幼小中と保育園の職場を交えた地域懇親会。

7) その他

経済面。早く保育料を無償化にしてほしい。
内地同様 3 年保育にしてほしい。
学校での朝食サポート（県外のように）→学食アップ？

2. 子育ての環境や支援に関する意見・要望等

問 35 最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関してご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にご記入ください。

(概要)

子育ての環境や支援についての意見等は、44 人から寄せられ、これを 10 項目に分類しました。

なお、1 人の意見等が複数の項目に及んでいる場合は、意見等を分割して、それぞれの項目に含めました。

(例えば「子ども達が安心して遊べる公園の設置や学童の設置」は、「子ども達が安心して遊べる公園の設置」を「公園・遊び場等」の項目に、「学童の設置」を「放課後子どもの居場所」の項目に) このため、各項目の意見等の件数を合わせると、記述者の実数とは一致しません。

意見等としては「教育・保育に関する支援体制等」が 24 件と最も多く、次に「保育施設について」が 12 件、「経済的なこと」が 11 件となります。以下、「学童保育について」が 8 件、「教育について」が 7 件、「地域について」が 6 件と続きます。

ここでは上位 6 項目について以下にその内容を取りまとめて報告します。

「教育保育に関する支援体制等」については、一時預かりや病児・病後児保育等の要望が多くあります。また、子育てのヒントとなる講演会やサークル活動、障害児理解のための勉強会開催の要望があります。その他、役場職員や保健師の家庭訪問による密接な支援を希望する声があります。

「保育施設について」は、待機児童の解消に向け、保育園の増設や保育士の増員等の要望があります。また、保育時間の延長や、小規模保育施設を望む声もあります。

「経済的なこと」については、子どもに関する手当の拡充や給食費の無料化を求める要望があります。

「学童保育について」は、利用時間の拡大と施設整備の要望があります。また、習い事や地域の高齢者との交流を希望する声があります。

「教育について」は、放課後に学びの機会を増やしてほしいという要望があります。

「地域について」は、地域による、教育・保育者への支援体制を提案する声があります。そのほか、村内公共施設にベビーベッド等の設置の要望があります。

子育ての環境や支援に関する意見・要望等（問 35）

意見分類	件数	意見分類	件数
1)教育・保育に関する支援体制等	24 件	6)地域について	6 件
2)保育施設について	12 件	7)幼稚園について	5 件
3)経済的なこと	11 件	8)情報提供	2 件
4)学童保育について	8 件	9)公園・遊び場等	2 件
5)教育について	7 件	10)その他	3 件

1) 教育・保育に関する支援体制等

一時預かりのシステムを改善して欲しい。毎月申請ではなく、もう少しフレキシブルに対応してくれる施設が欲しい。 保育園など長い時間預けるのではなく、毎日 3～4 時間だけ預けられるようなシステムも欲しい（なるべく子どものことは自分でやってあげたい）。朝からお昼頃までは一緒に居られるのに、保育園の時間は決まっていたりなど、もう少し子どもと一緒に居たい。お昼からでも預けられたり、親が休みの日は子どもと家に居られるように等、もう少し自由な選択肢があっても良い気がする。
月に 1 回もしくは不定期にでも保健師さんとか役場の方でも訪問してくれたらありがたいです。10 分程度でも話を聞いて欲しくて、安心したいことがあります。ただ、ダメだしされると逆にきついです。 宜野座村役場の方は全体的に親切で誠実に対応して下さる印象があります。これからも頑張ってください。
病後児保育施設を要望します。
発達障害の子にどれだけ悩んでいる親がいるのか、見た目でわからない障害の為、学校の先生からの理解もいまいち受けられず、我慢するのは、いつも母親ばかり。子どもの為といい聞かせてきましたが、毎日、どうやって死んだら子ども達に迷惑がかからないのか、こんなに毎日つらいなら、明日は来なくていい。死にたい…死にたい…と思いをかかえながら、周りに笑顔で何もないふりをしながら、なにもしてくれないのに、周囲から“ちゃんとしろ”“虐待してるんじゃないか？”等言われ、もっとがんばらなきゃ私が悪いんだ、もっとちゃんとさせなきゃと思いながら育児をするのは、つかれました。毎日ねむれなくなりつらいです。
友人の子が、0～5 歳の間家庭保育をしたが（友人（母）が働きたくないとの理由で）、幼稚園で団体生活に慣れない、食事たべない、排泄が自立していない（便はオムツでしかできない）など、親も自閉症をうたがっている。保育園に通っていたら早期発見できたり、相談にもつなげられたかもしれないな～と。 どんな形が必要かは、漠然としてわからずですが…。アンケートに書くことなのかもわかりませんが…。家庭保育の家庭に介入する機会などあれば？と思った為記入しておきます。
村外から移住してきた人は住みにくいと感じます。祖母、祖父がいて当たり前と思っている人が多く、小学校、幼稚園など土曜日あずけられる場所がない。他の町は保育園→小学校に行ける場所があるのに宜野座にはないのはなぜですか？
スキルアップ事業等を細かに配慮していただき感謝しております。
有料で日・祝祭日でも預かってもらえる事業所等があるととても助かります。低月齢児でも預かってもらえる（平日）事業があると助かります。両親共に頼れる親族がなく、どちらかが体調が悪い時、通院したくてもできないなど困る場面があるので、短時間でもお願いできる場所があるといいです（ファミリーサポート以外）。

私たちの話ではないのですが… 共働き夫婦と子供ひとり（４歳）の家庭の話…。 頼れる身内もおらず、前回の妊娠中、子宮頸管無力症で長期入院した経験がある友人です（２人目が欲しくても、前回同様妊娠中に入院が必要となるであること、その期間中子どもを見てくれる人がいないとのことで、２人目はあきらめざるを得ないという話でした）。 夫婦だけの力では限界がある…と感じました。２人目を作る気持ちがあっても、あきらめてしまうことを個人個人の責任にしていれば、少子化は止まらないと思います。この友人のように、理由は違っても２人目、３人目を断念する家庭が多くあると思います。 どんな状況でも、夫婦が望めば子育てをサポートできる仕組みが必要だと思います。 ※この例でいえば、母親の入院中の子供の送迎、世話など…。ファミリーサポートセンターよりももっと親密な関わりのできる仕組み…何とかならないのでしょうか（何十年というわけではなく数か月の期間なのでぜひ）。
前から気になったのですが、乳児健診を土曜日、１歳半検診を平日にしているのはなぜですか？全員ではないと思いますが、乳児期は産休・育休中の人が多いと思います。平日だったら上の子を保育園で預かってもらえる方が良いと思います。また、１歳半、３歳半検診の頃には就労している人が多いと思うので土曜日の方が受けやすいと思います。
子育て支援センターやママ友とよく話すのが、「習い事の送迎問題」です。その為にフルタイムの仕事ができないという声をよく聞きます。村内のコミュニティバス等があれば、もっといろんな経験をさせてあげられるのになぁと思います。
うちの子は困り感があり、幼稚園でもサポートが必要になる。サポートが必要ゆえ、午後の預かりを断られるのはどうかと思う。差別だと感じる。アンケートに関しても、項目に「放課後デイサービス」がないのも違和感。今後差別のないよう、教育委員会や行政はしてほしい。 支援員に対しても、「資格や免許」が大切だというけれど、「相性」も大事だと思う。ゆるめでも良いのかと思う。免許ない場合でも研修などをしていけば良いのかなと思う。教育委員会にも外部からの助言してくれる発達の先生（講師）がいれば良いなと思う。
父親が求職や退職をした際、その家庭が子どもを誰が中心になって子育てをしているのかを把握してほしい。ほとんどの家庭は母親が中心となって、子育てをしていると思うので。母親中心に考えてほしい。私自身、旦那が退職をしてしまって、短時間になり、職場や保育所に気を使ってしまったので、理解してほしいと思った。
発達障害についての勉強会をしてほしい。
私達は、父方、母方と両親の支えもあり、特に子育てに関して困っているということはありません。区や幼稚園の学童、預かりも利用していますが満足です。 無償化については、教育、保育施設を利用していない子へも何か違う形で支援があるといいなぁと思います。
病児保育施設があれば働きやすい。
現在、子どもの言葉の遅れを気にしています。健診時に保健師さんへ相談し、リハビリを受けたいと伝えています。しかし、宜野座村からの施設や病院への案内が無く、自分で探すしかありません。名護市の社協へ相談することに、そこで施設や病院へ繋げてもらうことになりました。難しいかもしれませんが、村でも対応できる場があると助かります。

保育所へ入所している子が親子で過ごせる時間の確保が必要かと思います。小さい時って手がかかりますよね。ただこの時期たくさん愛情をそそいでもらうことって大事だと思うので、週6日あずけっぱなしはどうかと思います。支援が行き過ぎて子育て代行サービスになってしまわないよう親の子育て力UPに努めてほしいです。
周囲に協力者のいない家庭、村外や県外出身者にとっては仕事と子育てを両立させるにあたり、子どもの預け先が充実するととても助かります。
幼稚園の預かり保育の無い土曜日仕事（両親）があり、次年度子どもの預け先に困りファミリーサポーターを探している最中です。ファミサポだけでも対応できるのか不安で、仕事を変える必要があるのではと悩む程です。仕事と両立しやすい環境があればと切実に思います。
今年から、幼稚園になる子がいますが、土曜日子どもをみてくれないので、土曜日子どもたちが遊ぶところとか、児童館作ってほしいです。 役場の人は、仕事休みだと思いますけど、普通の仕事している人は、どうしたらいいですか？子供をだれもみてくれないし、祖母、祖父もみてくれない所もあります。本当に、児童館作ってほしいです。
妊娠中に参加できるパパママサークルがあればぜひ参加したいです。例えば保育のプロからのアドバイス等の講演会とか、マタニティヨガとか、いろいろです。各区で実施している関連の活動などを村のLINEで流すのもありかなと思います。
小児科・歯科・婦人科などの医師による子育て講演会の開催。
私は3人の子どもを育てています。上の2人の時はパート勤めで、妊娠後退職し出産しましたので、育休とは無縁でした。パートでも保育園に入れるような制度があったら助かったのと思います。 当時は支援センターをよく利用していました。ここでは、担任の先生や看護師の先生に色々話を聞いてもらい、親子で楽しめる場所の一つでした。もっと利用者が増えたらもっと色々情報交換ができるのと思っていました。

2) 保育施設について

募集期間が早まってもいいので、合否通知の結果が早く欲しいです（4月開講などの申し込みに間に合わないので、保育園に預けられない）。
現在、育児休業をとっていますが、上の子の保育時間が短時間保育になっていますが、できれば長くなってくれと助かります。
保育園の数や保育士を増やせたら良いと思います。
保育料が高すぎて、仕事を頑張らないといけない。すると、また、保育料が上がる。保育士の質が悪い時もある。本当に子どもが好きなのかうたがう人有り。子どもが好きじゃなく、給料目的の人は辞めてほしいです。
年度の途中でも保育など入所できるのであれば、安心して出産、子育てもできるし、産休も1年半はとれるのではないと思う。

上の子二人（中高生）と末っ子（4歳）を育てていて感じたことですが、上の2人は幼稚園（5歳）からしか、平仮名を勉強していないので、教えるとき（家庭で）遊びたいが勝って、なかなか覚えられず苦労しました。それは、小学校1年生になっても続き、本人達も覚えるのが嫌なようでした。 下の子は、2歳くらいから少しずつ覚えはじめ、今では自分の名前くらいは書け、簡単な絵本くらいなら読めるので一人でどんどん学んでくれます。幼稚園、小1から学びはじめると、覚えなければというプレッシャーや、テストの結果で先生、親から注意をうけたりで、初めですまずいてしまう子もいるのではと思います。また、親もテストで点数が出るので、よその子と比べたり焦りが生じやすいのでは。それを考えると、まだ遊びの中で楽しく学べる、2歳～4歳までに平仮名くらいは学べる環境があっても良いのかなと思います。保育所でそれをやってくれればと思ったりしますが、教員免許やその他の問題もあるのでしょうか？保育所の負担も増えるなどとは思いますが。 保育園の栄養士（献立や食育）は重要な役割があるので、しっかりと正規にやとって頂きたい。また、看護師も感染症予防や健康教育等、親子支援でも重要な役割があるが、0歳児クラスに配置の為、本来の職務ができないので、乳幼児3名に対して1名（看護師）も保育士要員より、村独自で外して頂きたいです。子どもの育ちを支える重要な専門職の役割を活かしてほしいです。 私の子どもは、1歳3ヶ月で保育園入所できたが、第1希望への保育園へは入所できなかった。1歳のクラスは育休復帰の子どもが多く競争率が激しく入所できなかった。より良い環境で安心して預ける保育園が入れない事がなにより残念でしかたなかった。 村内でも小規模な保育施設（手厚い保育）を作っていただくか、保育士の質を高める講習などをしてほしいと思っています。 夏休み、冬休み等も給食をお願いしたい。 少人数（10名以下）保育を導入してほしい。 異年齢集団で発達に合わせた現場がほしい（縦割りのない教育・保育）。 かなな保育園を利用させてもらっています。子どもの成長を感じることが多く、とてもありがたいです。園長先生をはじめ、担任の先生方が笑顔で親切に接してくれているので安心して園に通うことが出来ているのだと思います。先生方が働きやすく、福利厚生が手厚く受けられるように行政の方も、もう少し頑張ってもらいたいです。 どこの保育園とは申しませんが、0歳～1歳の入所問い合わせをしたときに、定員オーバーや待機の話は聞いていましたが、電話対応でとてもそっけなく対応、口調やトーンも迷惑な感じ、分かってるでしょ的な感じでお話しされていてとても不快でした。毎回、別の問い合わせで電話したときも、あまり対応がよくありません。
--

3) 経済的なこと

なにかと第三子免除となる、村の制度（保育料や給食費など）は有り難いのですが、子どもが1人、2人しかいない家庭にもメリットを作ってくれたらいいのにな、と思います！ 幼稚園の預かり保育料の金額が毎月5千円と高いので厳しいです。 就学援助を幼稚園からできると、とても助かります。

遠方で仕事をしていますが、学童費や預かり料が安いこと、学習支援として家庭学習ノートや漢検費用の援助がある等宜野座村で子育てしていると、職場（中部）の人からとてもうらやましがられます。あたり前ではないすばらしい環境にとっても感謝しています。より子育てしやすい村づくりをお願いします。
手当の面での更なる拡充があると大変助かります。特に幼少期より小学校高学年～高校生までなど。 宜野座の支援にはいつも感謝しております。今後とも宜しくお願い致します。
無償化については、教育、保育施設を利用していない子へも何か違う形で支援があるといいなあとと思います。
子育てにお金がかかるので（ミルク、オムツ、服等）、せめて1人目から給食費を無料にしてほしいです。子ども手当は、大学等の教育費がかかると思うので、手を付けることができません。
ファミリーサポートを利用したいけれど料金が高く利用できません。
保育料の3人目無料のシステムを第1子無料ならいいなと思った。
2019年10月からの無償化は今後ずっと続くのか？そうなった場合でも、児童手当の制度は変わらず続くのか？状況によっては、児童手当の振込み先を父親、母親どちらか選べるようにしてほしい（家計を支えるのは母親なので、きちんと管理したい為）。
村内で行政区によって子ども達への支援に大きな差がある。漢那小、漢那区と城原区の差が大きい。学童、城原区は月6000円出る。漢那区は1000円か？負担が大きい。パソコン、踊り、珠算等、漢那区の児童は学ぶことができない。学力も差が出ると思う。程度の違い、モチベーションも上がらない。

4) 学童保育について

公民館で実施している学童で、預かり中に、平日にそろばん教室、習字教室、ピアノ教室、スイミングスクール等に希望する子ども達をマイクロバス等で送迎してもらえるようなシステムがあると嬉しいです。
小学校の学童保育施設が他にもできると選ぶことができるので、親としてはその方がいいです。
各区学童があるが、狭い空間で、こども達が窮屈そうである。なので、学童を併設した児童館か、学童の側に児童館を建設し、学童の子ども達や、学童を利用していない子ども達が充実して過ごせる場所をつくって欲しいです。できたら、小学校のすぐそばに建設する事が最も望ましいのではないかと思います。そうすると、安全面も安心であるし、小学校の先生方と連携をとりながらいろいろと進めていけるのかなと思います。（特に気になる子の対応について）。その、児童館には、子育て中の親子（乳幼児）が利用できる部屋も設置し、0歳～18歳までの子ども達が、天気に左右される事なく楽しく遊べたら良いなと思っています。
地域の人材を活かして、学童の時間に学ぶ場がもっと増えたらいいなと思います。特に老人の方の得意な分野を活かして、「伝統の継承」や「昔あそび」、子ども達と関わることでお互いの相乗効果が期待できるのではないかと思います。 学童の時間は、春・夏・冬休みを合わせると学校の時間と同じ、あるいはそれ以上になるので。
公民館での学童保育…質が心配です（有資格者？）。

学童保育も1～6年まできちんと預かってくれる場所があったら良いと思っています。以前、私が勤務していた所は市町村から半分、保護者から半分为指導者に給料を支払うシステムで学校内に建物もあり、とても安全でした（県外）。
問 27、土・日、祝日の学童保育利用については悩みます。土、日、祝は仕事が忙しいので利用させたい気持ちも半分と、父や祖父母等がみれる時はいいけれど、時々（月1～3回）困る時があるので、そういう時に学童があればとも思ったりします。家族の時間も欲しいので。
小1の時に学童に入れず、毎日仕事をぬけ、むかえに行き祖母の家にあずけた。迎えた時、漢那区の子ども達は担任が学童まで送っている。そのことを子どもは家で訴える「どうして学童に入れないのか」寂しさを訴えた。しかし、2年前漢那区の区長さんのおかげで学童に入れてもらえた。子どもの笑顔にうれしかった。区別されている感じが少し減った。多くの人に訴えてきた「区が違うからしょうがない」と言われ、あきらめるむなしさを感じた。子どもが低学年の内は、訴えてきたが高学年になるにつれて学童の必要性はなくなった。でも今必要な子どもの達のことを行政の皆さんに知ってほしい。なぜ子育てに行政区による差があるのか、1人の子どもでも村内の子どもです。何か良い方法はないでしょうか？実態にそくしたアンケート（調査）もして欲しい。これから子ども達のために差別をなくしてほしい。強く訴えたい。大人の都合で数人の子どもにいやな思いをさせてほしくない。

5) 教育について

東成瀬小学校（秋田県）の方法が宜野座も可能なのではないのでしょうか!?ぜひ、先生方へ研修に行って頂きたいです!!就学前のアンケートですが、すみません。
子ども達の教育にもっと力を入れてもらえるといいなと思います。 共働きの家庭ですが、子どもの習い事は仕事が休みの土曜日に重なる事が多いので、例えば公民館で実施している学童で、預かり中に、平日にそろばん教室、習字教室、ピアノ教室、スイミングスクール等に希望する子ども達をマイクロバス等で送迎してもらえるようなシステムがあると嬉しいです。村内で上記のような習い事ができる場所も少ないので、希望する親子が色々な教育を受けられるよう講師を招いて、保育園、幼稚園、学童等で指導してもらえる機会が多くあるといいと思います。
以前、がらまんホールでやっていた「子供映画館」が子どもにとっても好評でしたので、またやって欲しい。ただ、以前にとってもマナーの悪い子ども（子ども達だけで観にきている感じ）が多く見られたので、そこはルール（必ず親同伴等）を設けて欲しい。
〈松田小学校のPTA活動〉父・母が入部しなければならない。幼い子どもがいるので、どちらか1人の入部にして欲しい。
地域の人材を活かして、学童の時間に学ぶ場がもっと増えたらいいなと思います。特に老人の方の得意な分野を活かして、「伝統の継承」や「昔あそび」、子ども達と関わることでお互いの相乗効果が期待できるのではないかと思います。 学童の時間は、春・夏・冬休みを合わせると学校の時間と同じ、あるいはそれ以上になるので。

上の子二人（中高生）と末っ子（4歳）を育てていて感じたことですが、上の2人は幼稚園（5歳）からしか、平仮名を勉強していないので、教えるとき（家庭で）遊びたいが勝って、なかなか覚えられず苦労しました。それは、小学校1年生になっても続き、本人達も覚えるのが嫌なようでした。 下の子は、2歳くらいから少しずつ覚えはじめ、今では自分の名前くらいは書け、簡単な絵本くらいなら読めるので一人でどんどん学んでくれます。幼稚園、小1から学びはじめると、覚えなければというプレッシャーや、テストの結果で先生、親から注意をうけたりで、初めですまずいてしまう子もいるのではと思います。また、親もテストで点数が出るので、よその子と比べたり焦りが生じやすいのでは。それを考えると、まだ遊びの中で楽しく学べる、2歳～4歳までに平仮名くらいは学べる環境があっても良いのかなと思います。保育所でそれをやってくれればと思ったりしますが、教員免許やその他の問題もあるのでしょうか？保育所の負担も増えるなどとは思いますが。 子ども達が自分は大切な存在、自分のことを好きでいる、認められる自分等を含む、自己肯定感をもっと育んでいけるよう、まずは教育される側が（先生方や大人たち）学んで頂ける機会を作ってほしいと思います。知る機会をぜひ、定期的に学ぶことも必要だと思います。

6) 地域について

村内の各施設内におむつ替えベッドや授乳室、トイレ個室のベビーチェアなど、まだまだ完備されていない所が多いので、充実させてほしいです。 産後ママのケアや、子育て&産後ボディメイク等の講座をしています。村内にはベビママやチャイルドマインダー、子育てやベビーママに関するいろんな資格を持っている方がいます。村が行っている講座はみんな村外の先生ばかりです。村民を使って、もっと各種講座を企画して欲しいです。 宜野座村（区）に転出してきたんですが、子ども会の活動（キャンプ、クリスマス会）への参加を2年間参加できないのは、こどもがかわいそうです。子どもの事なので参加させたいのでお願いします。 自分の子供や親を支えている教育者を支援する地域環境。 教育者が住みたい村づくり。 教育保育に携わる人（特に先生方へ）親や地域からできる感謝会や先生方へのベネフィットなどプレゼント…。 子どもの公文（城原区の子どもだけでなく）漢那区の子どもだけ配られないのはなぜ？（子どもが嫌な思いして話す）

7) 幼稚園について

幼稚園は3～5歳保育にしていくべき。成長がゆるやかであり、つながりがあり、無理が無くなる。 幼稚園の預かり保育料の金額が毎月5千円と高いので厳しいです。 幼稚園ではなく、子ども園を作った方が夏休み等親の負担がへる？ 色々な市町村は認定こども園が増え公立の幼稚園も減少してきているが、できれば宜野座村は公立を残して欲しい。小学校との関係性は大切なものだと思うので、続けていけたらいいなと思った。 幼稚園の存続。

8) 情報提供

子育てに関して、宜野座村では様々なサービスを実施しているようですが、それらの情報にアクセスすることが正直容易ではないと感じています。例えば「パパママサークル」という活動が行われているようですが、紙媒体のみの広報で、妊娠中に活動の存在をすることができませんでした。もし妊娠中に知っていたら見学等にも行けたのかなと思っています。せっかく HP もあるのですから、そちらに関連する情報がまとめられていると利用者側としてはとてもありがたいことです。LINE で情報を流してもらえると、もっとありがたいと思います。
それから宜野座村 HP ですが、モバイル版の表示もあるとアクセスしやすいと思います。
教育、保育に関するネット情報。

9) 公園・遊び場等

公園もいいのですが、雨が降ったときにでも遊べるところが欲しい。
16:00～遊ぶ場所が無いので退屈してしまいます。
道の駅にあるキッズスペースは時間帯、料金設定共に利用しにくいです。せっかく綺麗に作っているのにもったいないと思います。
3 歳未満が遊べる遊具を充実させてほしい。

10) その他

アンケートに答えたり、意見を言っても、それが実際に反映されるのか、生かされるのかすごく疑問。出る杭は打たれる、みたいな雰囲気をどの場面でもよく感じる。
都会（大きな会社）は 1 年産休がとれるところが多く見られると思うが、中小企業はなかなか産休が 1 年もとれていないと思う。せめて 1 年間はきちんととらせてあげるべきではないのかと思う。そこもまた出生率の低さにつながっていると思う。
思い出にのこるイベント、写真サービスなど。

●小学生児童調査

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、「第2期宜野座村子ども・子育て支援事業計画」の策定に伴い、本村の子どもの教育・保育に関わる現状や子育てのニーズを把握するなど、計画の策定に必要な基礎資料を得ることを目的に実施しました。

2. 実施主体

宜野座村 健康福祉課

3. 調査対象

- ・調査は、1年生から5年生の小学生児童のいる世帯の保護者に対し行いました。
- ・ニーズ把握の対象となる小学生児童は、1世帯についてそれぞれ1人だけとし、複数の小学生児童がいる世帯については、いずれか1人を無作為で選び対象としました。
- ・就学前児童と小学生児童が同居する世帯については、2種類の調査票が届くことになります。

4. 調査基準日

平成30年12月1日現在

5. 調査期間

平成31年2月18日～平成31年3月8日

6. 調査の方法

ニーズ把握の対象となる児童が在籍する小学校を通じて、調査票の配布・回収を行いました。

7. 配布・回収状況

調査票の全体の配布数は 247 件、回収数は 170 件で、回収率は 68.8%となります。

学年別の回収率では、「1 年生」が 82.5%、「2 年生」が 72.7%と高く、その他の学年では 60%台となります。

年齢層別アンケート配布・回収状況（小学生）

年齢層	配布数	回収数	回収率
全体	247	170	68.8
1 年生	40	33	82.5
2 年生	55	40	72.7
3 年生	55	34	61.8
4 年生	43	28	65.1
5 年生	54	35	64.8

8. 集計・表示について

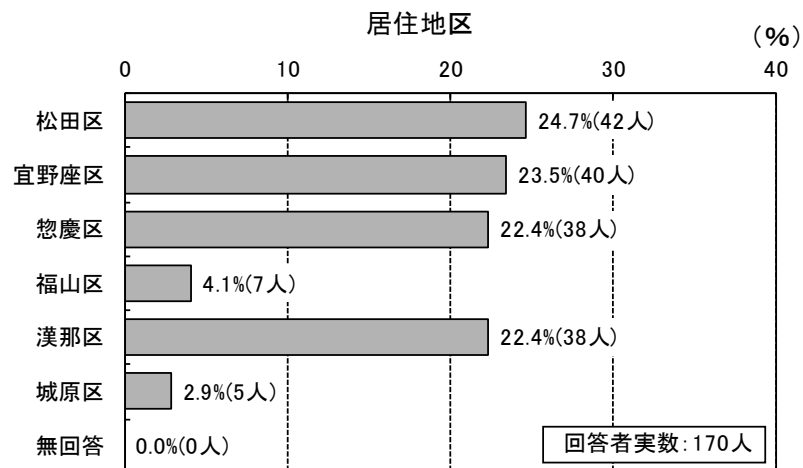
- (1) 集計は単純集計と子どもの年齢及び回答者の属性によるクロス集計を行いました。
- (2) 比率は、小数点以下第 2 位を四捨五入しています。このため比率を合計しても 100.0%とならないことがあります。
- (3) 複数回答の設問については、比率の合計が 100%を超えることがあります。
- (4) 結果が分かり易いようグラフ及びクロス表については、クロス項目の「無回答」を除いて表示する場合があります
- (5) ここで言う「子ども」とはニーズ把握の対象となる子を指します。
- (6) 「無回答」には回答がなかったもの及び回答の判別が困難(不明)なものを含みます。
- (7) 帯グラフの左端の()内は回答者実数を表します。
- (8) 報告書の文章や図表において、選択肢の一部を省略して記載している場合があります。

Ⅱ 調査結果の報告

1. 地域と小学校

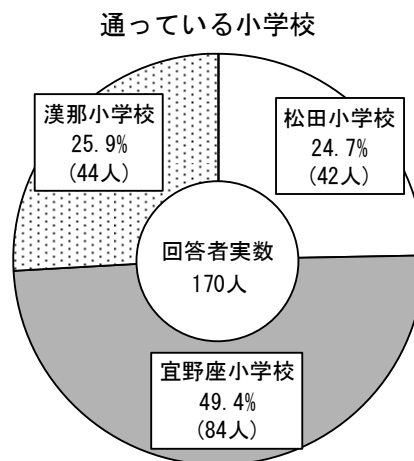
(1) 居住地区

回答者の居住地区は、「松田区」、「宜野座区」、「惣慶区」、「漢那区」がいずれも20%台で、「福山区」が4.1%、「城原区」が2.9%と低くなります。



(2) 通っている小学校

子どもが通っている小学校は、「宜野座小学校」が49.4%とほぼ半数を占め、「漢那小学校」と「松田小学校」がそれぞれ4分の1程度を占めます。



2. 家族の状況

(1) 子どもの学年・世帯の子どもの人数

回答のあった世帯の子どもの学年は、「2年生」が23.5%と最も高く、次に「5年生」が20.6%、「3年生」が20.0%で、「4年生」が16.5%と最も低くなります。

また、世帯の子どもの人数(調査対象の子を含む)は、「3人」が32.9%と最も高く、次に「2人」が31.8%となります。子どもの人数は「8人」が最多で、1世帯あたりの子どもの人数(平均)は、2.68人となります。

子どもの学年

1年生	19.4% (33人)
2年生	23.5% (40人)
3年生	20.0% (34人)
4年生	16.5% (28人)
5年生	20.6% (35人)
回答者実数	170人

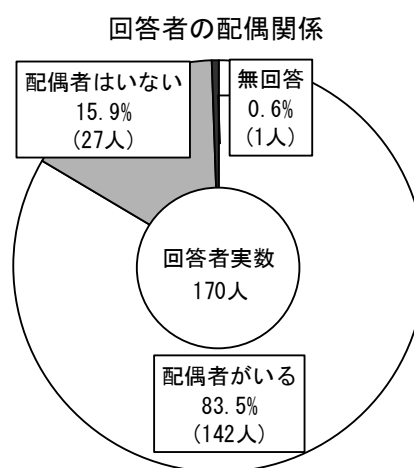
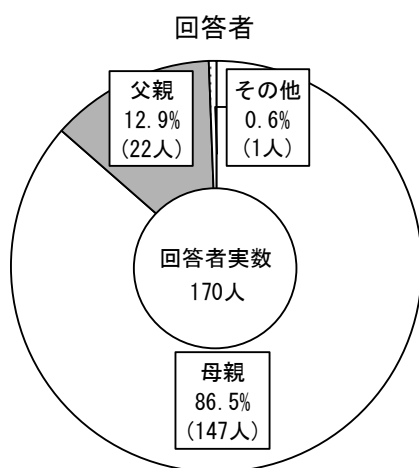
世帯の子どもの人数

1人	14.1% (24人)
2人	31.8% (54人)
3人	32.9% (56人)
4人	16.5% (28人)
5人	3.5% (6人)
6人	0.6% (1人)
8人	0.6% (1人)
回答者実数	170人

(2) 回答者・配偶関係

回答者は「母親」が86.5%、「父親」が12.9%となります。

また、回答者の配偶関係は「配偶者がいる」が83.5%、「配偶者はいない」が15.9%となります。



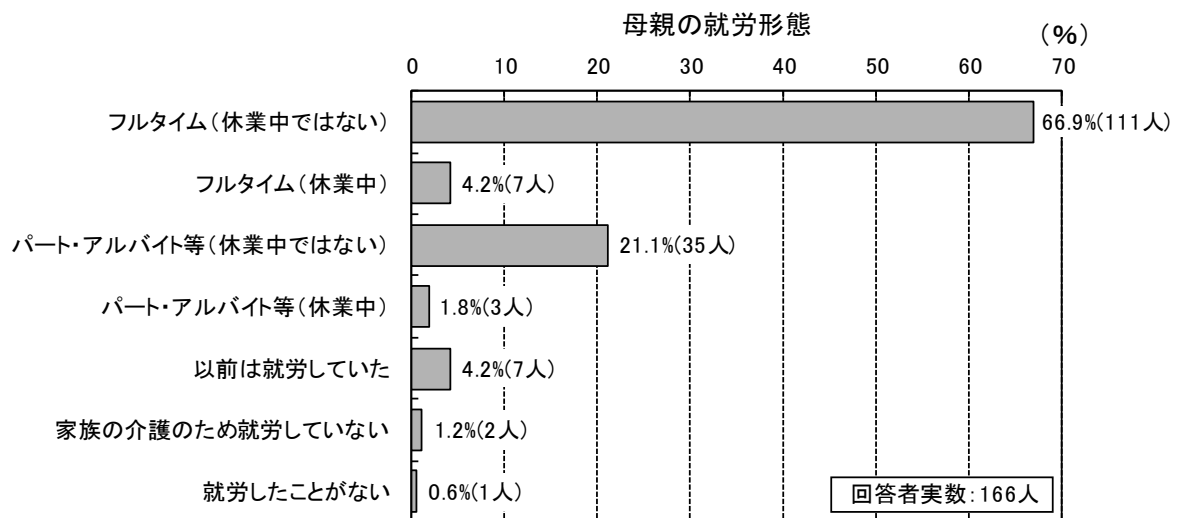
3. 保護者の就労状況

(1) 母親の就労状況

母親の現在の就労状況については、「フルタイム（休業中ではない）」が66.9%と最も高く、「フルタイム（休業中）」の4.2%を合わせると、フルタイムで就労している母親が71.1%となります。

また、「パート・アルバイト等（休業中ではない）」が21.1%、「パート・アルバイト等（休業中）」が1.8%で合わせると、パート・アルバイト等で就労している母親が全体の22.9%を占めます。

さらに、フルタイムとパート・アルバイト等を合わせると、母親の94.0%が就労しています。



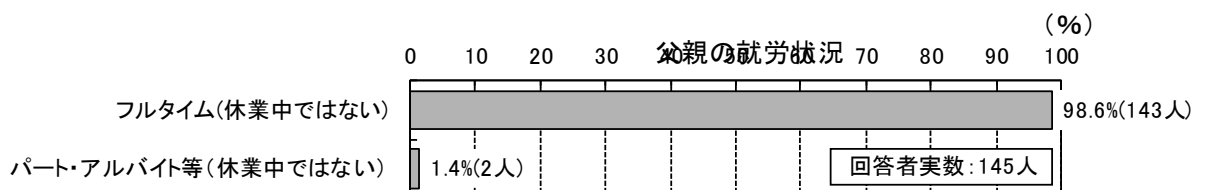
選択肢の略称	選択肢の内容
フルタイム（休業中ではない）	フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
フルタイム（休業中）	フルタイムで就労しているが、産休・育休・介護休業中である
パート・アルバイト等（休業中ではない）	パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない
パート・アルバイト等（休業中）	パート・アルバイト等で就労しているが、産休・育休・介護休業中である
以前は就労していた	以前は就労していたが、現在は就労していない
就労したことがない	これまで就労したことがない

* フルタイムとは、1週5日程度で1日8時間程度の就労

* パート・アルバイト等とは、フルタイム以外の就労

(2) 父親の就労状況

父親の現在の就労状況については、「フルタイム（休業中ではない）」が98.6%とほとんどを占め、「パート・アルバイト等（休業中ではない）」が1.4%となります。

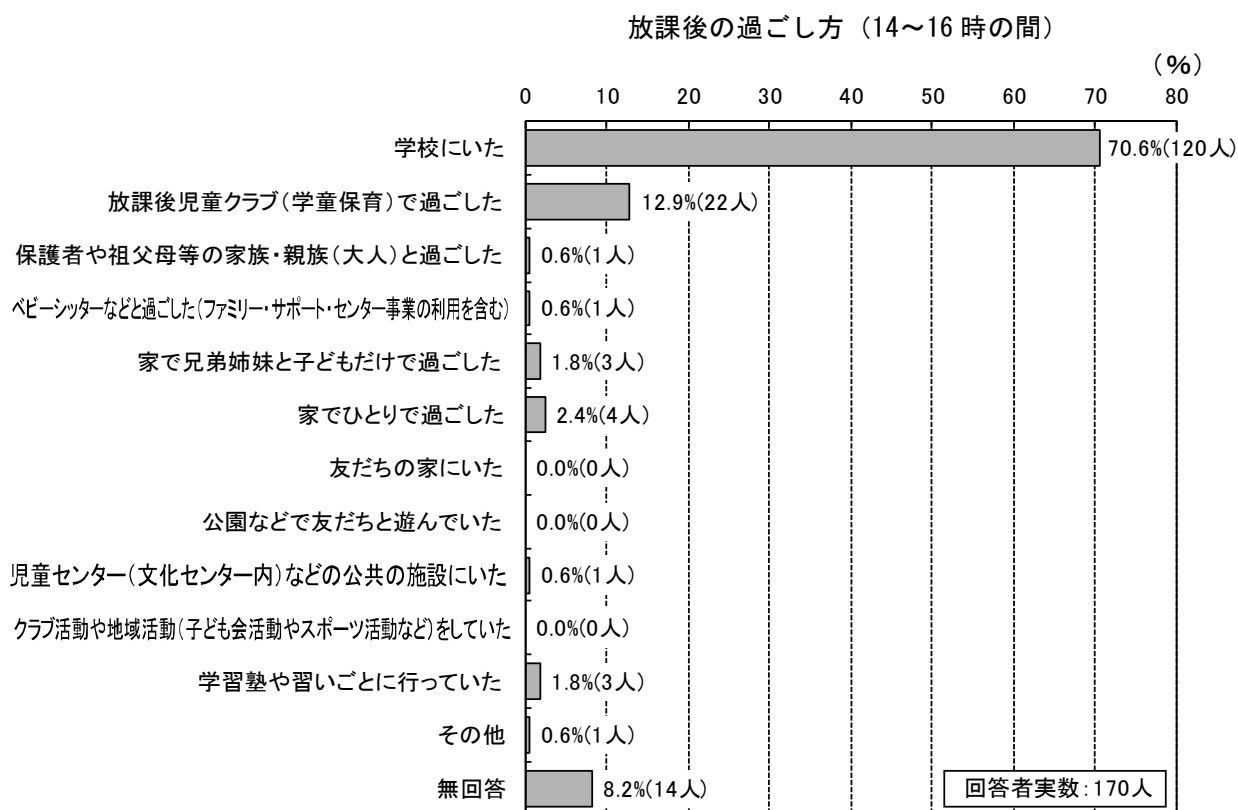


4. 放課後の過ごし方及び放課後児童クラブ

(1) 放課後の過ごし方

〈14～16 時の間〉

平日の放課後の日常的な過ごし方で、14～16時の間では、「学校にいた」が70.6%と最も高く、次に「放課後児童クラブ（学童保育）で過ごした」が12.9%となります。



割合の高かった上位2項目について、子どもの学年別にみると、「学校にいた」は、学年が上がるほど割合も高くなる傾向にあり「5年生」が91.4%と最も高く、「1年生」が48.5%と最も低くなります。

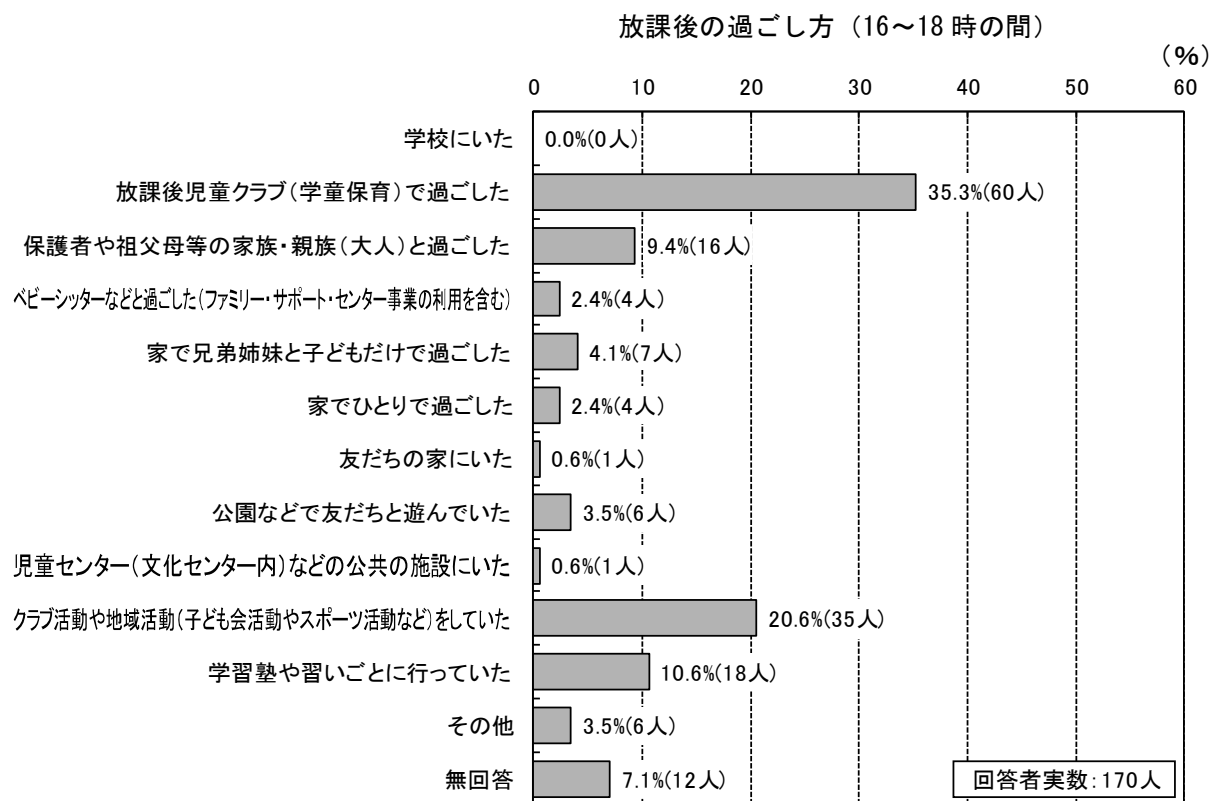
一方、「放課後児童クラブ（学童保育）で過ごした」は、「1年生」から「3年生」まで該当する子がおり「1年生」が36.4%と最も高く、学年が上がるほど割合は低く、「3年生」では2.9%となります。

放課後 14～16 時の過ごし方（学年別上位 2 項目）

	回答者 実数	学校にいた	放課後児童クラブ（学 童保育）で過ごした
1 年生	33人	48.5%（ 16人）	36.4%（ 12人）
2 年生	40人	60.0%（ 24人）	22.5%（ 9人）
3 年生	34人	73.5%（ 25人）	2.9%（ 1人）
4 年生	28人	82.1%（ 23人）	—
5 年生	35人	91.4%（ 32人）	—

〈16～18 時の間〉

16～18時の間では、「放課後児童クラブ（学童保育）で過ごした」が35.3%と最も高く、「14～16時の間」の12.9%から22.4ポイント高くなります。次に「クラブ活動や地域活動（子ども会活動やスポーツ活動など）をしていた」が20.6%、「学習塾や習い事に行っていた」が10.6%となります。



割合の高い上位4項目について、子どもの学年別にみると、「放課後児童クラブ（学童保育）で過ごした」は、「1年生」が75.8%と最も高く、学年が上がるほど割合は低くなり、「5年生」では5.7%となります。

「保護者や祖父母等の家族・親族（大人）と過ごした」は、「2年生」が15.0%と最も高く、次に「5年生」が11.4%で、「3年生」が5.9%と最も低くなります。

一方、「クラブ活動や地域活動（子ども会活動やスポーツ活動など）をしていた」は、「1年生」が6.1%と最も低く、学年が上がるほど割合も高く、「5年生」では42.9%と最も高くなります。

「学習塾や習いごとに行っていた」は、「1年生」から「4年生」にかけて、学年が上がるほど割合も高く、「4年生」で25.0%と最も高くなりますが、「5年生」では8.6%と再び低くなります。

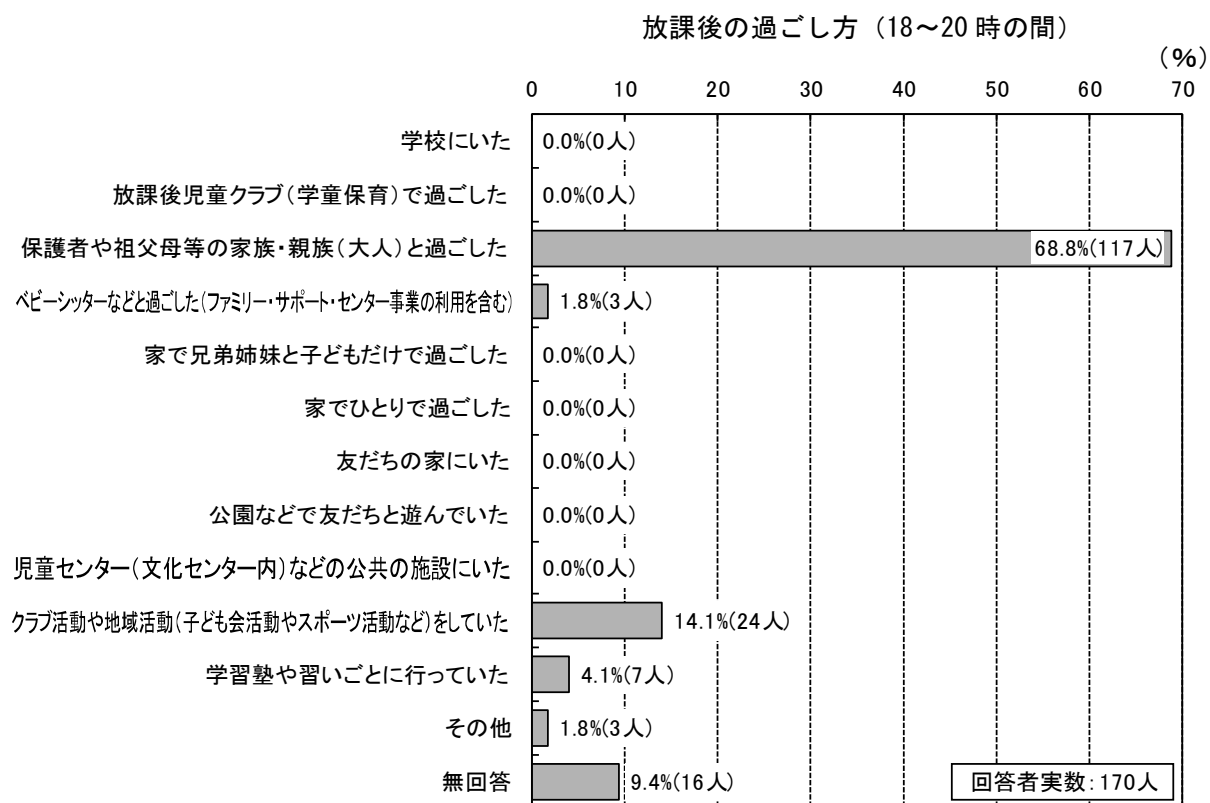
放課後 16～18 時の間の過ごし方（学年別上位 4 項目）

	回答者実数	放課後児童クラブ（学童保育）で過ごした	保護者や祖父母等の家族・親族（大人）と過ごした	クラブ活動や地域活動（子ども会活動やスポーツ活動など）をしていた	学習塾や習いごとに行っていた
1 年生	138人	75.8% (25人)	6.1% (2人)	6.1% (2人)	3.0% (1人)
2 年生	122人	45.0% (18人)	15.0% (6人)	7.5% (3人)	7.5% (3人)
3 年生	118人	38.2% (13人)	5.9% (2人)	20.6% (7人)	11.8% (4人)
4 年生	114人	7.1% (2人)	7.1% (2人)	28.6% (8人)	25.0% (7人)
5 年生	113人	5.7% (2人)	11.4% (4人)	42.9% (15人)	8.6% (3人)

〈18～20 時の間〉

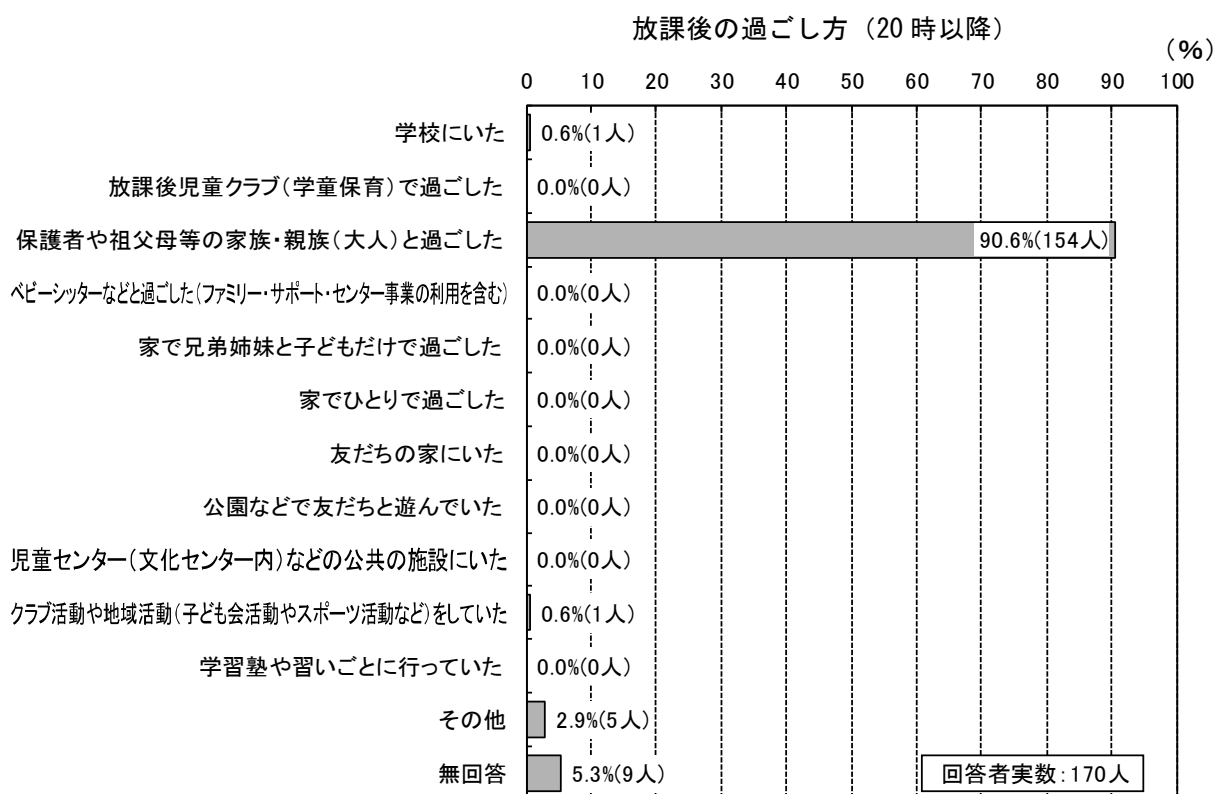
放課後18～20時の間は、「保護者や祖父母等の家族・親族（大人）と過ごした」が68.8%と最も高く、「16～18時の間」の9.4%から59.4ポイント高くなります。

次に「クラブ活動や地域活動（子ども会活動やスポーツ活動など）をしていた」が14.1%、「学習塾や習いごとに行っていた」が4.1%、となります。



〈20 時以降〉

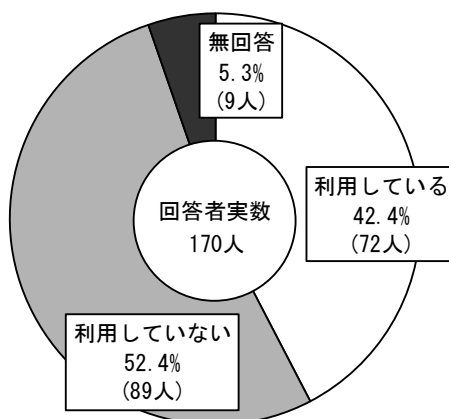
放課後20時以降でも、「保護者や祖父母等の家族・親族（大人）と過ごした」が90.6%とほとんどを占めます。



（２）放課後児童クラブの利用状況

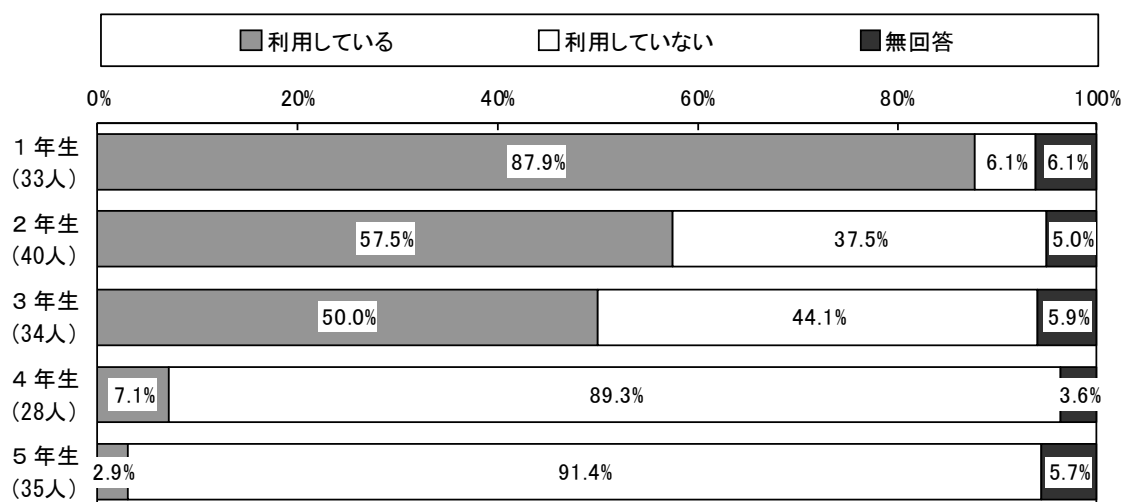
放課後児童クラブの利用については、「利用していない」が52.4%、「利用している」が42.4%となります。

放課後児童クラブの利用状況



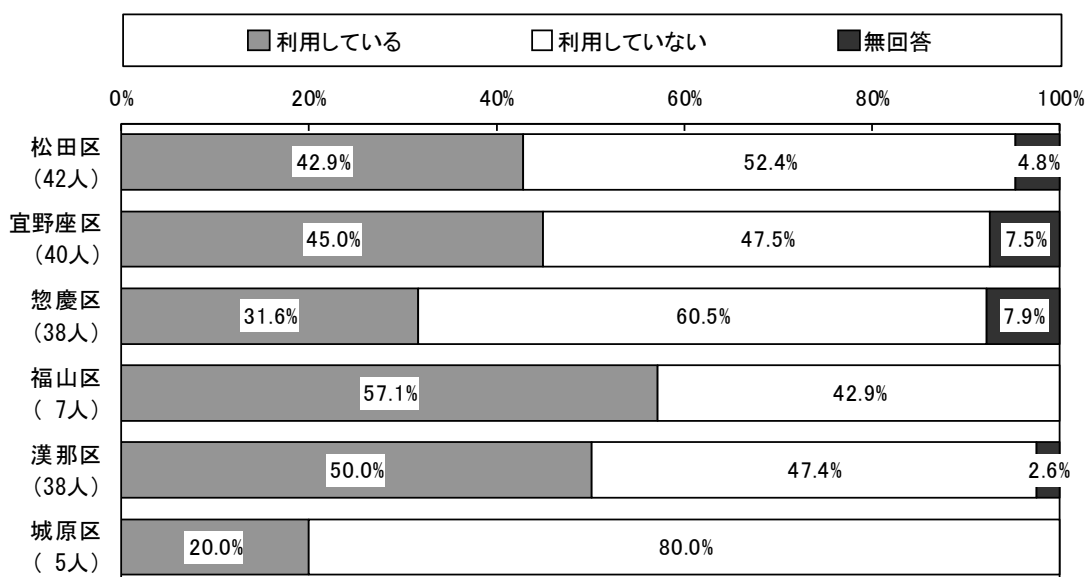
学年別にみると、「利用している」は、「1年生」が87.9%と最も高く、学年が上がるほど割合は低くなり、特に「4年生」が7.1%、「5年生」が2.9%と、「4年生」から大きく低下します。

放課後児童クラブの利用状況（学年別）



地区別にみると、「利用している」は、「福山区」が57.1%と最も高く、次に「漢那区」が50.0%で、「城原区」が20.0%と最も低くなります。

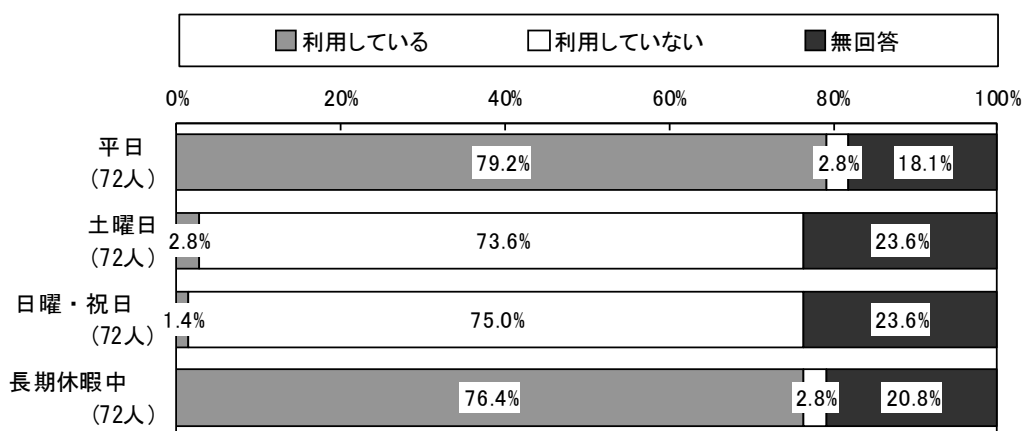
放課後児童クラブの利用状況（地区別）



(3) 放課後児童クラブの平日、土曜、日曜・祝日、長期休暇中の利用状況

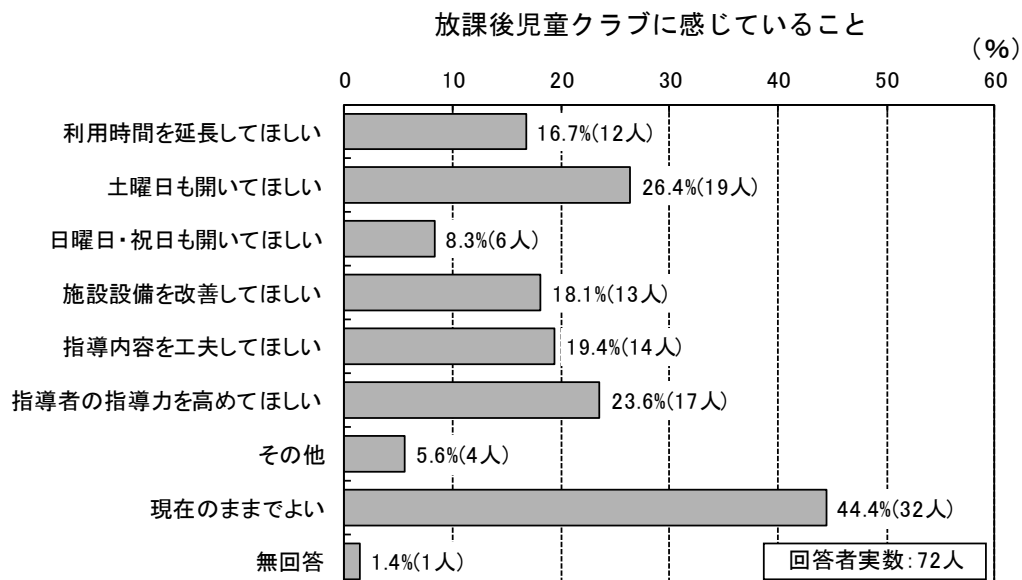
放課後児童クラブ（学童保育）を「利用している」と答えた保護者の、平日、土曜日、日曜・祝日及び長期休暇中の利用についてみると、「利用している」は、「平日」が79.2%、「長期休暇中」が76.4%と高くなります。一方、「土曜日」が2.8%、「日曜・祝日」が1.4%と低くなります。

放課後児童クラブの利用状況（平日、土曜、日曜・祝日、長期休暇別）



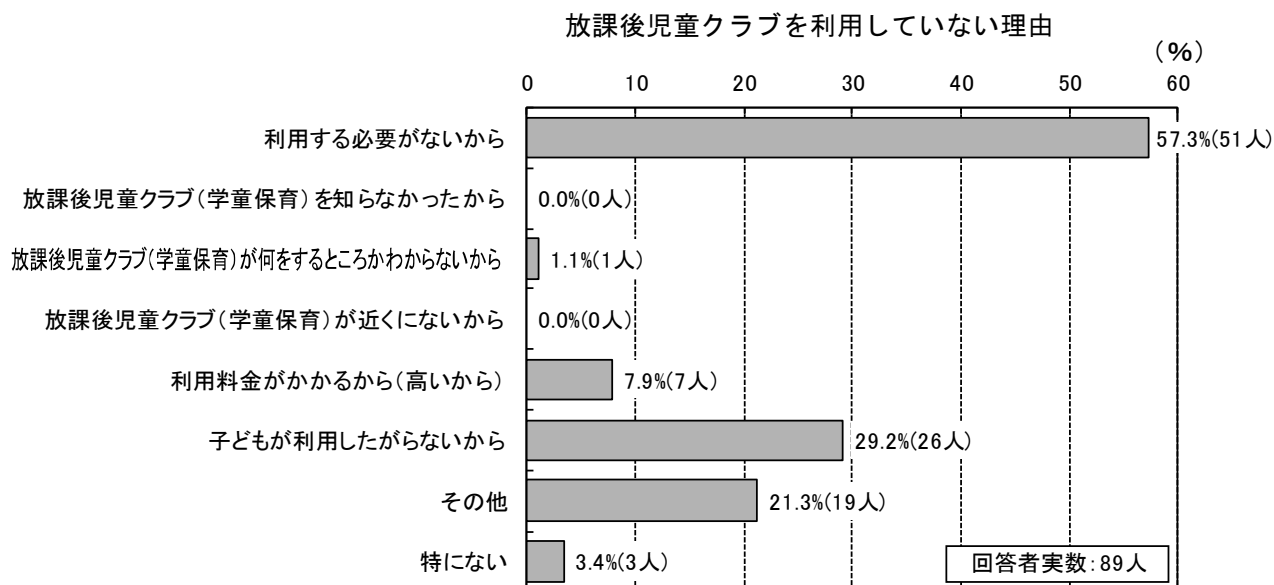
(4) 現在利用している放課後児童クラブに感じていること（複数回答）

現在利用している放課後児童クラブに感じていることは、「現在のままでよい」が44.4%と最も高く、次に「土曜日も開いてほしい」が26.4%、「指導者の指導力を高めてほしい」が23.6%となります。



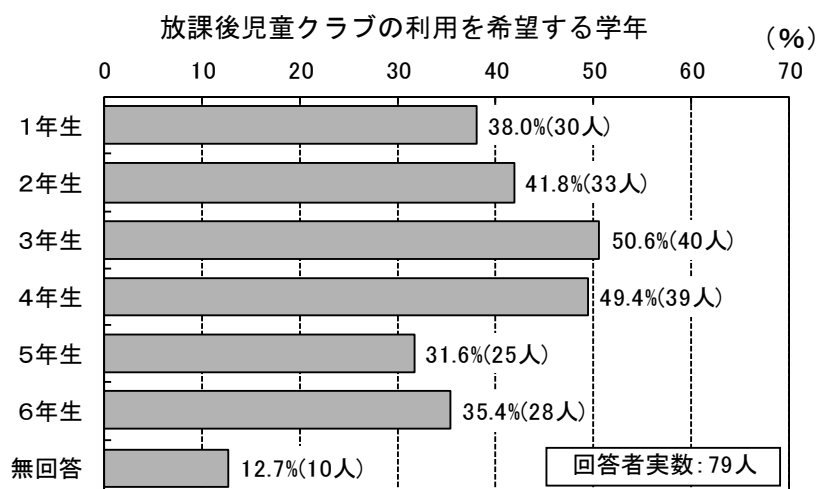
(5) 放課後児童クラブを利用していない理由（複数回答）

放課後児童クラブを「利用していない」と答えた保護者の、その理由については、「利用する必要がないから」が57.3%と最も高く、次に「子どもが利用したがらないから」が29.2%となります。



(6) 放課後児童クラブの利用を希望する学年（複数回答）

放課後児童クラブを「利用したい」と答えた保護者が、小学校卒業までの間利用したいと考えている学年は、「3年生」が50.6%と最も高く、次に「4年生」が49.4%となります。また、そのほかの学年でも31%以上の希望があります。



子どもの現在の学年を基準に、それ以降の学年の希望をみるため、現在の学年とそれ以前の学年の希望を除いてみると、現在「1年生」の子の利用希望は、「2年生」と「3年生」で61.5%と高く、次に「4年生」が42.3%となります。また、「5年生」が26.9%、「6年生」が30.8%と低くなります。

現在「2年生」の子の利用希望は、学年が上がるほど割合は低くなる傾向にあり、「3年生」が60.7%と最も高く、「6年生」が21.4%と最も低くなります。

現在「3年生」の子の利用希望は、「4年生」と「6年生」で58.8%と高く、「5年生」が41.2%となります。

現在「4年生」の利用希望は、「5年生」が40.0%、「6年生」が60.0%となります。また、現在「5年生」の子の利用希望は、「6年生」で33.3%となります。

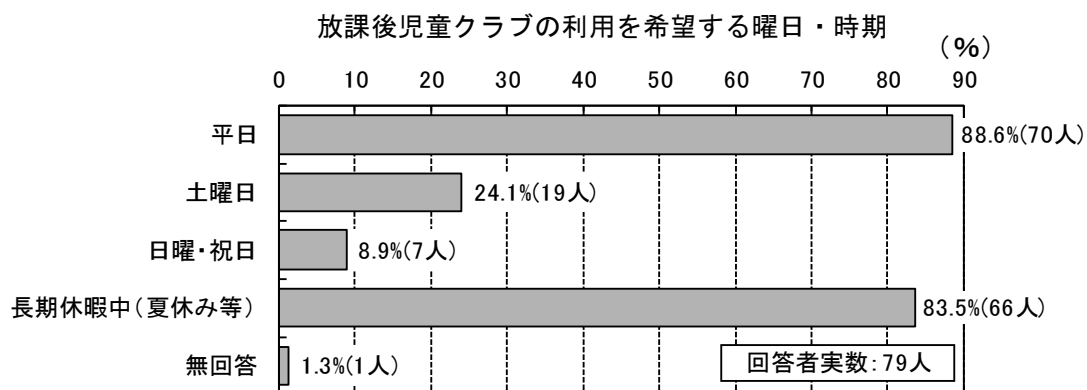
放課後児童クラブの利用を希望する学年（学年別）

現在の学年	回答者実数	利用を希望する学年						無回答
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	
1年生	79人		61.5% (16人)	61.5% (16人)	42.3% (11人)	26.9% (7人)	30.8% (8人)	15.4% (4人)
2年生	61人			60.7% (17人)	53.6% (15人)	25.0% (7人)	21.4% (6人)	14.3% (4人)
3年生	36人				58.8% (10人)	41.2% (7人)	58.8% (10人)	11.8% (2人)
4年生	20人					40.0% (2人)	60.0% (3人)	—
5年生	10人						33.3% (1人)	—

(7) 放課後児童クラブの平日、土曜、日曜・祝日、長期休暇中の利用希望について（複数回答）

放課後児童クラブを「利用したい」と答えた保護者の、平日、土曜日、日曜・祝日及び長期休暇中の利用希望については、「平日」が88.6%と最も高く、次に「長期休暇中」が83.5%となります。

また、「土曜日」の希望が24.1%、「日曜・祝日」の希望が8.9%となります。



学年別にみると「平日」の利用希望は、「2年生」が100.0%で、「5年生」が66.7%と最も低く、そのほかの学年では80%台の割合となります。

「土曜日」と「日曜・祝日」をみると、「1年生」から「3年生」にかけて回答があり、学年が高いほど割合が低くなります。

「長期休暇中（夏休み等）」の利用は、「3年生」が100.0%で、次に「1年生」が88.5%、「2年生」が70%台で、「4年生」と「5年生」が60%台となります。

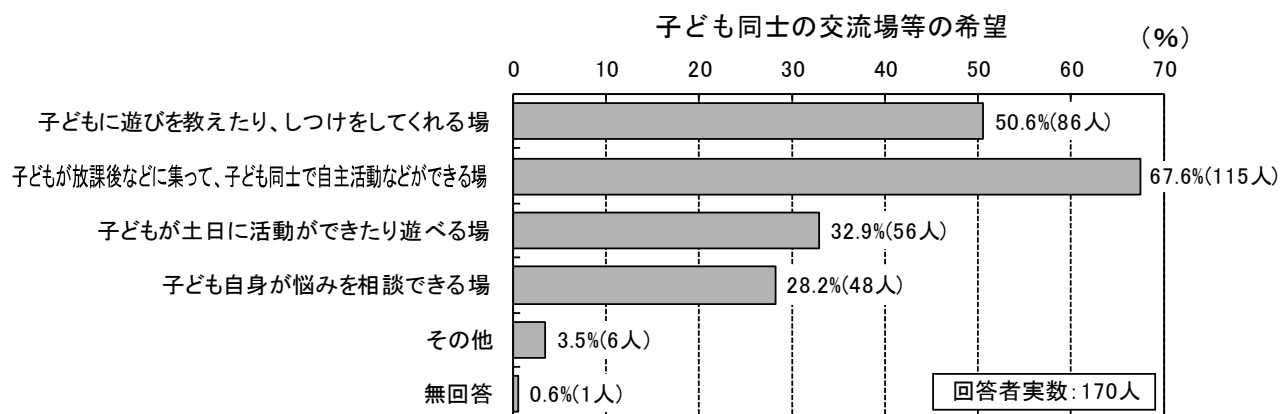
放課後児童クラブの利用希望（平日、土曜、日曜・祝日、長期休暇別）

	回答者 実数	平日	土曜日	日曜・祝日	長期休暇中 (夏休み等)
1年生	26人	84.6% (22人)	30.8% (8人)	11.5% (3人)	88.5% (23人)
2年生	28人	100.0% (28人)	25.0% (7人)	10.7% (3人)	75.0% (21人)
3年生	17人	82.4% (14人)	23.5% (4人)	5.9% (1人)	100.0% (17人)
4年生	5人	80.0% (4人)	—	—	60.0% (3人)
5年生	3人	66.7% (2人)	—	—	66.7% (2人)

5. 地域活動など

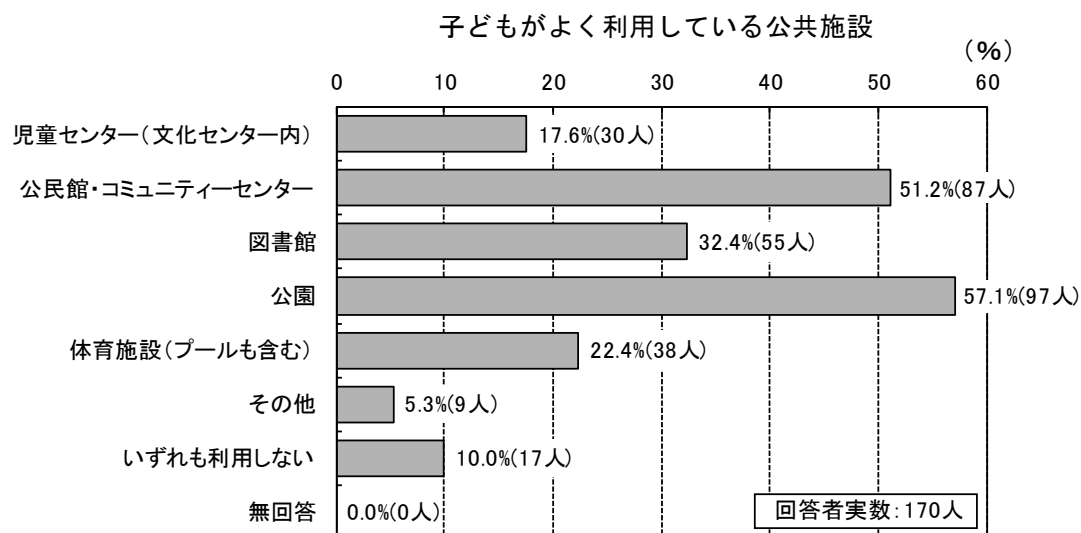
(1) 子ども同士の交流の場等の希望（複数回答）

身近な地域で、子ども同士が交流等を行うことのできる場ができた場合、どのようなことを希望するかについては、「子どもが放課後などに集って、子ども同士で自主活動などができる場」が67.6%と最も高く、次に「子どもに遊びを教えたり、しつけをしてくれる場」が50.6%となります。



(2) よく利用している公共施設

子どもがよく利用している公共施設は、「公園」が57.1%と最も高く、次に「公民館・コミュニティセンター」が51.2%、「図書館」が32.4%となります。



子どもが通っている小学校別にみると、「公園」は、「松田小学校」が66.7%と高く、「宜野座小学校」と「漢那小学校」が50%台の割合となります。

「児童センター（文化センター内）」は、「宜野座小学校」が27.4%と高く、「漢那小学校」が9.1%、「松田小学校」が7.1%と低くなります。一方、「公民館・コミュニティセンター」は、「松田小学校」が61.9%と最も高く、「宜野座小学校」と「漢那小学校」は47%台となります。

「図書館」は、「漢那小学校」が29.5%と最も低く、「体育施設（プールも含む）」も「漢那小学校」が13.6%と最も低くなります。また、「いずれも利用しない」は、「漢那小学校」が18.2%と高く、「松田小学校」と「宜野座小学校」がともに7.1%と低くなります。

子どもがよく利用している公共施設（小学校区別）

	回答者実数	児童センター（文化センター内）	公民館・コミュニティセンター	図書館	公園	体育施設（プールも含む）	その他	いずれも利用しない
松田小学校	42人	7.1% (3人)	61.9% (26人)	35.7% (15人)	66.7% (28人)	23.8% (10人)	2.4% (1人)	7.1% (3人)
宜野座小学校	84人	27.4% (23人)	47.6% (40人)	32.1% (27人)	52.4% (44人)	26.2% (22人)	4.8% (4人)	7.1% (6人)
漢那小学校	44人	9.1% (4人)	47.7% (21人)	29.5% (13人)	56.8% (25人)	13.6% (6人)	9.1% (4人)	18.2% (8人)

地区別にみると、「児童センター（文化センター内）」は、「宜野座区」が40.0%と最も高く、次に「惣慶区」が15.8%、「松田区」が7.1%と最も低くなります。

「公民館・コミュニティセンター」は、「福山区」が71.4%と最も高く、次に「松田区」が61.9%で、「宜野座区」が35.0%と最も低くなります。

また、「図書館」と「公園」、「体育施設」は、「城原区」が最も高くなります。

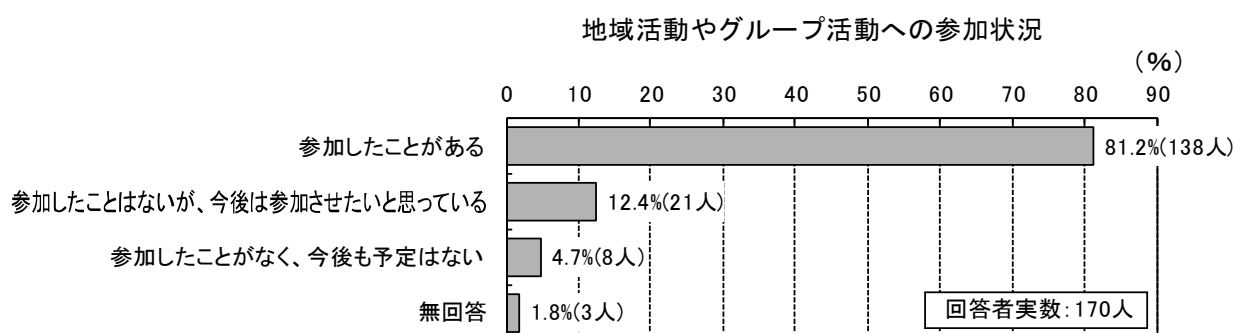
子どもがよく利用している公共施設（小学校区別）

	回答者実数	児童センター（文化センター内）	公民館・コミュニティセンター	図書館	公園	体育施設（プールも含む）	その他	いずれも利用しない
松田区	42人	7.1% (3人)	61.9% (26人)	35.7% (15人)	66.7% (28人)	23.8% (10人)	2.4% (1人)	7.1% (3人)
宜野座区	40人	40.0% (16人)	35.0% (14人)	35.0% (14人)	60.0% (24人)	30.0% (12人)	5.0% (2人)	
惣慶区	38人	15.8% (6人)	57.9% (22人)	34.2% (13人)	47.4% (18人)	23.7% (9人)	5.3% (2人)	13.2% (5人)
福山区	7人	14.3% (1人)	71.4% (5人)		42.9% (3人)	14.3% (1人)		14.3% (1人)
漢那区	38人	10.5% (4人)	47.4% (18人)	26.3% (10人)	52.6% (20人)	10.5% (4人)	10.5% (4人)	18.4% (7人)
城原区	5人		40.0% (2人)	60.0% (3人)	80.0% (4人)	40.0% (2人)		20.0% (1人)

（４）地域活動やグループ活動への参加状況

子どもの地域活動やグループ活動への参加については、「参加したことがある」が81.2%とほとんどを占めます。

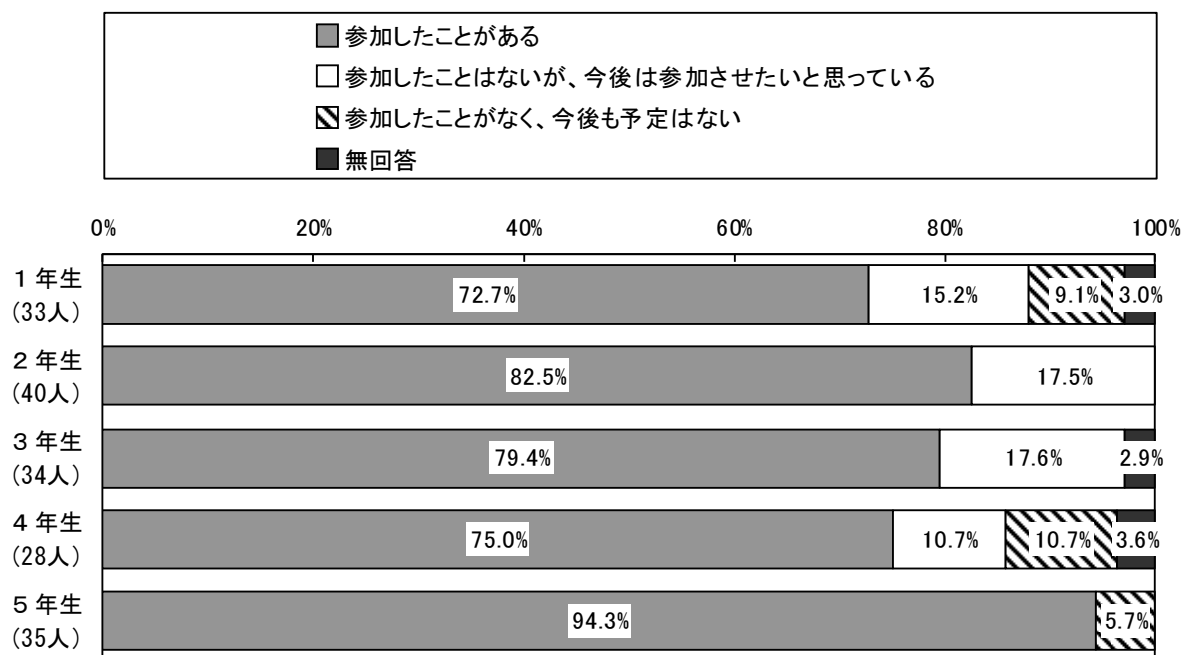
一方、「参加したことはないが、今後は参加させたいと思っている」が12.4%、「参加したことがなく、今後もしない」が4.7%となります。



学年別にみると、「参加したことがある」は、「5年生」が94.3%と最も高く、次に「2年生」が82.5%となります。また、「1年生」と「3年生」、「4年生」が70%台となります。

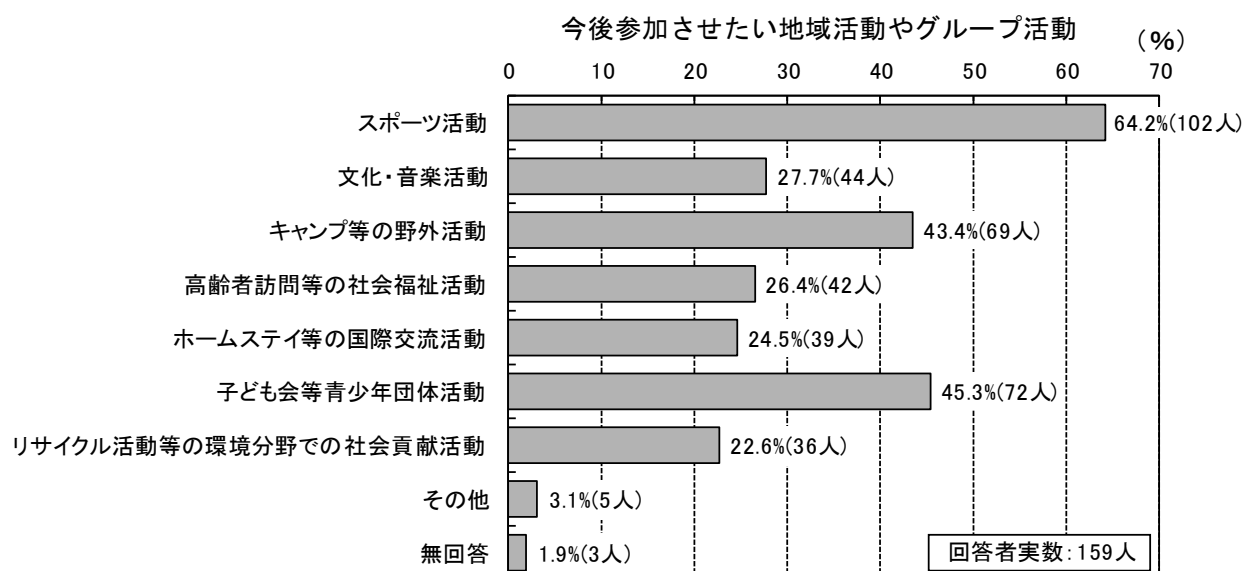
「参加したことはないが、今後は参加させたいと思っている」は、「1年生」から「4年生」の各学年でいずれも10%台の割合となっていますが、「5年生」の回答はありません。

地域活動やグループ活動への参加状況（学年別）



(5) 今後参加させたい地域活動やグループ活動（複数回答）

地域活動やグループ活動に「参加したことがある」、「参加したことはないが、今後は参加させたいと思っている」と答えた保護者が、今後参加させたい地域活動やグループ活動は、「スポーツ活動」が64.2%と最も高く、次に「子ども会等青少年団体活動」が45.3%、「キャンプ等の野外活動」が43.4%となります。



子どもの学年別にみると、「スポーツ活動」は、「5年生」が75.8%と最も高く、そのほかの学年は60%前後の割合となります。

「キャンプ等の野外活動」は、「1年生」から「4年生」にかけて学年が上がるほど割合は高くなる傾向にあり、「4年生」が66.7%と最も高く、次に「5年生」が54.5%となります。

今後参加させたい地域活動やグループ活動（学年別）

	回答者実数	スポーツ活動	文化・音楽活動	キャンプ等の野外活動	高齢者訪問等の社会福祉活動	ホームステイ等の国際交流活動	子ども会等青少年団体活動	リサイクル活動等の環境分野での社会貢献活動	その他	無回答
1年生	29人	62.1% (18人)	20.7% (6人)	24.1% (7人)	17.2% (5人)	20.7% (6人)	34.5% (10人)	24.1% (7人)	3.4% (1人)	6.9% (2人)
2年生	40人	57.5% (23人)	20.0% (8人)	30.0% (12人)	27.5% (11人)	22.5% (9人)	65.0% (26人)	20.0% (8人)	7.5% (3人)	2.5% (1人)
3年生	33人	63.6% (21人)	39.4% (13人)	48.5% (16人)	36.4% (12人)	24.2% (8人)	39.4% (13人)	21.2% (7人)	3.0% (1人)	—
4年生	24人	62.5% (15人)	20.8% (5人)	66.7% (16人)	16.7% (4人)	16.7% (4人)	37.5% (9人)	16.7% (4人)	—	—
5年生	33人	75.8% (25人)	36.4% (12人)	54.5% (18人)	30.3% (10人)	36.4% (12人)	42.4% (14人)	30.3% (10人)	—	—

Ⅲ 保護者自由意見・要望等

本調査において、問 20（子育ての環境や支援に関する意見・要望）について、自由記述による意見等を求めました。ここでは、記述された意見等の概要について報告します。

問 20 最後に、子育ての環境や支援に関してご意見がございましたら、ご自由にご記入ください。

（概要）

子育ての環境や支援についての意見等は、48 人から寄せられ、これを 8 項目に分類しました。

なお、1 人の意見等が複数の項目に及んでいる場合は、意見等を分割して、それぞれの項目に含めました。（例えば「子ども達が安心して遊べる公園の設置や学童の設置」は、「子ども達が安心して遊べる公園の設置」を「公共施設等」の項目に、「学童の設置」を「放課後の子どもの居場所」の項目に）このため、各項目の意見等の件数を合わせると、記述者の実数とは一致しません。

意見等としては「放課後等の子どもの居場所」が 20 件と最も多く、次に「地域の環境」が 8 件、「地域交流」が 6 件、「教育について」と「習い事・部活動」、「その他」が 5 件となります。

ここでは上位 6 項目について以下にその内容を取りまとめて報告します。

「放課後等の子どもの居場所」については、子どもが安全に放課後過ごせる場所として学童保育を望む意見が最も多く、利用時間の拡大等の要望もあります。

「地域の環境」については、子どもを中心とした地域環境として、地域での子育てや地域での見守りを望む意見があります。

「地域交流」については、地域の高齢者との交流を通した、昔遊びや伝統の継承を学ぶイベントを希望する声があります。

「教育について」は、けがや事故から身を守る安全講習会の開催について要望があります。また、学校で子どもを支援する仕組みについての意見があります。

「習い事・部活動」については、学習塾や、英語、プログラミング等の習い事を望む声や、部活動への支援を希望する意見があります。

「その他」については、宜野座村全体で子育て支援を行うことへの意見があります。

子育ての環境や支援に関する意見・要望等（問 20）

意見分類	件数	意見分類	件数
1)放課後等の子どもの居場所	20 件	5)習い事・部活動	5 件
2)地域の環境	8 件	6)公共施設等	4 件
3)地域交流	6 件	7)経済的なこと	2 件
4)教育について	5 件	8)その他	5 件

1) 放課後等の子どもの居場所

長期休暇中の学童クラブ利用方法について検討して頂きたいと思います。長期休暇中のみの活用ができるようになってほしい。活動内容にもっと幅がほしい(スイミングスクールとの提携など)。博物館や美術館に出かける機会があるといい。 松田では、料金を安く設定しているため、利用制限があります。他のクラブを選ぶことができないなかで、利用制限があるのはとても困ります。希望者が利用できるように料金も含めて見直しをして頂けると助かります。 いろいろな活動があり、子ども達は、村内でたくさんの経験をすることができています。いつもありがとうございます。
長期休暇中（夏休み等）の預け先がなく、子供を一人にするので心苦しい。
夏休み、冬休みの長期休みの時だけ、放課後児童クラブを利用したいという方も多くいます。期間限定の利用が可能になると助かる（人数制限により、児童クラブに入れなかった子は特に）。
このアンケートがある事が、宜野座村が子育てに関して、配慮してくれているという事がとてもありがたいです。 放課後の過ごし方について、学童があって本当に助かっています。定員等の関係で対象者が入れない事もあると聞きました。どうか、安心して子育ても仕事もできる宜野座村であってほしいです。よろしくお願いします。
学校が終わって、学童で子どもを見てくれるので、とてもありがたいと感じています。18：30 まで時間を伸ばしていただけると助かります!!
夫婦仕事をしている為、学校が終わって独りで留守番をさせるのも心配で、学童があることがとてもたすかります。本人が行きやすい様な環境があればとても楽しく過ごせると思うのですが、なかなか大変な様です。部屋も広く、いろいろ活動が出来る場であればと思うのですが、なかなか預かってもらっている身としては、要望も出来ないのが困っています。自分の仕事が休みの時は、家に帰って来るようにしていますが、やっぱり友達と遊びたいようで楽しいとは思っていない様です。
放課後児童クラブの指導者の指導力を高めてほしい。安心して子どもを預けたい。
学童の施設を整えてほしい。遊びのスペース、体を十分に動かして遊べるように遊びの充実を図ってほしい。
学童保育を学校校舎内で行ってほしい（安全上の問題）。
土曜日、日曜日、祝日に仕事をしている。一人親にとっては、子どもを預ける場所が少ないので、増やしてくれると有り難いです。
現在 18：00 迄を、18：30 迄に延長して欲しい。 学童での行事の充実。
子どもが高学年になるため、現在の学童で満足している。低学年世帯の人たちで、困っている事があるのなら自分で動くべき。待っているだけでは何も変わらない。
小学校 1、2 年の頃学童があり、とても助かった。

放課後学童クラブに任せっきりになると、親が子供の勉強や生活において、目が届かなくなるおそれがあるのではないかと（学問の低下、生活態度の悪化）。 親も、放課後子供と向き合える様に親が介入できるようなシステムが必要ではないか。仕事が平日忙しいので、何かいい方法を生み出せばいいのですが…。もしくは、学童クラブの環境をもっと、質の向上（子供の自主性）を高められる様にする etc…。たくさんの大人が関われる様になればいいのでは。
高学年が集まって、活動、遊びができる場があったらと思ったりします。子ども同士のトラブルがないよう、大人が見守れる環境だと助かります。
村全体で学童の充実を図ってほしいです。送迎、時間の延長、おやつ、質・量、支援員の子ども（保護者）への対応。預かり料はもう少し負担しても良いので…。
学童支援の充実（受け入れ人数の問題のみ）。学童に入れない子が出てくるので、なんとか、皆が利用できる様にしてほしい。 ※先生方は一生懸命やって頂いていてありがたいです。
漢那でも学童は、3年生までと決まっています。1人で留守番も怖がるし、4年になったらどうするのか？と思います。部活など、本人が入りたい部活がなかったら…。
学童は2年生の4月までしか行けなかったのですが、学童は宿題もさせてくれると良いと思います。 今、3年で部活のない日は家か友達と遊んでいるようですが、私が仕事のため、目が行き届かず、やはり心配な面もあります。
保護者それぞれで考え方が違うと思うが、子どもが低学年や小学校在学の時、パソコンを学びたがっていて漢那区にお願いしたら行政区が違うのでできないといわれという一つの情報もあります。現在、いろんな方々のはからいで漢名区の学童でお世話になっています。仕事をするこもでき、祖父母への負担も少なくすんでいます。何より、子ども同士のかかわりができ宿題も教えてもらったり、子ども同士で教え合ったり、とてもいい環境にあります。感謝しています。時間的にも子どもの勉強をみてあげることができず助かっています。子ども同士で教え合ったり、自分で勉強する程度がほしい。 思いを書きました。将来ある子ども達のために何ができるか皆で考えたい。相談できる場所がほしい。

2) 地域の環境

PTA 活動、学童クラブの活動、子ども会活動など、子ども達の活動できる場が広がって、親の役割も増えています。その中で「教育となり組」という活動もありますが、子ども達中心の活動ではなくなってきました。各部落単位で活動しているようですが、中身が薄いです。小学生の親が班長の役割をしており、月に1回集まりますが、子育て世代の親の参加はなく、高齢者の集まりになっています。もあいもしており、金銭トラブルが発生したり問題が出てきており、なんとかならないものかと悩むこともあります。子ども会でカバーできそうな内容なので、「となり組」を減らし、子ども会活動だけにしてほしいです。親の役割が多くて子ども達とゆっくり話す余裕がないです。
親の教育はもちろん必要だと思いますが、地域で育てるということも大切だと思います。子どもが安心して活動できる地域であるよう、周りの環境作りにも力を入れてほしいです。

登下校の安全の配慮。地域での見守り。
最近では、子どもが巻き込まれる事件、事故が数多く、いざという時に、安全に逃げ込める場所がもっとあれば、安心できるかなと思う。また、子ども達にその場所を教えるための MAP 等があれば大変たすかる。
最近、子どもが巻き込まれる犯罪が多発しています。その傾向もあって、自治体では色々な対策をとっている事をよくテレビで見ることがあります。例えば、犬を飼っている自宅に協力をお願いし、子ども達が学校から帰る時間帯に散歩してもらうとか、ある自治体では公園にカメラを設置して、未然に犯罪の抑止力にもなっているところもあるそうです。 時代が進むにつれて、巧妙化する事件にも、対応が急がれる時代なのかもしれません。
城原区と漢那区の行政区によって、子どもを育てる環境に大きな差を感じている。同じ学校に通っていて、子どもが差を感じている。子ども間の学力の差、人間関係にも問題が出ているように思う。どのような所が違うのか調べて感じてほしいと、訴えてきたが行政区が違うという返事でした。むなしさばかりです、諦めています（しょうがない）。 少ない子ども達なりに、いろんな行事をもってくれています（城原子ども会）、それはそれで子ども達のためになっていると思います。 現在、子どもがいる人だけでなく、小学生の時困ったことはなかったか調べてほしい（城原区）。
近年、“安全性” “不審者” 送迎しないのは虐待等、子どもが自由に動けない時代です。村には、図書館や児童館がありますが、放課後送ることができずに利用することができません。放課後、村内を周るバス等があれば、もっと子ども達の利用の幅が広がるのではと思ったりします。迎えは出来ても、施設へ送って行くことが困難です。
区によって利用料に対する区からの補助額に差があり、利用するにも経済的負担に不公平感があります。

3) 地域交流

地域のおじいちゃん・おばあちゃん達と交流するような活動を望みます。
地域の方々の人材を活かして、学童の時間帯に公開授業等を実施して、伝統の継承や昔あそび、また、職業を活かした体験を子ども達にしてあげれるシステムがあればいいと思います（お互いの交流や地域の活性化）。 とても恵まれた環境での子育てに感謝しています。当たり前ではない事を子ども達に伝えていきたいです。
学校と地域がもっと連携をとってほしい。地域に入っていくには親も同伴など壁がある。 障害児への理解がない（村の対応、地域の対応）。
区内外に限定せず、全体的に子ども達を遊ばせたり交流できる企画があってもいいと思います。
おじいちゃん、おばあちゃんと交流できる機会をつくって頂けるとありがたい。
各区においての子ども達との関わり方（活動）はあまり知らないのですが、公共の施設等を使用し、1 年を通して定期的に老人会の方から昔の遊びやおもちゃ作り、地域の方を講師にお豆腐作り、何例に関係なく人材を発掘して様々な分野の体験学習等、頭と使って、体を使って「じんぶん」を引き出す!! こういう体験が、宜野座で育った思い出となって心に残るかもしれません。

4) 教育について

幼稚園は早く 2 年制にしてほしい。 アンケートの結果をちゃんと公表し、真に子育てに役立ててほしい。
自転車などの安全講習会（子ども向け）を行ってほしい。
現在、村内の学校に通う支援学級の子ども達、またはこれから、支援学級入級予定の子ども達が全体的な支援を安心して受けて、支援の環境作り、学習取り組みを、今よりも充実に取り組んでほしい。支援環境が子ども達、保護者に対してついていけないと思う。 障害の数値や、学校生活、コミュニケーション能力が高いということだけで、支援学校へ行けない子や、集団生活が苦手、その他支援学級に在籍の子供のための、軽度・中度の子たちが通える、支援学校を作ってほしい。障害の数値、見た目で判断しないでほしいと思う。重度の子達が安心して通える支援学校はあるのに、なぜ、軽度の・中度の子達が通える支援学校がないのか疑問に思う。
スクールカウンセラーが月に 1 回しか来ないし、低学年はあまり利用しないように言われた。子どもの悩みについて、村でも対応していただけると助かります。
子ども達が自由に遊んだり、活動ができない事が多い。大人がケガや危険な事に制限をかけすぎているため。本来、経験して成長する事が出来ていないと思う。親の自分も含めて、多少のケガをしても、いろいろな体験・野外活動をさせたい。

5) 習い事・部活動

学習塾だけでなく、IT 系、ロボット作りやプログラミング等が学べる場がほしい。
学力向上に関する場所・施設が少ない。英語塾やプール等を週 2～3 回村外に通わせている。送迎の負担が大きく、悩んでいる。村営塾の小学生版を週 1 でもあるといいなと思う。 また、海外へ交流等も小学生から行かせてほしい。 陸上などのスポーツに関しては力を入れている感じはするが、学力の面でこのままで大丈夫なのかと不安を感じる事がある。夏休みにある講座（英語教室）等を、年間を通してやってほしい。村が無理なら、学童で取り入れる事も希望。学童で週 1 回講師を呼んで指導を受けたい人はプラス受講料でも構わない…。 漢字検定の補助はあるのに英検がないのは寂しい。英検だけではなく、多々の検定補助があればうれしい、やる気が起こる。年間最大（5,000 円）とか補助の制限を決めればいいと思う（実はすでに、こういった補助制度があるというなら、もっと周知してほしい）。
柔道教室ができると、とても嬉しいです。
小学生になると部活動に加わり、休日は試合による送迎に時間をとられてしまっている。部によっては、審判がいないと試合に出られないなどでできている。平日の練習も、保護者がボランティアで子どもたちの指導をしている。外部コーチなどへの支援がとてもほしい。
地域の部活動に入部させているが、監督などが来るまでは、部活が始まることはできません。子どもが、安全に部活動ができ、参加できるような環境があれば良いと思います。 中学校は、先生が部活動をみてくれますが、小学校では先生が部活動をみてくれません。保護者は、共働きで、部活動の開始時間に間に合いません。小学校の部活支援があったら良いと思います。

6) 公共施設等

総合グラウンド（陸上競技グラウンド）の整備、金武町のようなグラウンドが理想的ですが…。野球以外のスポーツにもお金をかけても良いのではないのでしょうか。
児童センターや図書館などを利用したくても、住んでいる所から離れているので、保護者の送迎がないとなかなか利用出来ないのも、村内の巡回バスなどあればいいなあと思います。
宜野座村周辺の病院マップを作ってほしい（移住してきた方は、地理にうとく、周辺に何があるか分からない事が多い）。
皮膚科や耳鼻科等、近くに（かんな病院内）毎日受診出来る医療機関がほしい。 障害児リハビリ施設があればと思います。

7) 経済的なこと

問 19 の選択肢 5 番（ホームステイ等の国際交流活動）等も素晴らしい活動だけど、経済的に出来ない事。父親 1 人の収入では、生活させて行くのがむずかしく、今月の生活や教育費にも頭がいたい。
子育て支援について、給食費、第 3 子目無料などがありますが、1 人 1 人に支援があるようにしてほしい。第 3 子目が小学生ですが、第 1 子目が高校生のため第 3 子目無料に該当していません。

8) その他

宜野座村の子育て支援環境には大変満足している。その感謝の気持ちを子供達と一緒に地域への恩返しができる様にこれからいろいろな活動へも参加していきたいと思っています。
子ども自身が自分で自分の身を守る方法（虐待、デートDV、いじめ等）を（例：CAP 利用）、村全体で取り入れて欲しいです（教師や保護者も巻き込んで）。
アンケート結果を公表。
区によって差があるので、子供については宜野座村統一で支援を受けられるようにしていただきたいです。
問 2 の住んでいる地域選択のうち、福山区と城原区は人口が少なく、学年を回答すると個人が特定される（学年に対象児童が 1 名の場合がある）。少し考慮した方がいいかと思います。

